

授業概要

科目名	情報リテラシーⅠ	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	株式会社 プレーンスタッフコンサルティング			
学科 コース	社会福祉科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間	
【授業を通じての到達目標】										
・新しいテクノロジーや情報を扱うための基礎的な知識や注意点を理解し、正しく活用できる ・Wordを利用し、複合文書を作成できる ・マナーを守ってメールを作成できる ・Excelを利用し表計算やグラフ作成を行える										
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)										
滋慶学園グループの企業である(株)プレーンスタッフコンサルティングのラーニングマネージャーが、卒業研究や就職後に必須となるパソコンスキルについての講義を実施。学生に必要なスキルに特化した、オリジナルのe-learning(インターネット上のテキスト)を使用										
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】					
オリジナルのe-learningテキスト					e-learningテキストで操作手順を確認し、PC操作を実践する					
コマ	授業計画			コマ	授業計画					
1	【授業単元】 入門:IT・DXリテラシー 滋慶学園IT・DXリテラシー理解度テスト			9	【授業単元】 Excel入門 書式設定					
	【到達目標】 講座を受講する意義を理解し、IT・DXリテラシーを知り、情報を正しく活用できる				【到達目標】 Excelの書式設定ができる					
2	【授業単元】 入門:PC基本操作 マウス操作、ファイルの管理、タイピングの基礎、キーボードの機能			10	【授業単元】 Excel基礎1 基本操作					
	【到達目標】 Windowsの基本操作ができる				【到達目標】 企業や施設が求める表計算ソフトの操作ができる					
3	【授業単元】 Word基礎1 基本操作			11	【授業単元】 Excel基礎2 数式と関数基礎					
	【到達目標】 文書作成ソフトを使って、効率的にビジネス文書を作ることができる				【到達目標】 企業や施設が求める表計算ソフトの操作ができる					
4	【授業単元】 Word基礎2 画像や図形			12	【授業単元】 Excel基礎3 グラフ基礎					
	【到達目標】 画像や図形を駆使した文書を作成できる				【到達目標】 グラフを駆使した資料を作成できる					
5	【授業単元】 Word基礎3 表の作成			13	【授業単元】 Excel実践					
	【到達目標】 表を駆使した文書を作成できる				【到達目標】 Excel基礎講座で学習した操作を繰り返し練習しスムーズに操作できる					
6	【授業単元】 メールマナー			14	【授業単元】 Excel試験対策					
	【到達目標】 メールの構成を理解し、マナーを守ってメールを作成できる				【到達目標】 Excel基礎講座で学習した操作を繰り返し練習して、設問指示に従った操作を実践できる					
7	【授業単元】 Word試験対策			15	【授業単元】 Excel定期試験					
	【到達目標】 Word講座で学習した操作を繰り返し練習して、設問指示に従った操作を実践できる				【到達目標】 設問指示に従った操作を実践して、Excel資料を作成できる					
8	【授業単元】 Word中テスト			【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。						
	【到達目標】 設問指示に従った操作を実践して、Word資料を作成できる									
【履修に当たっての心構え・留意点】										
PC操作は日々繰り返すことでタイピング速度が上がり、効率的な資料作成やデータ処理が可能になります。できるだけ日常に取り入れて活用してください										

授業概要

科目名	情報リテラシー I	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(後期)	担当 教員	株式会社 プレーンスタッフコンサルティング		
学科 コース	社会福祉科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
・AIに関する正しい情報や知識を身につけて、適正かつ有効に活用できる ・Excelの応用的な関数やシート間集計を学び、目的に応じたデータ処理を実践できる ・図解や画像を駆使した、訴求力のあるプレゼン資料を作成して発表できる									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
滋慶学園グループの企業である(株)プレーンスタッフコンサルティングのラーニングマネージャーが、卒業研究や就職後に必須となるパソコンスキルについての講義を実施。学生に必要なスキルに特化した、オリジナルのe-learning(インターネット上のテキスト)を使用									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
オリジナルのe-learningテキスト					e-learningテキストで操作手順を確認し、PC操作を実践する				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 AIリテラシー	身近なAIを知り、AIとの協働を考えることができる			9	【授業単元】 PowerPoint1 基本操作	プレゼンテーションソフトの基本操作ができる		
	【到達目標】					【到達目標】			
2	【授業単元】 AI機械学習	AIブームの背景を知り、実際に体験を通して理解することができる			10	【授業単元】 PowerPoint2 表現力を上げる	図形や画像を活用したスライドを作成できる		
	【到達目標】					【到達目標】			
3	【授業単元】 Excel応用A データベース	データベース機能を理解し活用できる			11	【授業単元】 PowerPoint3 動きを付ける	スライドに動きを付け、全てのスライドを作成できる		
	【到達目標】					【到達目標】			
4	【授業単元】 Excel応用D グラフ応用	目的に合ったグラフを選択し、作成することができる			12	【授業単元】 PowerPoint ブラッシュアップ	フォントや配色を工夫して見やすいスライドを作成できる		
	【到達目標】					【到達目標】			
5	【授業単元】 Excel応用E ブックの活用	ブックを活用するさまざまな機能を理解し活用できる			13	【授業単元】 PowerPoint4 発表	作成したプレゼン資料を発表できる		
	【到達目標】					【到達目標】			
6	【授業単元】 Excel応用B 関数応用1	応用的な関数を活用できる			14	【授業単元】 PowerPoint試験対策	PowerPoint講座で学習した操作を繰り返し練習して、設問指示に従った操作を実践できる		
	【到達目標】					【到達目標】			
7	【授業単元】 Excel応用C 関数応用2	応用的な関数を活用できる			15	【授業単元】 PowerPoint定期試験	設問指示に従った操作を実践して、PowerPoint資料を作成できる		
	【到達目標】					【到達目標】			
8	【授業単元】 Excel復習＋中テスト	設問指示に従った操作を実践して、Excel資料を作成できる			【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
PC操作は日々繰り返すことでタイピング速度が上がり、効率的な資料作成やデータ処理が可能になります。できるだけ日常に取り入れて活用してください									

授 業 概 要

科目名	キャリアアブランニング	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	有) 両国あんこあられ本舗 岩佐 浩之				
サブ科目名		学年	1年	授業 形態	講義	総単位数	2	単位	総時間数	30	時間
学科・専攻	社会福祉科										
【授業を通じての到達目標】											
様々な情報をとり、自分の頭で考え、整理し決断できるようになる。 コミュニケーションの柱である、常識・マナー・社会のルールを身に着け実践できるようになる。 自分自身を社会に出て、マーケティングできるようになる。											
【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのも記載する)											
流通業界では様々な仕入れ販売の経営経験を持ち、一部上場企業メーカー勤務では、製造から営業経験をし、現在3社を経営するオーナーが教える、社会人としての考え方目標設定の仕方、達成の仕方・人脈の作り方を講義します。 ビジネスだけでなく、個人として必要な生きる力をわかりやすく講義します。また、カウンセラーとして精神的健康の維持・心が壊れない考え方・自分との付き合い方・1対1のコミュニケーション心理・縦の人間関係のコミュニケーションの考え方をわかりやすく講義します。											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
毎回授業の際、資料を配布						世の中の疑問点を探し質問する					
コマ	授業計画					コマ	授業計画				
1	【授業単元】 オリエンテーション 授業の注意事項					9	【授業単元】 中間試験				
	【到達目標】 講師自己紹介(注意するコンフォートゾーンを知る) 前期の流れを解説し、前期終了後の自分の姿をイメージする。 各単元の内容の予告編から、内容をイメージし授業に備える。						【到達目標】 1回から8回までの復習と調整 中間テストによる理解度のチェックをします。				
2	【授業単元】 人脈の作り方・整理の仕方					10	【授業単元】 アドラー心理学 精神的健康				
	【到達目標】 現在の人脈を整理する 経営に必要な人脈は、どんな職業の人か整理する。 人脈を管理する方法を学び習得する。 時代の流れ						【到達目標】 心の健康 ・統合失調症とうつ病 ・病気の原因と対処法 ・その他の病気 対処法と自分がならないコツを学び身に着ける。				
3	【授業単元】 コミュニケーション					11	【授業単元】 心理テスト				
	【到達目標】 自分とのコミュニケーションの取り方を学び、使えるようになる。 1対1のコミュニケーションの取り方を学び、使えるようになる。 コミュニケーションの構造を知り、実践できるようになる。						【到達目標】 自分の心のクセを知る				
4	【授業単元】 収入の種類					12	【授業単元】 身体的健康				
	【到達目標】 クワドラント(収入の種類)について学び習得する。 1、従業員 2、自営業 3、オーナー 4、投資家						【到達目標】 病気のメカニズムを知り、ある程度予防できるようになる。				
5	【授業単元】 目的・目標とは何か					13	【授業単元】 世の中				
	【到達目標】 目的・目標の設定の仕方を学び、使えるようになる。 トータルパースンについて学び、目的・目標とリンクして設定できるようになる。						【到達目標】 世の中の動き、構造を理解して、自分の頭で考える癖を習得する。 (サイコロ思考:いろいろな切り口で考える) (浴びせられる情報を整理し自分の考えにまとめる。) (仮想通貨とブロックチェーンについて学ぶ)				
6	【授業単元】 目標達成の仕方					14	【授業単元】 復習				
	【到達目標】 目標達成の仕方を学び理解し使えるようになる。 1、情報2、きっかけ・モチベーション 3、報酬のイメージ4、願望5、決断 6、目標設定・期限を切る 7、プランを立てる						【到達目標】 1回から13回までの復習と調整 定期試験のポイントを開設する。				
7	【授業単元】 目標達成の仕方					15	【授業単元】 定期試験				
	【到達目標】 目標達成の仕方を学び理解し使えるようになる。 8、夢泥棒 9、仲間さがし 10、環境を整える11、行動する 12、毎日の成果のチェック						【到達目標】 1回～14回までの、授業理解度の確認 自分の考えを書く、答えの無い試験問題です。				
8	【授業単元】 目標達成の仕方					【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、授業評価(平素の学習状況・出席状況など)を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。					
	【到達目標】 目標達成の仕方を学び理解し使えるようになる。 13、習慣にする14、潜在意識に落とし込む 15、実現する 経営者の仕事					試験は筆記試験で行う。					
【履修に当たっての心構え・留意点】											
1コマ1コマの授業は、ジグソーパズルの1ピースのようなものです。休むことなく完成させてください。また、休んだ場合は友人に授業内容を確認して補ってください。											

授業概要

科目名	キャリアプランニング	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	有)両國あんこあられ本舗 岩佐 浩之		
サブ科目名		学年	1年	授業 形態	講義	総単位数	2 単位	総時間数	30 時間
学科・専攻	社会福祉科								
【授業を通じての到達目標】									
様々な情報をとり、自分の頭で考え、整理し決断できるようになる。 コミュニケーションの柱である、常識・マナー・社会のルールを身に着け実践できるようになる。 自分自身を社会に出て、マーケティングできるようになる。									
【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する)									
流通業界では様々な仕入れ販売の経営経験を持ち、一部上場企業メーカー勤務では、製造から営業経験をし、現在3社を経営するオーナーが教える、社会人としての考え方目標設定の仕方、達成の仕方・人脈の作り方を講義します。 ビジネスだけでなく、個人として必要な生きる力をわかりやすく講義します。また、カウンセラーとして精神的健康の維持・心が壊れない考え方・自分との付き合い方・1対1のコミュニケーション心理・縦の人間関係のコミュニケーションの考え方をわかりやすく講義します。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
毎回授業の際、資料を配布					世の中の疑問点を探し質問する				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 オリエンテーション			9	【授業単元】 中間試験				
	【到達目標】 後期15回の流れの説明と到達地点の確認をイメージする。 各コマの予告編				【到達目標】 1回から8回までの復習と調整 中間テストによる理解度のチェックをします。				
2	【授業単元】 マーケティングマネジメント基礎理論			10	【授業単元】 お金・税金・インボイス制度				
	【到達目標】 ①バリュプロポジションとは何か学び理解する。 ②マーケティングの中核・実体・付属機能について学ぶ。 戦略戦術が立てられるようになる。				【到達目標】 経費について学び理解する。				
3	【授業単元】 マーケティングマネジメント基礎理論			11	【授業単元】 ライフプラン				
	【到達目標】 ①イノベーター理論・ギャズム理論について学ぶ。マイケルポーターの理論 ②物や人がなぜ売れたのか？様々な例を基に理解する。				【到達目標】 ライフプランを実際に立てて将来をイメージし書き出す。 相続・根拠当について知る。				
4	【授業単元】 アイドルエコノミー			12	【授業単元】 考え方 7つの習慣				
	【到達目標】 アイドリングビジネスを学び理解し戦術戦略が立てられる。 顧客は、お金を出して何を買っているのかを学び、戦略戦術が立てられる。 らしさを分析する。				【到達目標】 ①主体性を発揮する ②目的を持って始める ③重要事項を優先する				
5	【授業単元】 手紙・はがき・敬語・尊敬語・丁寧語・クッション言葉			13	【授業単元】 考え方 7つの習慣				
	【到達目標】 挨拶文・御礼文のルールを学び、書けるようになる。敬語・尊敬語・丁寧語・クッション言葉を学び、使いこなせるようになった。 会話にオーラのある人の生き方を学び習得する。				【到達目標】 7つの習慣 ④Win-Winを考える ⑤理解してから理解される ⑥相乗効果を発揮する ⑦刃を研ぐ				
6	【授業単元】 履歴書			14	【授業単元】 復習				
	【到達目標】 履歴書のルールを学ぶ 自己覚知する。自分の長所を文章にして書き出す。				【到達目標】 1回から13回までの復習と調整 定期試験のポイントを開設する。 「私の最高に素晴らしい一日」作文提出				
7	【授業単元】 履歴書			15	【授業単元】 定期試験				
	【到達目標】 自分のセールスポイントを、原稿用紙に書き出す。				【到達目標】 1回～14回までの、授業理解度の確認 自分の考えを書き、答えの無い試験問題です。				
8	【授業単元】 経営者の仕事			【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、授業評価(平素の学習状況・出席状況など)を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 試験は筆記試験で行う。					
	【到達目標】 経営者の仕事について学ぶ。 世の中の、しきたりについて学び理解する。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
1コマ1コマの授業は、ジグソーパズルの1ピースのようなものです。休むことなく完成させてください。また、休んだ場合は友人に授業内容を確認して補ってください。									

授業概要

科目名	文章表現	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	徳岡健男		
学科 コース	社会福祉科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
わかり易い文章の書き方を学ぶ講座です。前半は実習のための自己PRや志望動機などの文章をわかりやすく伝えるためのポイントを学びます。また、実習先で報告書を記入する際のポイントを学びます。後半は 就職試験や公務員試験でおこなわれる文章理解と小論文などにおいて、効果がある講座内容になります。具体的には、起承転結のある文章と論理的な文章を読み、その組み立てを学びます。最後に、学びを活かして、800文字以内で小論文を書きます。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
流通業界での実務経験と社会人教育・専門学校教育での教員経験をもつ教員が、わかり易い文章の書き方を指導する。 授業実施後には、起承転結や、序論、本論、結論という、わかりやすく組み立てられた文章を書けるレベルまで到達できる授業である。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
書名:「日本語練習帳」 岩波新書 大野晋著					日常から文章になじんでほしい。新聞記事などを読むことを推奨したい。				
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 わかり易い文章とは①				9	【授業単元】 論理的に文章を読む。①『はやぶさ式思考法』			
	【到達目標】 相手本位の文章を考える。 仕事に必要な文章を考える。					【到達目標】 結論に至る流れを理解する。 序論・本論・結論を意識する。			
2	【授業単元】 わかり易い文章とは②				10	【授業単元】 論理的に文章を読む②『ローマから日本が見える』			
	【到達目標】 簡潔な文章を理解する。 一文を簡潔に。修飾の順序に気を付ける。					【到達目標】 結論に至る流れを理解する。 序論・本論・結論を意識する。			
3	【授業単元】 わかり易い文章③				11	【授業単元】 論理的に文章を読む③「下町ロケット」「小説の読み方」			
	【到達目標】 自己PRを書いてみる。 根拠を挙げ、相手に納得してもらう。					【到達目標】 描写から人物像を読み取る。 キーワードを意識して文章を読む。			
4	【授業単元】 わかり易い文章④				12	【授業単元】 小論文を書いてみる①			
	【到達目標】 志望動機を書いてみる。 なぜ社会福祉士になりたいのか。					【到達目標】 作文と小論文の違いを理解する。 情緒が中心文章と理知的な文章の違いを知る。			
5	【授業単元】 語彙力を高める①				13	【授業単元】 小論文を書いてみる②			
	【到達目標】 熟語を学ぶ。 三字熟語と四字熟語					【到達目標】 書き方の手順を知る。 小論文の評価のポイントを知る。			
6	【授業単元】 語彙力を高める②				14	【授業単元】 小論文を書いてみる③テーマを設定し、課題作文を書く。			
	【到達目標】 故事成語ととわざを学ぶ。 慣用句を学ぶ。					【到達目標】 小論文(課題作文)の提出。			
7	【授業単元】 語彙力を高める③ 同訓異字、同音異字、四字熟語などを学ぶ。				15	【授業単元】 定期試験(小論文試験)			
	【到達目標】 同訓異字、同音異字、対義語を学ぶ。					【到達目標】 試験終了後に解答・解説			
8	【授業単元】 1～7回目までの授業で学習した範囲から出題。				【成績評価の方法と基準】 評価は課題の提出4回(指定された内容を提出)を小テスト分として20点。中間試験(授業8回目・筆記試験)で20点の合計40点。期末試験が60点。合計100点満点で評価する。試験の範囲は、授業の中で案内。筆記試験は授業で確認した知識の定着度を確認する。評価は学則の規定に準ずる。				
	【到達目標】 解答・解説								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
文章に親しむ。まず、文章を読み、内容を理解することが大切です。									

授業概要

科目名	コミュニケーション技法	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	有)両国あんにあられ本舗 木村雅一
サブ科目名		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 2単位	開講区分 曜日・時間	前期 水曜日 3限
学科・コース	社会福祉科						
時間 ・専門商社で北米・東南アジアを主とした貿易業務に携わり、異文化コミュニケーションの大切さ、難しさを身を持って体験した講師が、長年の経験をもとに、人との中で生きることが必須となる人間とつ基礎となる"コミュニケーション"を講義を行う。同時に人間関係を円滑にし、職業人として身につけるべき自己表現・接客・マナー・ホスピタリティ精神の要素も含めた社会的スキルの大切さを意識し、専門的知識と基礎的知識の基礎を習得する講義を行う							
【到達目標】 ・社会で通用するコミュニケーション力を身につけ実践の場で行動できるようになる ・職業人として効果的なコミュニケーション方法を知り、活用できるようになる							
【使用教科書・教材・参考書】 毎回授業で資料配布				【授業外における学習】 分らない専門用語などは、予め調べて予習しておく 日常のコミュニケーションの場においても、授業でのポイントは意識してみる			
回				回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 コミュニケーションとは 【到達目標】 ・コミュニケーションの定義について理解することができる ・コミュニケーションの3領域・種類を理解することができる ・表情・態度・口調が言葉以上に重要であるということが理解できるようになる			9	【授業単元】 社会的スキルⅠ 対人行動 Ⅱ 文書作成 【到達目標】 ・社会的スキルの実践 習得をする。 5接客 6訪問 7訪問(謝る おわびをする) ・ビジネス文書(社内文 社外文)の意義を理解することができる		
2	【授業単元】 基本的対話スキル(1対1の会話) 【到達目標】 ・コミュニケーション・ミスコミュニケーションの原因を会話のプロセスの中で理解することができる ・「聴く」「話す」の基本 「上手な質問」の要点を理解することができる ・会話＝気持ちや考えの交換を事例を通して学ぶ			10	【授業単元】 社会的スキルⅡ 文書作成 【到達目標】 ・社外文書を明瞭・簡潔に記書きを用いて作成できるようになる		
3	【授業単元】 グループでの会話 自己表現スキルⅠ 【到達目標】 ・グループとは？ グループの意義を理解することができる ・グループでの会話の基本を1対1との会話と比較し理解することができる ・人間関係を円滑にする表現技術の要点を理解することができる			11	【授業単元】 社会的スキルの実践Ⅱ 文書作成 【到達目標】 ・社会人の基本的マナー・教養、身につけるべき知識を学習し日々の行動から意識し活用できるようにする 手紙 メール SNS FAX		
4	【授業単元】 自己表現スキルⅠ 自己表現スキルⅡ 【到達目標】 ・人間関係を円滑にする「上手な頼み方」「上手な断り方」のポイントを理解することができる ・仕事上で必要とされる表現技術のスキルを理解することができる 「報告」「連絡」「相談」 5W1H法 PREP法			12	【授業単元】 サービスマインドⅠ サービスマインドとは 【到達目標】 ・サービス社会をふまえて。サービスマインドとは？、サービスとは？ について理解することができる ・サービスの心得を習得し、実践の場に活かすことができる		
5	【授業単元】 自己表現スキルⅡ 【到達目標】 ・「交渉」というコミュニケーションについて理解することができる ・「説得」というコミュニケーションについて理解することができる ・プレゼンテーションの基本を理解し、簡単なプレゼンテーションができるようになる			13	【授業単元】 サービスマインドⅠ サービスマインドとは 【到達目標】 ・サービスを作り出す基本要素を理解することができる ・1 人 人(あなた)と顧客／顧客満足度の関係を整理し、適切な行動と顧客理解、顧客ニーズを理解することができる ・2 環境 身だしなみを中心に環境サービスについて理解できる		
6	【授業単元】 自己表現スキルⅢ 【到達目標】 ・トラブルのもととなる感情への対処法が理解できるようになる ・アンガーマネジメントについて理解できるようになる ・「感情」と「行動」の相関性、対処法が理解できるようになる 怒りの感情の扱い方 怒りの伝え方 他者からの怒りの対処			14	【授業単元】 サービスマインドⅡ サービスの基本要素 【到達目標】 ・企業、店舗における経営理念、それを実現するための方針、サービスの方法 お客様への考えかを「プロセス」としてとらえ、その方針や目的を実現するための重要な過程を理解することができる 理念、方針の理解 迅速対応 win-winの関係		
7	【授業単元】 社会的スキル 対人行動 【到達目標】 ・基本的な社会的スキル マナー／仕事に対する姿勢について、理解できるようになる ・社会的スキル 対人行動を理解し、活用できるようになる 1挨拶 2敬語 3電話対応 4携帯電話			15	【授業単元】 定期試験 終了後の解答解説 【到達目標】 分らない問題を洗い出し、課題を抽出する 抽出された課題の何が分らなかったのかを特定し、理解する		
8	【授業単元】 中間試験 【到達目標】 ・試験終了後、最後の単元のまとめをおこなう。 ・分らない問題を洗い出し、課題を抽出する 抽出された課題の何が分らなかったのかを特定し、理解する			【評価について】 ・評価は、筆記試験で行う。 ・授業内で学んだ知識を確認する。 ・定期試験は、60分とし、終了後解説をおこなう。 ・筆記試験は、中間テスト(40点) 期末テスト(60点)の合計100点で評価する。 ・評価は、学則規定に準ずる。			
【特記事項】 ・毎授業に指示した内容にマーキングをし、しっかり理解する ・わからないことは、積極的に質問をする							

授 業 概 要

科目名	チャレンジプログラム指導	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	並木孝好		
学科 コース	社会福祉科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
・チャレンジプログラムで訪問する施設に関する理解を深め、必要な知識・技術・法令等順守について理解する。									
【学習内容】									
・チャレンジプログラムで訪問する施設の概要理解する									
・医療・福祉・子どもの関連法規について学ぶ									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
特になし					課外活動の企画・運営を通じて考える力を養う。				
回	授業計画			回	授業計画				
1	【授業単元】 オリエンテーション			9	【授業単元】 医療福祉サービスについて知る⑦				
	【到達目標】 相談援助の専門家としての基本姿勢職				【到達目標】 障害者・障害児サービスについて理解する				
2	【授業単元】 医療・福祉サービスについて知る①			10	【授業単元】 医療福祉サービスについて知る⑧				
	【到達目標】 医療・福祉サービスにつて理解する				【到達目標】 子ども・家庭サービスについて理解する				
3	【授業単元】 医療福祉サービスについて知る②			11	【授業単元】 医療福祉サービスについて知る⑨				
	【到達目標】 医療サービス提供の仕組みを理解する				【到達目標】 社会保障制度についての理解				
4	【授業単元】 医療福祉サービスについて知る③			12	【授業単元】 医療福祉サービスについて知る⑩				
	【到達目標】 医療に関する諸制度を理解する				【到達目標】 生活費・仕事関連サービスについての理解				
5	【授業単元】 医療福祉サービスについて知る④			13	【授業単元】 医療福祉サービスについて知る⑪				
	【到達目標】 高齢者サービスについて理解する				【到達目標】 その他の福祉サービス				
6	【授業単元】 医療福祉サービスについて知る⑤			14	【授業単元】 医療福祉制度の理解とサービス提供内容の確認				
	【到達目標】 介護保険について理解する				【到達目標】 講義の1回目から13回目までの知識が身についている				
7	【授業単元】 医療福祉サービスについて知る⑥			15	【授業単元】 定期テスト				
	【到達目標】 医療と高齢者サービス全般について理解したことを確認する				【到達目標】 医療福祉サービス全般についての知識確認(15週目までの授業内容確認)				
8	中間テスト			【成績評価の方法と基準】					
	【到達目標】 医療・福祉サービス知識確認(7週目までの授業内容確認)			毎回ごとに行われる小テストと定期テストで評価する					
【履修に当たっての心構え・留意点】									

授 業 概 要

科目名	チャレンジプログラム	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	並木 孝好		
学科 コース	社会福祉科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	5 単位	総時間数	150 時間
【授業を通じての到達目標】									
様々な現場での専門職員や利用者を知ることを通して、自分の将来像を明確にすることを目的とする。それを明確にすることによって、普段の学業や私生活において意味付けを追加し、充実した学校生活を送ることができるようになる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
福祉専門職育成に携わる教員が、当プログラムの目的及び実習に関する基本的なマナーについて指導をする。合わせて、各事業所における現場職員が、実習機会を提供し、利用者理解と事業所理解に資する技術・知識について指導を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
教材：適宜資料を配布					実習内容の振り返りと共に、関連する内容についての調べ学習やボランティアの参加等を要する。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 チャレンジ前プログラム① 分野別(高齢・障害・福祉・教育)における業務内容・多職種連携				9	【授業単元】 4日体験プログラム②			
	【到達目標】 分野別(高齢・障害・福祉・教育)における業務内容、多職種連携をグループでまとめ、理解することができる					【到達目標】 4日間の同施設体験を行い、施設の概要や職員の業務内容、利用者像を知ることができる 利用者と主体的にコミュニケーションをとることができる 自分のコミュニケーションにおける課題を発見し、取り組む計画が作れる 支援者の役割を理解することができる			
2	【授業単元】 チャレンジ前プログラム② 実習ロールプレイ(挨拶・実習生としての話し方・聞き方) 実習先アクセス調査				10	【授業単元】 4日体験プログラム③			
	【到達目標】 実習生としての基本的なマナーについて理解し、実践することができる					【到達目標】 4日間の同施設体験を行い、施設の概要や職員の業務内容、利用者像を知ることができる 利用者と主体的にコミュニケーションをとることができる 自分のコミュニケーションにおける課題を発見し、取り組む計画が作れる 支援者の役割を理解することができる			
3	【授業単元】 1日体験プログラム①				11	【授業単元】 4日体験プログラム④			
	【到達目標】 施設見学等を行い、施設の概要や職員の業務内容、利用者像を知ることができる 様々な施設において対象者と主体的にコミュニケーションをとることができる 自分のコミュニケーションにおける課題を発見し、取り組む計画が作れる					【到達目標】 4日間の同施設体験を行い、施設の概要や職員の業務内容、利用者像を知ることができる 利用者と主体的にコミュニケーションをとることができる 自分のコミュニケーションにおける課題を発見し、取り組む計画が作れる 支援者の役割を理解することができる			
4	【授業単元】 1日体験プログラム②				12	【授業単元】 講演			
	【到達目標】 施設見学等を行い、施設の概要や職員の業務内容、利用者像を知ることができる 様々な施設において対象者と主体的にコミュニケーションをとることができる 自分のコミュニケーションにおける課題を発見し、取り組む計画が作れる					【到達目標】 外部講師の話から支援者の役割等を理解し、説明することができる			
5	【授業単元】 1日体験プログラム③				13	【授業単元】 講演			
	【到達目標】 施設見学等を行い、施設の概要や職員の業務内容、利用者像を知ることができる 様々な施設において対象者と主体的にコミュニケーションをとることができる 自分のコミュニケーションにおける課題を発見し、取り組む計画が作れる					【到達目標】 外部講師の話から支援者の役割等を理解し、説明することができる			
6 11/3	【授業単元】 1日体験プログラム④				14	【授業単元】 プレゼン発表① 定期試験			
	【到達目標】 様々な施設において対象者と主体的にコミュニケーションをとることができる 施設の働き・役割について説明することができる					【到達目標】 これまで学んだことを復習することができる 内容をまとめ、プレゼンを行うことができる 定期試験後に解説を行い、重点項目について説明することができる			
7	【授業単元】 講演：児童相談所 中テスト				15	【授業単元】 プレゼン発表② 定期試験			
	【到達目標】 外部講師の話から児童相談所の役割等を理解し、説明することができる これまで学んだことを復習することができる					【到達目標】 これまで学んだことを復習することができる 内容をまとめ、プレゼンを行うことができる 定期試験後に解説を行い、重点項目について説明することができる			
8	【授業単元】 4日体験プログラム①				【成績評価の方法と基準】 小テスト、中テスト、定期試験にて総合評価を行う。 合計点数 GP ◆A評価 100～90点 4.0 ◆B評価 89～80点 3.0 ◆C評価 79～70点 2.0 ◆D評価 69～60点 1.0 ◆E,F評価 59点以下又は出席不良は、不合格とする。				
	【到達目標】 4日間の同施設体験を行い、施設の概要や職員の業務内容、利用者像を知ることができる 利用者と主体的にコミュニケーションをとることができる 自分のコミュニケーションにおける課題を発見し、取り組む計画が作れる 支援者の役割を理解することができる								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
デバイスは十分な充電を行って講義を受けてください。 チャレンジプログラムにおいては1～4限まで要するが、1コマと表記する。									

授業概要

科目名	ソーシャルワーク特別演習Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	並木孝好		
学科 コース	社会福祉科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
・ソーシャルワーカーにおける知識と・技術を体系的に学ぶ。 ・ソーシャルワーカーとしての知識を身につける為の学習週間を身につける。									
【学習内容】									
ソーシャルワーカーとしての身構え・気構え・心構えを身につける チャレンジプログラムで訪問する施設概要とソーシャルワーカーの仕事理解。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
特になし					課外活動の企画・運営を通じて考える力を養う。				
回	授業計画			回	授業計画				
1	【授業単元】 オリエンテーション				9	【授業単元】 施設見学マナー②			
	【到達目標】 相談援助の専門家としての基本姿勢					【到達目標】 施設の役割と精神保健福祉士の仕事内容			
2	【授業単元】 ソーシャルワーカーの仕事				10	【授業単元】 施設見学マナー③			
	【到達目標】 相談援助の専門家としての基本姿勢職					【到達目標】 施設の役割と相談員の仕事			
3	【授業単元】 ソーシャルワーカーとして身につけたい知識①				11	【授業単元】 施設見学マナー④			
	【到達目標】 社会福祉士と精神保健福祉士の職場と仕事内容を理解する					【到達目標】 施設の役割と相談員の仕事			
4	【授業単元】 ソーシャルワーカーとして身につけたい知識②				12	【授業単元】 施設見学マナー⑤			
	【到達目標】 社会福祉士と精神保健福祉士の職場と仕事内容を理解する					【到達目標】 施設の役割と相談員の仕事			
5	【授業単元】 ソーシャルワーカーとして身につけたい知識③				13	【授業単元】 施設種別ごとのグループ発表			
	【到達目標】 社会福祉士と精神保健福祉士の職場と仕事内容を理解する					【到達目標】 施設種別ごとのソーシャルワーカー業務内容を理解する			
6	【授業単元】 対人援助職の基本的姿勢				14	【授業単元】 施設種別ごとのグループ発表			
	【到達目標】 対人援助職として仕事をする上での基本原則を身に着ける					【到達目標】 施設種別ごとのソーシャルワーカー業務内容を理解する			
7	【授業単元】 施設見学マナー①	が			15	【授業単元】 期末テスト			
	【到達目標】 施設の役割と社会福祉士の仕事内容を理解する					【到達目標】 ソーシャルワーカーとしての必要な知識を確認(15週目までの授業内容)			
8	中間テスト				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 ソーシャルワーカーとして必要な知識を確認(7週目までの授業内容確認)				毎回ごとに行われる小テストと定期テストで評価する				
【履修に当たっての心構え・留意点】									

授業概要

科目名	心理学と心理学的支援	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	松尾華香		
学科 コース	社会福祉科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
心理学および心理学的支援の基礎的・包括的な理解を目指す。具体的には、以下の通りである。 “こころ”の諸機能や発達過程、“こころ”の健康・不適応、心理学的支援を理解し、説明できることを到達目標とする。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
担当教員は、臨床心理士および公認心理師として、医療や教育、療育、産業等の領域で臨床活動に携わってきた。授業では、臨床の知見も取り入れ、将来の支援活動のみならず、日々の日常生活にも役立つ実践的な知識を提供する。また、ディスカッションやグループワークも取り入れ、担当教員と生徒、生徒どうしというように双方向のコミュニケーションを重視し、学習内容の理解を深める。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
使用教科書:心理学と心理的支援 中央法規 参考図書:各授業で適宜紹介					本科目に関する図書は、使用テキスト以外にも数多くあります。授業で紹介する参考図書を、ぜひ読み比べてみてください。				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 科目オリエンテーション	【到達目標】 心理学とはどのような学問かを説明することができる			9	【授業単元】 知能・パーソナリティ	【到達目標】 知能・パーソナリティを説明することができる		
2	【授業単元】 “こころ”の健康・不適応	【到達目標】 ストレス理論を説明することができる			10	【授業単元】 心理アセスメント	【到達目標】 心理アセスメントを説明することができる		
3	【授業単元】 感覚・知覚	【到達目標】 感覚・知覚を説明することができる			11	【授業単元】 精神疾患	【到達目標】 精神疾患を説明することができる		
4	【授業単元】 感情・動機付け	【到達目標】 感情・動機付けを説明することができる			12	【授業単元】 心理療法1	【到達目標】 心理療法を説明することができる		
5	【授業単元】 学習	【到達目標】 学習を説明することができる			13	【授業単元】 心理療法2	【到達目標】 心理療法を説明することができる		
6	【授業単元】 注意・記憶	【到達目標】 注意・記憶を説明することができる			14	【授業単元】 社会心理	【到達目標】 社会心理を説明することができる		
7	【授業単元】 思考・言語・発達	【到達目標】 思考・言語・発達を説明することができる			15	【授業単元】 これまでの授業の振り返り、補足 定期テスト 定期テストの解答解説 【到達目標】 第1回から第14回までの学習内容を取得できている			
8	【授業単元】 これまでの授業の振り返り、補足 中テスト 中テストの解答解説	【到達目標】 第1回から第7回までの学習内容を取得できている			【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
*「なぜ」という疑問、好奇心、興味関心を大切にしてください									

授業概要

科目名	ソーシャルワークの理論と方法	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	齋藤 誠二		
学科 コース	社会福祉科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1. 人と環境との交互作用に関する理論とミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて理解する。 2. ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて理解する。 3. ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解する。 4. コミュニティワークの概念とその展開について理解する。 5. ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
ソーシャルワーク実践の基礎となる知識を習得する授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新社会福祉士・精神保健福祉士養成講座12 ソーシャルワークの理論と方法(共通科目)日本ソーシャルワーク教育学校連盟編 中央法規出版					他の科目で学習した知識と相互に関連付けて理解を深めるために、事前学習・事後学習を行う。また、ソーシャルワークは人々の生活課題や社会問題の解決に働きかけることから、普段の日常生活の中からこれらの課題や問題意識を持つことが求められる。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 第1章 人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワーク 第1節 ソーシャルワーカーが学ぶ理論				9	【授業単元】 第3章 ソーシャルワークの過程 アセスメント① 第1節 アセスメントの意義と目的 第2節 アセスメントの方法			
	【到達目標】 ・本科目の位置づけ、本講義の進め方を理解し、主体的な学びへの意識を醸成する ・ソーシャルワーカーが学ぶ理論のタイプを理解する ・ソーシャルワークの共通基盤とは何かを理解する ・ソーシャルワーク固有の視点とは何かを考える					【到達目標】 ・ソーシャルワークにおけるアセスメントの重要性について学ぶ ・生活者や生活への接近の方法としてのアセスメントについて学ぶ ・個人と社会関係への接点に基づくアセスメントについて学ぶ ・アセスメントを支える理論について学ぶ ・アセスメントの方法や構成要素について学ぶ			
2	【授業単元】 第1章 人と環境の交互作用に関するソーシャルワーク 第2節 システム理論				10	【授業単元】 第3章 ソーシャルワークの過程 アセスメント① 第2節 アセスメントの方法 第3節 アセスメントにおける関係者や当事者との協議の重要性について学ぶ			
	【到達目標】 ・システム理論の基本的な考え方を理解する ・ソーシャルワークにおけるシステム理論の有用性を理解する ・システム理論を使用したソーシャルワーク実践の全体像を理解する					【到達目標】 ・アセスメントに有効なマッピングの技法について学ぶ ・ソーシャルワークの固有性や専門性を表すアセスメントについて学ぶ ・アセスメントにおける関係者や当時k者との協議の重要性について学ぶ			
3	【授業単元】 第1章 人と環境の交互作用に関するソーシャルワーク 第3節 生態学理論				11	【授業単元】 第4章 ソーシャルワークの過程 プランニング① 第1節 プランニングの意義と目的 第2節 プランニングのプロセスと方法			
	【到達目標】 ・生態学の基本的な考え方を理解する ・エコシステムの視座とは何かを理解する ・ライフモデル(ジャーメインとギッターマン)の考え方を理解する					【到達目標】 ・プランニングとは何かについて理解する ・ソーシャルワークではプランニングがどのように行われているかを理解する ・ソーシャルワークにおけるプランニングの意義を理解する ・目的、目標の設定について理解する			
4	【授業単元】 第1章 人と環境の交互作用に関するソーシャルワーク 第4節 バイオ・サイコ・ソーシャルモデル				12	【授業単元】 第4章 ソーシャルワークの過程 プランニング② 第2節 プランニングのプロセスと方法 第3節 プランニングにおける留意点			
	【到達目標】 ・バイオ・サイコ・ソーシャルモデル基本的な内容を理解する ・ソーシャルワーク実践とバイオ・サイコ・ソーシャルモデルの関係を理解する					【到達目標】 ・計画内容の設定について理解する ・倫理的な実践のために留意すべきことを理解する ・包括的な支援のために連携や協議の重要性を理解する			
5	【授業単元】 第1章 人と環境の交互作用に関するソーシャルワーク 第5節 ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク				13	【授業単元】 第5章 ソーシャルワークの過程 支援の実施とモニタリング 第1節 支援の実施 第2節 モニタリング 第3節 効果測定			
	【到達目標】 ・人の生活に生じる課題は「人と環境の交互作用」から生じることを理解する ・生活課題をミクロ・メゾ・マクロレベルのそれぞれのレベルから捉える視座を養う					【到達目標】 ・支援の実践における目的と方法、留意点について学ぶ			
6	【授業単元】 第1章 人と環境の交互作用に関するソーシャルワーク 第6節 ソーシャルワークの目標と展開過程 第2章 ソーシャルワークの過程 ケースの発見とエンゲージメント(インテーク)				14	【授業単元】 第6章 ソーシャルワークの過程 支援の終結と結果評価、アフターケア 第1節 支援の終結 第2節 支援の結果評価 第3節 アフターケア			
	【到達目標】 ・ソーシャルワークの目標について理解する ・ソーシャルワークの展開過程について、その概要を理解する ・人が他者から援助を受けるプロセスを学ぶ					【到達目標】 ・支援の終結が「過程」であることを理解する ・ソーシャルワーカー、クライアント双方で行うことの意味について理解する ・支援の終結後の生活課題の再燃の可能性と新たな課題の発生を予防する視点の重要性を理解する ・結果評価の意義、視点、方法を理解する			
7	【授業単元】 第2章 ソーシャルワークの過程 ケースの発見とエンゲージメント(インテーク) 第1節 ケースの発見 第2節 エンゲージメント(インテーク)				15	【授業単元】 定期試験 解説及び前期学習内容の振り返り(まとめ)			
	【到達目標】 ・ケース発見の様々な形について学ぶ ・インボランタリー・クライアント・援助要求力の弱い人たちへの支援について学ぶ ・エンゲージメントの意味と役割を学ぶ・クライアントとの関係構築の留意点を学ぶ ・メゾマクロ実践におけるエンゲージメントの留意点を学ぶ					【到達目標】 ・前期授業(第9回～第14回)の学習内容から出題 ・定期試験解説、前期学習目標の達成度の振り返り、後期学習に向けた目標設定ができる			
8	【授業単元】 中テスト 解説及び学習内容の振り返り				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。期末試験は60点満点、一問2点30問とし、授業内容から出題する。				
	【到達目標】 ・前期第1回～第7回の学習内容から出題 ・中テスト解説、学習内容の振り返りから理解度を確認する								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
ソーシャルワーカーとして実践に携わるには、さまざまな知識を学ぶ必要があります。まずはソーシャルワーカーとしての考え、語り、行動する際のよりどころとなる理論的知識を学ぶことから始まります。他の科目で学習した知識と相互に関連付けて理解を深めていきましょう。									

授業概要

科目名	ソーシャルワークの理論と方法	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	齋藤 誠二		
学科 コース	社会福祉科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1. 人と環境との交互作用に関する理論とミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて理解する。 2. ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて理解する。 3. ソーシャルワークの理論とそれに係る知識と技術について理解する。 4. コミュニティワークの概念とその展開について理解する。 5. ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
ソーシャルワーク実践の基礎となる知識を習得する授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新社会福祉士・精神保健福祉士養成講座12 ソーシャルワークの理論と方法(共通科目) 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編 中央法規出版					他の科目で学習した知識と相互に関連付けて理解を深めるために、事前学習・事後学習を行う。また、ソーシャルワークは人々の生活課題や社会問題の解決に働きかけることから、普段の日常生活の中からこれらの課題や問題意識を持つことが求められる。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 第7章 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ① 第1節 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチの考え方 第2節 ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチ				9	【授業単元】 第10章 ケアマネジメント(マネジメント) 第1節 ケアマネジメント(ケースマネジメント)の原則 第2節 ケアマネジメント(ケースマネジメント)の意義と方法			
	【到達目標】 ・視点、視座、モデル、アプローチ等の意味合いを理解する ・ジェネラリストが実践モデル、アプローチを学ぶべき理由を理解する ・実践モデル、アプローチの特徴、歴史的な概要、流れについて理解する ・生活モデル、治療モデル、ストレングスモデル					【到達目標】 ・ケアマネジメント(ケースマネジメント)の歴史、基本的な原則を学ぶ ・ケアマネジメント(ケースマネジメント)の意義を理解する ・ケアマネジメント(ケースマネジメント)のモデルとプロセスを理解する			
2	【授業単元】 第7章 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ② 第1節 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチの考え方 第2節 ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチ				10	【授業単元】 第11章 グループを活用した支援 第1節 グループの意義と目的 第2節 グループワークの展開過程 第3節 グループワークとセルフヘルプグループ			
	【到達目標】 ・ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチを理解する 心理社会的アプローチ 機能的アプローチ 問題解決アプローチ					【到達目標】 ・グループワークが何を目的に実践されているのかを学ぶ ・グループ、プロセスを理解して実践のポイントを把握する ・グループの発達段階に応じた介入を理解する ・グループワークとセルフグループの区別を理解する			
3	【授業単元】 第7章 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ③ 第1節 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチの考え方 第2節 ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチ				11	【授業単元】 第12章 コミュニティワーク 第1節 コミュニティワークの意義と目的 第2節 コミュニティワークの展開 第3節 コミュニティワークの理論的系譜とモデル			
	【到達目標】 ・ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチを理解する 課題中心アプローチ 行動変容アプローチ 認知アプローチ					【到達目標】 ・地域の課題に対するコミュニティワークの目的について理解する ・コミュニティワークの展開過程、各技法の特徴やねらい、計画や評価の視点、手法を理解する ・住民が主体となる地域福祉活動の意義を学ぶ ・コミュニティワークの歴史を学ぶ			
4	【授業単元】 第7章 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ④ 第1節 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチの考え方 第2節 ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチ				12	【授業単元】 第13章 ソーシャルアドミニストレーション 第1節 ソーシャルアドミニストレーションの概念とその意義 第2節 組織介入、組織改善の実践モデル 第3節 組織運営における財源の確保			
	【到達目標】 ・ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチを理解する 危機介入アプローチ エンパワメントアプローチ ナラティブアプローチ					【到達目標】 ・ソーシャルアドミニストレーションの概念と定義を理解する ・組織介入、組織改善の実践モデルを理解する ・組織運営における財源の種類を理解する			
5	【授業単元】 第7章 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ⑤ 第1節 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチの考え方 第2節 ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチ				13	【授業単元】 第14章 ソーシャルアクション 第1節 ソーシャルアクションの概念とその意義 第2節 コミュニティ・オーガナイズिंग			
	【到達目標】 ・ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチを理解する 解決志向アプローチ 様々なアプローチ(アドラー心理学、ロゴセラピー、交流分析、神経言語プログラミング)					【到達目標】 ・事例を通じてソーシャルアクションの基本を理解する ・ソーシャルアクションの意義を理解する ・コミュニティ・オーガナイズिंगの実例を学ぶ ・ソーシャルワークにおけるコミュニティ・オーガナイズिंगの系譜を理解する			
6	【授業単元】 第8章 ソーシャルワークの面接 第1節 面接の意義と目的 第2節 面接の方法と実際				14	【授業単元】 第15章 スーパービジョンとコンサルテーション 第1節 スーパービジョンの意義、目的、方法 第2節 コンサルテーションの意義、目的、方法			
	【到達目標】 ・日常会話と面接の特徴の違いを理解する ・ソーシャルワークにおける面接の意義、目的を理解する ・ソーシャルワーク面接の形態や手段、場所の多様性、基本的留意点を理解する ・具体的面接技法を理解する					【到達目標】 ・スーパービジョンの意義、目的、機能について理解する ・スーパービジョンの方法について理解する ・コンサルテーションの意義と目的、方法について理解する ・コンサルテーションとスーパービジョンの違いを理解する			
7	【授業単元】 第9章 ソーシャルワークの記録 第1節 記録の意義と目的 第2節 記録の内容 第3節 記録のフォーマット				15	【授業単元】 定期試験 解説及び後期学習内容の振り返り(まとめ)			
	【到達目標】 ・専門職として記録を作成する意義と目的を理解する ・専門職の記録に求められる倫理的責任、求められる内容を理解する ・様々な記録のフォーマットを学ぶ ・根拠ある記録の書き方のポイントを学ぶ					【到達目標】 ・後期授業の学習内容から出題 ・期末試験解説、学習内容の振り返りから理解度を確認する			
8	【授業単元】 中テスト 解説及び学習内容の振り返り				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 ・前期第1回～第7回の学習内容から出題 ・中テスト解説、学習内容の振り返りから理解度を確認する				科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。期末試験は、1問2点30問とし、60点満点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
ソーシャルワーカーとして実践に携わるには、さまざまな知識を学ぶ必要があります。まずはソーシャルワーカーとしての考え、語り、行動する際のよりどころとなる理論的知識を学ぶことから始まります。他の科目で学習した知識と相互に関連付けて理解を深めましょう									

授 業 概 要

科目名	ソーシャルワーク演習	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	田原雄二		
学科 コース	社会福祉科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
・ソーシャルワーカーの価値と役割を知り、基礎となる倫理観を理解することができる ・ソーシャルワーカーの価値観のもと、クライアントが抱えている課題を客観的・分析的に捉える視点や、それに応じた面談技術の基本を習得している ・演習授業を通じて、将来同じ分野の仕事を目指す他者と連携、協働することができる									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
・障害福祉分野にて社会福祉士・精神保健福祉士・相談支援専門員としてソーシャルワークを実践している教員が、ソーシャルワーカーの基礎となるマインドや対人援助技術をグループワークを中心に実践的な授業を実施する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
毎回Teams上でレジュメを配布 PC・タブレット等のTeamsを閲覧できるデバイス					他科目で学んだ内容を演習授業にて多角的に体现できるよう、ソーシャルワーカーに必要な基礎知識を復習すること				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション				9	【授業単元】 面談の基本技法①(受容・傾聴・共感) 個人の価値観とSWの専門職としての価値観			
	【到達目標】 ・「演習」のねらいと進め方について理解する ・ペア・グループワークでのルールを知る ・他者の意見や考えに耳を傾けることができる					【到達目標】 ・個人の価値観と専門職の価値観の相違を理解するした上で、個人の価値観を優先した時、クライアントの発言にどのように影響するのかを考えることができる ・基本的な面接技法としてのパステティックの原則を理解する			
2	【授業単元】 ソーシャルワーカーとしての価値観・ウェルビーイング				10	【授業単元】 面談の基本技法②(質問技法) 信頼関係構築に向けた適切な質問技法			
	【到達目標】 ・ソーシャルワーカーとしての「価値観」を考え、説明することができる ・ウェルビーイング(Wellbeing)の考え方を理解する					【到達目標】 ・クライアントに対する質問の種類を知り、技術を実践することができる			
3	【授業単元】 自己理解と自己覚知①				11	【授業単元】 面談の基本技法③(繰り返し・要約など) 相談場面における基本的な技法			
	【到達目標】 ・事例からソーシャルワーカーが抱えるジレンマについて知る ・自己覚知の必要性を理解し、現時点での自分の価値観を説明することができる					【到達目標】 ・相手の発した言葉を別の言葉に言い換えることができる ・相手の発した言葉を要約し、不明確な場合には明確化することができる			
4	【授業単元】 自己理解と自己覚知②				12	【授業単元】 模擬面談			
	【到達目標】 ・普段の生活の中で、自分自身を支配している負の感情を知り、自分が抱きやすい感情とその背景を言語化することができる					【到達目標】 与えられたシナリオに沿って、模擬面談を実施することができる			
5	【授業単元】 自己理解と自己覚知③				13	【授業単元】 模擬インテーク面談準備			
	【到達目標】 「自分史」を作成することにより、自身が持つ多様な感情を見つめ直すことができる					【到達目標】 ・模擬インテーク面談の準備 ・面談の基本技法を使い、面談を組み立てを考えることができる			
6	【授業単元】 アサーション(assertion)				14	【授業単元】 定期試験			
	【到達目標】 アサーション(自己表現)トレーニングを通じ、自分も相手も大切にしたい自己表現をするにはどうしたらよいかを考え、身につけることができる					【到達目標】 ・グループで模擬インテーク面談を実践する			
7	【授業単元】 他者理解①				15	【授業単元】 模擬インテーク面談の振り返り			
	【到達目標】 ・自己の価値観との比較により他者理解を深める ・物事の見方(＝フレーム)を変えて感じ方を変える「リフレーミング」の手法を理解し、実践する					【到達目標】 模擬インテーク面談を振り返り、面談時における良い点と改善点を考え、次年度以降の実習に活かすことができる			
8	【授業単元】 他者理解② 中テスト				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 ・事例について、主観的情報と客観的情報を分けて考え、相手の良さや強み(ストレングス)を発見することができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
他科目で学んだ内容も含み、科目お横断的に事業を展開していきますので、復讐をしましょう。									

授業概要

科目名	障害者福祉	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	田原 雄二		
学科 コース	社会福祉科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1 障害の概念と特性を踏まえ、障害者やその家族を取り巻く社会環境について理解できる。 2 障害者福祉の歴史と障害者観の変遷、制度の発展過程について理解できる。 3 障害者福祉に関する法制度や障害福祉サービスの概要や具体的な内容を知る。 4 1～3を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士としての適切な支援のあり方について自ら考えることができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
大学院で障害者福祉をテーマに研究に取り組み、その後18年間、障害児者の相談支援事業所でソーシャルワークの実務経験のある教員が、障害者支援の土台となる理念や価値、実務や試験に役立つ知識を解説し、ワークも取り入れた授業を実施する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
＜参考＞『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座8 障害者福祉』(中央法規):授業中は使用しません。授業後にさらに知識を広げ、理解を深めるための参考書として活用してください。					インターネット等で日頃から障害者や障害児に関するニュースに触れ、興味関心を持つようにしてください。				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 オリエンテーション 障害に対する考え方			9	【授業単元】 障害者福祉に関する法制度①				
	【到達目標】 ・ICFと社会モデルについて理解する				【到達目標】 ・身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健福祉法、発達障害者支援法の概要を理解する				
2	【授業単元】 障害者の定義と特性			10	【授業単元】 障害者福祉に関する法制度②				
	【到達目標】 ・障害の法的な定義、特性を理解する				【到達目標】 障害者総合支援法の概要と障害福祉計画について理解する				
3	【授業単元】 障害者福祉の理念			11	【授業単元】 障害者福祉に関する法制度③				
	【到達目標】 ・ノーマライゼーションについて理解する ・障害者福祉に関する重要な概念を理解する				【到達目標】 障害者総合支援法の具体的なサービス(介護給付、訓練等給付)について理解する				
4	【授業単元】 障害者福祉の歴史①			12	【授業単元】 障害者福祉に関する法制度④				
	【到達目標】 ・日本における障害者福祉制度の発展過程について、背景も含めて理解する				【到達目標】 障害者総合支援法の具体的なサービス(自立支援医療、補装具、地域生活支援事業)について理解する 障害支援区分とサービスの支給決定の仕組みについて理解する				
5	【授業単元】 障害者福祉の歴史②			13	【授業単元】 障害者福祉に関する法制度⑤				
	【到達目標】 ・障害者権利条約の内容と成立までの過程について理解する ・障害者基本法について、背景と経緯を含めて理解する				【到達目標】 児童福祉法に基づく障害児福祉サービスについて理解する 障害者差別解消法の概要を理解する 障害者虐待防止法の概要を理解する				
6	【授業単元】 当事者運動と障害者の生活実態			14	【授業単元】 障害者に対する支援の方法				
	【到達目標】 ・当事者運動の歴史と意義を知る ・障害者の生活実態について統計データを基に知る ・障害者世帯のニーズと支援のあり方について理解する				【到達目標】 障害者の相談支援機関や相談支援専門員の役割について理解する 障害者福祉の関連分野や支援者の役割について知る				
7	【授業単元】 障害者やその家族を取り巻く社会環境と課題			15	【授業単元】 定期テストと解説				
	【到達目標】 ・障害者が生活する上で直面する様々なバリア(差別、偏見を含む)や虐待の実態について理解する ・障害理解教育について考える				【到達目標】 ・期間を通して学んだ内容について理解する ・将来社会福祉士や精神保健福祉士(ソーシャルワーカー)として活動するためのモチベーションを高める				
8	【授業単元】 障害者の芸術とスポーツ 中間テストと解説			【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。					
	【到達目標】 ・障害者の芸術やスポーツについて知る ・第1回～第7回までに学んだ内容について理解する								
【履修に当たっての心構え・留意点】 この科目は扱う範囲が広く、他の科目と関連する内容も多く含まれています。1回1回の積み重ねと復習が大切ですので、しっかりと体調を整えて授業に臨んでください。									

授 業 概 要

科目名	高齢者福祉	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	卯辰 達也
学科 コース	社会福祉科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位 総時間数 30 時間
【授業を通じての到達目標】							
1、高齢者の定義と特性を踏まえ、高齢者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する。 2、高齢者福祉の歴史と高齢者観の変遷、制度の発展過程について理解する。 3、高齢者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する。 4、高齢期における生活課題をふまえて、社会福祉士としての適切な支援の在り方を理解する。							
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)							
病院、訪問診療クリニック、地域包括支援センターの相談員として8年勤務。業務で得た知識、経験をもとに現在の高齢者福祉の実情を加味し、対応した事例を交え、高齢者理解が深まるように授業を展開させる。							
【使用教科書・教材・参考図書】				【授業時間外における学習】			
・最新社会福祉養成講座 高齢者福祉(中央法規) ・Microsoft Teams、授業時の配布資料 ・CANVA				予習復習として教科書の該当範囲を一読すること。 学生自身の日常生活圏域における高齢者関連のニュースを意識的に観察・情報収集を行い個人の高齢者福祉について考えをまとめておく。			
コマ	授業計画			コマ	授業計画		
1	【授業單元】 ガイダンス / 高齢期の社会的理解、高齢者の身体的理解 【到達目標】 ・高齢者の定義と特性を説明できる。 ・ソーシャル・ネットワークとソーシャル・サポートの概念を説明できる ・高齢者を取り巻く社会関係を説明できる。 ・6つの主な疾患、廃用症候群を説明できる。			9	【授業單元】 介護保険制度① 【到達目標】 ・介護保険の枠組みについて説明できる ・介護保険の財政について説明できる ・介護保険の保険料について説明できる ・介護保険の保険料について説明できる		
2	【授業單元】 高齢者の精神的理解 少子高齢社会の到来 【到達目標】 ・高齢者の精神的特徴について説明できる。 ・認知症の中核症状とBPSDの違いを区別し、代表的な認知症(アルツハイマー型等)の特徴を説明できる。 ・老年期うつ病やせん妄と、認知症との違いを説明できる。			10	【授業單元】 介護保険制度② 【到達目標】 ・申請から認定までの流れと、介護認定審査会の役割を説明できる。 ・介護給付と予防給付の違い、支給限度基準額について説明できる。 ・利用者負担割合(1～3割)の決定の仕組みを説明できる。 ・介護保険事業計画について説明できる		
3	【授業單元】 高齢者の生活実態 【到達目標】 ・高齢者の経済状況、健康状況、要介護度状況、社会参加状況、生活環境について説明できる。			11	【授業單元】 介護保険制度③ 地域支援事業 【到達目標】 ・地域支援事業(特に総合事業)の目的と対象者を説明できる。 ・地域包括支援センターに配置される三職種(社会福祉士・保健師・主任ケアマネ)の役割を説明できる。 ・地域ケア会議の機能と意義について説明できる。		
4	【授業單元】 高齢者をとりまく社会環境 【到達目標】 ・高齢者の世帯の特徴が説明できる。 ・家族介護の状況について説明できる。 ・家族介護の多様化について説明できる。			12	【授業單元】 介護保険制度④ 居宅・地域密着 【到達目標】 ・主要な居宅サービス(訪問介護・通所介護等)の内容と対象者を説明できる。 ・地域密着型サービスの特性(小規模多機能等)と利用要件を説明できる。 ・介護保険3施設(特養・老健・介護医療院)の機能と役割の違いを比較・説明できる。		
5	【授業單元】 高齢者福祉の歴史と理念。 高齢者福祉の発展過程(明治～昭和中期) 【到達目標】 ・高齢者観の変遷についての概念を説明できる ・福祉規則における考え方の特徴や具体的な内容を説明できる。 ・戦後の日本国憲法成立から昭和中期までの法整備について背景要因と共に説明できる。			13	【授業單元】 高齢者に対する関連諸制度① 【到達目標】 ・高齢者虐待について、種別・類型ごとに傾向を説明できる ・虐待対応における支援の視点とプロセスを説明できる ・育児介護休業法の対象、制度について説明できる		
6	【授業單元】 高齢者福祉の歴史と理念 高齢者福祉の発展過程(昭和後期～平成) 【授業單元】 ・ゴールドプラン～新ゴールドプラン～ゴールドプラン21 策定背景とサービス体制整備を説明できる。 ・介護保険制度の創設から近年の地域包括ケアシステム構築までの施策と課題を説明できる。 ・高齢者福祉の概念および法律にみられる高齢者福祉の理念を説明できる。			14	【授業單元】 高齢者に対する関連諸制度② 【到達目標】 ・高齢者医療確保法について説明できる ・バリアフリー新法について説明できる ・高齢者住まい法について説明できる		
7	【授業單元】 高齢者福祉の理念 【到達目標】 ・日本の法律にみられる理念について説明できる。 ・高齢者福祉の理念についての諸理論について説明できる。			15	【授業單元】 前期授業の振り返り / 定期試験 【到達目標】 ・前期授業 全範囲を対象とした筆記試験による理解度の確認 ・定期試験問題の解答解説と前期授業の振り返り		
8	【授業單元】 中テスト(第1～7回までの授業範囲を出題対象とする) 老人福祉法 【到達目標】 ・老人福祉法成立の経緯と目的、理念について説明できる。 ・老人福祉法と介護保険法との関係性について説明できる。 ・地域包括ケアの実現に向けた老人福祉法の改正について説明できる。			【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点とし、定期テスト60点、小テスト、中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点をA～Fの6段階で評価を行う。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)の小テストの合計点とする。			
【履修に当たっての心構え・留意点】							
高齢者の取り巻く環境、制度について積極的に「なまんで」いきましょう。私が経験した事例紹介やグループワークも取り入れながら高齢者に対する理解を深めていきましょう。							

授業概要

科目名	児童・家庭福祉	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	湊 岳美		
学科 コース	社会福祉科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1、児童と家庭を取り巻く社会環境について理解する。 2、児童福祉の歴史と「子ども観」の変遷・制度の発展過程について理解する。 3、児童や家庭福祉に係る法制度について理解する。 4、児童や家庭福祉領域における支援の仕組みと方法、社会福祉士の役割について理解する。 5、児童や家庭に対する適切な支援のあり方を理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
スクールソーシャルワーカーを10年以上経験。福祉サービス第三者評価の評価調査者として保育所、児童養護施設、母子生活支援施設、児童発達支援、放課後等デイサービス等、児童に関連する施設を毎年数か所訪問調査。これらの経験を活かし、実践例を交えながら講義する。適宜、個人・グループワークも取り入れて、主体的に学べる授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
テキスト：最新社会福祉士養成講座3 児童・家庭福祉（中央法規） 参考図書：ジェネラリスト・ソーシャルワークを実践するために（かがわ出版）					・子どもに関連するニュースや時事問題に関心を持ち自分なりに考察しましょう。 ・毎回テキストの該当ページを一読してから授業に臨みましょう。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 「子ども」とは 【到達目標】 ・ 授業の内容や流れについて理解する ・ 「子ども」について考察する				9	【授業単元】 【第4章】子ども家庭福祉の支援の基盤① 「子ども家庭福祉の法体系」 【到達目標】 ・ 児童福祉六法と関連法規の概要を説明できる			
	【授業単元】 【第1章】子ども家庭福祉とは何か① 「子どもの権利」「子どもの生命と発達」 【到達目標】 ・ 子どもの特性、子どもの発達過程を説明できる ・ 子どもの権利について説明できる					【授業単元】 【第4章】子ども家庭福祉の支援の基盤② 「子ども家庭福祉の実施体制」 【到達目標】 ・ 国、都道府県、市町村の役割と業務を説明できる ・ 実施機関の目的や業務を説明できる			
2	【授業単元】 【第1章】子ども家庭福祉とは何か② 「子どもと家庭・地域」 【到達目標】 ・ 子どもが養育される環境とエコロジカル視点を説明できる				11	【授業単元】 【第4章】子ども家庭福祉の支援の基盤③ 「子ども家庭福祉にかかわる関係機関・施設と利用方式」 【到達目標】 ・ 児童福祉施設や関連機関の目的、役割、利用方式を説明できる			
	【授業単元】 【第1章】子ども家庭福祉とは何か③ 「子ども家庭福祉とは」 【到達目標】 ・ ウェルビーイングについて説明できる					【授業単元】 【第4章】子ども家庭福祉の支援の基盤④ 「子ども家庭福祉の財源と費用負担」 【到達目標】 ・ 子ども家庭福祉の財源、費用負担の仕組みを説明できる			
3	【授業単元】 【第2章】子ども家庭福祉の歴史① 「慈善・恩恵から権利保障へ」「子どもの権利擁護の変遷」 【到達目標】 ・ 明治～昭和初期までの関連する歴史について説明できる ・ 戦後以降の子どもの権利擁護の歴史について説明できる				13	【授業単元】 【第4章】子ども家庭福祉の支援の基盤⑤ 「子ども家庭福祉の人材と専門職」 【到達目標】 ・ 子ども家庭福祉実践を行う機関、施設、専門職について説明できる			
	【授業単元】 【第2章】子ども家庭福祉の歴史② 「少子化対策の始まりから子ども・子育て支援へ」「子ども家庭福祉の動向」 【到達目標】 ・ 現代社会の子どもと家庭の課題を説明できる ・ こども基本法制定後の動向について説明できる					【授業単元】 【第4章】子ども家庭福祉の支援の基盤⑥ 「子ども家庭福祉の計画的推進」 【到達目標】 ・ 子育て支援施策の展開の概要を説明できる			
4	【授業単元】 【第3章】子ども家庭を取り巻く社会環境 「子ども家庭を取り巻く社会環境」「現代社会における課題と子育て・子育てへの影響」 【到達目標】 ・ 人口推移と子育て環境の変化を説明できる ・ 子どもの福祉と子育て支援が必要な状況であることを説明できる				15	【授業単元】 定期試験 【到達目標】 ・ 前期の授業における重要事項を復習し、自身が理解していること、理解していないことを明確にする。			
	【授業単元】 中間テスト 前期前半の学びのふり返り 【到達目標】 ・ 子どもの権利、子ども家庭福祉の歴史、現代社会における課題について説明できる					【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト（8回目授業で実施）は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。			
【履修に当たっての心構え・留意点】									
国家試験を意識しつつも、まずは子ども家庭福祉とはどういうものなのかを知るための知識を獲得してほしい。そのためには、積極的な姿勢で授業に臨んでほしい。									

授業概要

科目名	児童・家庭福祉	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(後期)	担当 教員	湊 岳美		
学科 コース	社会福祉科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1. 児童と家庭を取り巻く社会環境について理解する。 2. 児童福祉の歴史と「子ども観」の変遷・制度の発展過程について理解する。 3. 児童や家庭福祉に係る法制度について理解する。 4. 児童や家庭福祉領域における支援の仕組みと方法、社会福祉士の役割について理解する。 5. 児童や家庭に対する適切な支援のあり方を理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
スクールソーシャルワーカーを10年以上経験。福祉サービス第三者評価の評価調査者として保育所、児童養護施設、母子生活支援施設、児童発達支援、放課後等デイサービス等、児童に関連する施設を毎年数か所訪問調査。これらの経験を活かし、実践例を交えながら講義する。適宜、個人・グループワークも取り入れて、主体的に学べる授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
テキスト：最新社会福祉士養成講座3 児童・家庭福祉（中央法規） 参考図書：ジェネラリスト・ソーシャルワークを実践するために（かもがわ出版）					・子どもに関連するニュースや時事問題に関心を持ち自分なりに考察しましょう。 ・毎回テキストの該当ページを一読してから授業に臨みましょう。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 【第5章】子どもの福祉課題と支援① 「スクールソーシャルワーク」				9	【授業単元】 【第6章】子ども家庭福祉のソーシャルワーク実践①			
	【到達目標】 ・スクールソーシャルワーカーの役割を説明できる ・教育機関と福祉との協働のあり方について理解できる					【到達目標】 ・子どもと家庭のさまざまな事例を知る ・これまでの学びを基に事例を考察する ・ソーシャルワークの視点に基づく支援について考える			
2	【授業単元】 【第5章】子どもの福祉課題と支援② 「子ども・子育て支援」「母子保健」				10	【授業単元】 【第6章】子ども家庭福祉のソーシャルワーク実践②			
	【到達目標】 ・子ども・子育て支援事業を説明できる ・母子保健法の目的や対象、事業の考え方などを説明できる					【到達目標】 ・子どもと家庭のさまざまな事例を知る ・これまでの学びを基に事例を考察する ・ソーシャルワークの視点に基づく支援について考える			
3	【授業単元】 【第5章】子どもの福祉課題と支援③ 「保育」「社会的養護」				11	【授業単元】 【第6章】子ども家庭福祉のソーシャルワーク実践③			
	【到達目標】 ・保育制度の概要、課題について説明できる ・社会的養護のしくみ、権利擁護を説明できる					【到達目標】 ・子どもと家庭のさまざまな事例を知る ・これまでの学びを基に事例を考察する ・ソーシャルワークの視点に基づく支援について考える			
4	【授業単元】 【第5章】子どもの福祉課題と支援④ 「要保護児童等と在宅支援」「児童虐待にかかわる支援」				12	【授業単元】 【第6章】子ども家庭福祉のソーシャルワーク実践④			
	【到達目標】 ・要保護児童と家庭の課題を説明できる ・児童虐待の定義と種類、現状を説明できる					【到達目標】 ・子どもと家庭のさまざまな事例を知る ・これまでの学びを基に事例を考察する ・ソーシャルワークの視点に基づく支援について考える			
5	【授業単元】 【第5章】子どもの福祉課題と支援⑤ 「ひとり親家庭への支援」「ドメスティック・バイオレンスと女性支援」				13	【授業単元】 【第6章】子ども家庭福祉のソーシャルワーク実践⑤			
	【到達目標】 ・ひとり親家庭の社会的課題を説明できる ・DV支援について説明できる					【到達目標】 ・子どもと家庭のさまざまな事例を知る ・これまでの学びを基に事例を考察する ・ソーシャルワークの視点に基づく支援について考える			
6	【授業単元】 【第5章】子どもの福祉課題と支援⑥ 「少年非行」「若者支援」				14	【授業単元】 【第6章】子ども家庭福祉のソーシャルワーク実践⑥			
	【到達目標】 ・少年非行への対応について説明できる ・若者支援制度について説明できる					【到達目標】 ・子どもと家庭のさまざまな事例を知る ・これまでの学びを基に事例を考察する ・ソーシャルワークの視点に基づく支援について考える			
7	【授業単元】 【第5章】子どもの福祉課題と支援⑦ 「障害のある子どもへの支援」「外国にルーツがある子どもと家庭への支援」				15	【授業単元】 定期試験			
	【到達目標】 ・障害のある子どもに関する施策や支援サービスを説明できる ・外国にルーツのある子どもへの福祉的課題を説明できる					【到達目標】 ・後期の授業における重要事項を復習し、自身が理解していること、理解していないことを明確にする			
8	【授業単元】 中間テスト 後期前半の学びのふり返り				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト（8回目授業で実施）は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 ・子どもと家庭福祉の各課題と支援の概要を説明できる								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
事例を通してアセスメントの重要性を知り、自分ならどう見立て、どのような支援を組み立てて展開するのが良いのかを考えてほしい。									

授業概要

[illegible]

授業概要

科目名	現代の精神保健の課題と支援	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	福井博一		
学科 コース	社会福祉科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
次の2点を目標とする。 ①精神保健福祉士として、さまざまな精神保健の課題について理解し、説明することができる。 ②あらゆる年代の人々の、さまざまな相談に対して、精神保健福祉士として支援するための知識・方法について理解し、説明することができる。									
【学習内容】									
精神保健福祉士・公認心理師・臨床心理士として、あらゆる年代の人々の、さまざまな相談に応じてきた講師が、クライアントや利用者とかかわるために必要とされる、精神保健の課題と支援に関する授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟「現代の精神保健の課題と支援 第2版」(中央法規)					授業内容と、実習やアルバイト、自らの日常生活をつねに結び付けて考えることは、精神保健の課題と支援における立派な授業時間外学習である。				
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 ・オリエンテーション				9	【授業単元】 ・中テスト返却と講評 ・精神保健における家族の課題と支援～その1～			
	【到達目標】 ・精神保健の課題と支援の目標・予定・進め方について理解できる。 ・国家試験過去問の傾向と対策について理解することができる。 ・精神保健とは、ということについて理解し、説明することができる。					【到達目標】 ・返却・講評された中間試験を振り返り、後半の課題を明確にすることができる。 ・児童虐待の現状と対策について理解し、説明することができる～その1～。			
2	【授業単元】 ・精神保健の概要と課題～その1～				10	【授業単元】 ・精神保健における家族の課題と支援～その2～			
	【到達目標】 ・対人援助における想像力について理解し、説明することができる。					【到達目標】 ・児童虐待の現状と対策について理解し、説明することができる～その2～。			
3	【授業単元】 ・精神保健の概要と課題～その2～				11	【授業単元】 ・精神保健における家族の課題と支援～その3～			
	【到達目標】 ・社会・時代の変化と精神保健の課題の変化について考え、理解し、説明することができる。					【到達目標】 ・思春期の家族関係・友人関係・恋愛関係について理解し、説明することができる。 ・自らの人間関係にについて振り返ることができる。			
4	【授業単元】 ・精神保健の概要と課題～その3～				12	【授業単元】 ・精神保健における家族の課題と支援～その4～			
	【到達目標】 ・社会的孤立の問題について理解し、説明することができる。					【到達目標】 ・性と心の結びつきについて理解し、説明することができる。 ・精神保健における性行動への対応について理解し、説明することができる。			
5	【授業単元】 ・精神保健の概要と課題～その4～				13	【授業単元】 ・精神保健における家族の課題と支援～その5～			
	【到達目標】 ・社会的貧困の問題について理解し、説明することができる。					【到達目標】 ・性別違和について理解し、説明することができる。 ・性別違和の当事者の生きづらさとその支援について理解し、説明することができる。			
6	【授業単元】 ・精神保健の概要と課題～その5～				14	【授業単元】 ・精神保健における家族の課題と支援～その6～			
	【到達目標】 ・精神保健の課題と支援の歴史について理解し、説明することができる。					【到達目標】 ・結婚に関する意識調査に基づく結婚観の変化について理解し、説明することができる。 ・結婚により生じる精神保健の問題について理解し、説明することができる。			
7	【授業単元】 ・精神保健の概要と課題～その6～				15	【授業単元】 ・定期試験			
	【到達目標】 ・エリクソンのライフサイクルについて理解し、説明することができる。 ・各発達段階の課題について理解し、説明することができる。					【到達目標】 ・前期14回の振り返りを行い、内容を理解し、確認することができる。			
8	【授業単元】 ・中テスト				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 ・1～7回目の振り返りを行い、内容を理解し、確認することができる。				・定期試験60%、毎回授業の小テスト40%の配分で総合し、A～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
・つねに現場を意識して、クライアントや利用者とかかわるかを想定しながら授業に参加してください。									

授業概要

科目名	現代の精神保健の課題と支援	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	福井博一		
学科 コース	社会福祉科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
次の2点を目標とする。 ①精神保健福祉士として、さまざまな精神保健の課題について理解し、説明することができる。 ②あらゆる年代の人々の、さまざまな相談に対して、精神保健福祉士として支援するための知識・方法について理解し、説明することができる。									
【学習内容】									
精神保健福祉士・公認心理師・臨床心理士として、あらゆる年代の人々の、さまざまな相談に応じてきた講師が、クライアントや利用者とかかわるために必要とされる、精神保健の課題と支援に関する授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟「現代の精神保健の課題と支援 第2版」(中央法規)					授業内容と、実習やアルバイト、自らの日常生活をつねに結び付けて考えることは、精神保健の課題と支援における立派な授業時間外学習である。				
回	授業計画			回	授業計画				
1	【授業単元】 ・オリエンテーション ・精神保健における学校教育の課題と支援～その1～			9	【授業単元】 ・中テスト返却と講評 ・精神保健における職場の課題と支援～その1～				
	【到達目標】 ・後期後半の授業の目的・予定について理解することができる。 ・現代の学校教育における諸課題について理解し、説明することができる。				【到達目標】 ・職場における勤労者のストレスについて理解し、説明することができる～その1～。				
2	【授業単元】 ・精神保健における学校教育の課題と支援～その2～			10	【授業単元】 ・精神保健における職場の課題と支援～その2～				
	【到達目標】 ・いじめの問題とその対策について理解し、説明することができる。				【到達目標】 ・職場における勤労者のストレスについて理解し、説明することができる～その2～。				
3	【授業単元】 ・精神保健における学校教育の課題と支援～その3～			11	【授業単元】 ・精神保健における職場の課題と支援～その3～				
	【到達目標】 ・学校における暴力問題について理解し、説明することができる。 ・非行問題について理解し、説明することができる。				【到達目標】 ・過労死の問題と対策について理解し、説明することができる。				
4	【授業単元】 ・精神保健における学校教育の課題と支援～その4～			12	【授業単元】 ・精神保健における職場の課題と支援～その4～				
	【到達目標】 ・子どもの自殺とその対策について理解し、説明することができる。				【到達目標】 ・事業場における勤労者のメンタルヘルス対策について理解し、説明することができる。				
5	【授業単元】 ・精神保健における学校教育の課題と支援～その5～			13	【授業単元】 ・精神保健における諸課題と支援～その1～				
	【到達目標】 ・教職員の精神疾患の現状について理解し、説明することができる。 ・教職員の支援について理解し、説明することができる。				【到達目標】 災害支援について理解し、説明することができる。				
6	【授業単元】 ・精神保健福祉士として働くということとお金について～その1～			14	【授業単元】 ・精神保健における諸課題と支援～その2～				
	【到達目標】 ・現代社会において対人援助職者として働き、報酬を得るということについて理解し、説明することができる～その1～。				【到達目標】 ・緩和ケアについて理解し、説明することができる。				
7	【授業単元】 ・精神保健福祉士として働くということとお金について～その2～			15	【授業単元】 ・定期試験				
	【到達目標】 ・現代社会において対人援助職者として働き、報酬を得るということについて理解し、説明することができる～その2～。				【到達目標】 ・後期14回の振り返りを行い、内容を理解し、確認することができる。				
8	【授業単元】 ・中テスト			【成績評価の方法と基準】 ・定期試験60％、毎回授業の小テスト40％の配分で総合し、A～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1／2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。					
	【到達目標】 ・1～7回目の振り返りを行い、内容を理解し、確認することができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
・つねに現場を意識して、クライアントや利用者とうかがかわるかを想定しながら授業に参加してください。									

授 業 概 要

科目名	精神保健福祉の原理	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	長谷川 賢治		
学科 コース	社会福祉科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
本科目の到達目標は以下のとおりです。①精神保健福祉領域における「障害」の概念と、社会的包摂（ソーシャルインクルージョン）や社会的障壁の歴史の変遷について論理的に説明できる。②ソーシャルワークの代表的な実践アプローチ（心理社会的アプローチ、問題解決アプローチ、生活モデル、ストレングスモデル等）と、それを提唱した主要な人物の理論を比較し、具体的に説明できる。③日本精神保健福祉士協会倫理綱領に基づき、自己決定の尊重、パターナリズムの回避、秘密保持などの職業倫理と、現場で生じる倫理的ジレンマについて説明できる。									
【学習内容】（どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）									
精神科医療機関の精神科ソーシャルワーカー、障害福祉サービス事業所のサービス管理責任者と相談支援専門員、障害福祉サービス事業者の経営者等の実務経験がある教員が、精神保健福祉士の倫理と価値、障害者の権利擁護とエンパワメント、精神保健福祉に関する法制度とサービス、精神保健福祉の歴史と展望などについて、実例を交えた講義を実施します。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
精神保健福祉の原理（最新 精神保健福祉士養成講座 5）（中央法規出版）					授業中に提示するテーマや語句の復習、参考文献の参照、精神保健福祉に関するニュースや記事の視聴などを可能な限りお願いします。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーションと精神保健福祉の概念				9	【授業単元】 援助関係の形成とバ이스テックの7原則			
	【到達目標】 本科目の目的と、心理カウンセラーが精神保健福祉を理解できる意義。障害者福祉の思想と原理の歴史的展開を導入として理解できる。					【到達目標】 面接の基礎となるラポール形成と、個別化、意図的な感情表出、統制された情緒的関与、受容、非審判的態度などの7原則を実践的に理解できる。			
2	【授業単元】 「障害」の概念とパラダイムシフト				10	【授業単元】 ソーシャルワークの基本理論①（初期の理論）			
	【到達目標】 医学モデルから社会モデルへの転換、ICF（国際生活機能分類）に基づく障害の捉え方と、谷中輝雄が提唱した「生活のしづらさ」の概念を理解できる。					【到達目標】 リッチモンドの「社会診断」、ロビンソンの機能主義、ホリスが提唱した「状況の中にある人」を中心とする心理社会的アプローチを理解できる。			
3	【授業単元】 社会的排除とノーマライゼーションの理念				11	【授業単元】 ソーシャルワークの基本理論②（問題解決・課題中心）			
	【到達目標】 ニリエの「ノーマライゼーションの8つの原則」や、ヴォルフエンズベルガーの「ソーシャルロール・パロリゼーション」など、歴史的な理念を理解できる。					【到達目標】 パールマンの「4つのP」に基づく問題解決アプローチ、リードとエプシュタインの課題中心アプローチを比較・理解できる。			
4	【授業単元】 日本の精神保健医療の歴史①（戦前～戦後）				12	【授業単元】 ソーシャルワークの基本理論③（システム論・生態学）			
	【到達目標】 1900年の精神病患者監護法（私宅監置）から1950年の精神衛生法制定に至る、精神障害者の処遇の歴史を理解できる。					【到達目標】 ピンカスとミナハンの「4つのシステム」、ジャーメインとギッターマンのエコロジカル・アプローチ（生活モデル）について理解できる。			
5	【授業単元】 日本の精神保健医療の歴史②（現代の動向）				13	【授業単元】 ソーシャルワークの基本理論④（現代的アプローチ）			
	【到達目標】 1984年の宇都宮病院事件を契機とした1987年の精神保健法への改正と、任意入院制度の創設など人権擁護強化の背景を理解できる。					【到達目標】 ラップらが提唱したストレングスモデル、ソロモンのエンパワメントアプローチ、ホワイトのナラティブアプローチを習得する。			
6	【授業単元】 精神保健福祉士の誕生と法的責務				14	【授業単元】 マクロ領域のアプローチとコミュニティワーク			
	【到達目標】 1997年の精神保健福祉士法成立の経緯。法の目的、信用失墜行為の禁止、秘密保持義務、誠実義務（2010年追加）、責務向上の責務を理解できる。					【到達目標】 個別支援（ミクロ）から地域・社会（マクロ）への展開。コミュニティオーガニゼーション、ソーシャルアクション、ソーシャルプランニングの概念を理解できる。			
7	【授業単元】 専門職の倫理と価値（倫理綱領）				15	【授業単元】 定期試験 定期試験の解説と前期学習内容の振り返り（まとめ）			
	【到達目標】 日本精神保健福祉士協会倫理綱領に基づき、クライアントの自己決定の尊重、パターナリズムの回避、専門職の権力性と倫理的ジレンマを事例から理解できる。					【到達目標】 前期1回～14回までの授業の内容から出題される定期試験によって、前期の学習内容の目標達成度が評価できること。 定期試験の結果を踏まえて、後期学習に向けた目標設定ができること。			
8	【授業単元】 1回～7 回までの授業の総復習 中テスト及び中テスト解説				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 1回～7 回までの授業の内容から出題される中テストにおいて、学習内容の総復習ができること。 授業内容を踏まえた中テストを実施することで、「精神保健福祉士の主な支援対象者となる人と社会の捉え方」に関する知識の整理と定着を図れること。				科目の評価は、定期試験を60%、毎回授業の小テストと中テストの合計を40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 定期試験は5択の選択式問題記号選択式で行う。 小テスト、中テストでは記号選択式、○×式、記述式などを授業の内容に応じて適宜出題する。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト（8回目授業で実施）は15点満点とする。 その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
授業の中で積極的に授業に参加し、個人ワークやグループワークに主体的に取り組んでください。 授業で学んだことを、日々の生活や実習に活用することを試行してください。									

授業概要

科目名	精神保健福祉の原理	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	長谷川 賢治		
学科 コース	社会福祉科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
本科目の到達目標は以下のとおりです。①精神病患者監護法から精神保健福祉法へと至る日本の精神医療・福祉の歴史的背景と、関連法規（生活保護法、障害者総合支援法など）の基本的な枠組みを概説できる。②アドボカシー（権利擁護）の概念を理解し、ケースアドボカシー、クラスアドボカシー、セルフアドボカシー、ピアアドボカシー等の機能と実践方法について説明できる。③多職種連携（チーム医療）における各種モデル（マルチディシプリナリ、インターディシプリナリ、トランスディシプリナリ等）の違いを理解し、心理職として他の専門職と協働する意義を説明できる。									
【学習内容】（どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）									
精神科医療機関の精神科ソーシャルワーカー、障害福祉サービス事業所のサービス管理責任者と相談支援専門員、障害福祉サービス事業者の経営者等の実務経験がある教員が、精神保健福祉士の倫理と価値、障害者の権利擁護とエンパワメント、精神保健福祉に関する法制度とサービス、精神保健福祉の歴史と展望などについて、実例を交えた講義を実施します。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
精神保健福祉の原理（最新 精神保健福祉士養成講座 5）（中央法規出版）					授業中に提示するテーマや語句の復習、参考文献の参照、精神保健福祉に関するニュースや記事の視聴などを可能な限りお願いします。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 権利擁護（アドボカシー）の機能と実践				9	【授業単元】 就労支援と産業精神保健			
	【到達目標】 セルフ、ピア、ケース、クラス、シチズンアドボカシーの違いを理解し、合理的配慮の概念とともに権利擁護の実践手法を理解できる。					【到達目標】 障害者雇用促進法、ハローワーク、就労移行支援事業所の役割と、IPS（個別職業紹介とサポート）、EAP（従業員支援プログラム）、リワーク等の支援を理解できる。			
2	【授業単元】 精神保健医療に関する法制度と人権				10	【授業単元】 地域生活支援とリカバリーの概念			
	【到達目標】 精神保健福祉法における各種入院形態（任意入院、医療保護入院、措置入院等）の成立要件と、隔離・身体拘束の制限等に関する人権擁護の仕組みを理解できる。					【到達目標】 包括型地域生活支援プログラム（ACT）、クラブハウスモデルなどの実践例と、全人的回復を目指す「リカバリー」の概念を理解できる。			
3	【授業単元】 障害者の生活支援に関する法制度				11	【授業単元】 現代の精神保健課題①（依存症と家族支援）			
	【到達目標】 障害者基本法、障害者差別解消法、および障害者総合支援法に基づくサービス提供の仕組み（居宅介護、地域活動支援センター等）について理解できる。					【到達目標】 アルコール・薬物依存症の理解（ハームリダクション）、家族の課題（共依存、イネイブラー）、セルフヘルプグループとヘルパーセラピー原則を理解できる。			
4	【授業単元】 経済的支援に関する法制度（生活保護等）				12	【授業単元】 現代の精神保健課題②（社会的孤立とトラウマ）			
	【到達目標】 救護法から続く生活保護法の歴史と8種類の扶助（生活、医療、住宅等）、生活困窮者自立支援法、障害基礎年金等の制度概要を理解できる。					【到達目標】 セルフネグレクト、ヤングケアラーなどの複合的課題と、トラウマインフォームドアプローチに基づく心理的・福祉的支援の重要性を理解できる。			
5	【授業単元】 権利擁護を支える関連制度				13	【授業単元】 専門職の成長（スーパービジョンとバーンアウト）			
	【到達目標】 成年後見制度、日常生活自立支援事業、各種虐待防止法（高齢者、障害者、児童）などの法的メカニズムと専門職の通報義務を理解できる。					【到達目標】 専門職のバーンアウト予防と成長のためのスーパービジョン（管理的、教育的、支持的機能）や、ピアスーパービジョン、コンサルテーションの意義を理解できる。			
6	【授業単元】 医療・福祉機関における専門職の役割				14	【授業単元】 精神保健福祉の原理の総合復習			
	【到達目標】 医師、保健師、看護師、公認心理師、作業療法士等の業務独占・名称独占の定義と、社会復帰調整官等の関連職種役割について理解できる。					【到達目標】 これまでの知識を総動員し、実際の国家試験事例を用いて、法制度の活用、アドボカシー、アプローチの選択を総合的に復習し、連続性のある知識を理解できる。			
7	【授業単元】 多職種連携（チームアプローチ）の理論と実践				15	【授業単元】 定期試験 定期試験の解説と前期学習内容の振り返り（まとめ）			
	【到達目標】 マルチディシプリナリ、インターディシプリナリ、トランスディシプリナリ・モデルの違いと、チームビルディング（タックマンモデル等）を理解できる。					【到達目標】 前期1回～14回までの授業の内容から出題される定期試験によって、前期の学習内容の目標達成度が評価できること。 定期試験の結果を踏まえて、後期学習に向けた目標設定ができること。			
8	【授業単元】 1回～7 回までの授業の総復習 中テスト及び中テスト解説				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 1回～7 回までの授業の内容から出題される中テストにおいて、学習内容の総復習ができること。 授業内容を踏まえた中テストを実施することで、「精神保健福祉士の主な支援対象者となる人と社会の捉え方」に関する知識の整理と定着を図れること。				科目の評価は、定期試験を60%、毎回授業の小テストと中テストの合計を40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 定期試験は5択の選択式問題記号選択式で行う。 小テスト、中テストでは記号選択式、〇×式、記述式などを授業の内容に応じて適宜出題する。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト（8回目授業で実施）は15点満点とする。 その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
授業の中で積極的に授業に参加し、個人ワークやグループワークに主体的に取り組んでください。 授業で学んだことを、日々の生活や実習に活用することを試行してください。									

授 業 概 要

科目名	精神障害リハビリテーション論	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	伊藤 純子		
学科 コース	社会福祉科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
①精神科リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割を理解することができる。 ②精神科リハビリテーションの理念と方法を説明できる。 ③精神保健ソーシャルワークと精神障害リハビリテーションの関係性を理解することができる。 ④当事者や家族に対する理解を深めることができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
生活や就労支援、精神障害者人権センター等での支援経験を持つ教員が、実践例や当事者の体験談等のエピソードを交え、実践的な理解が促進されるよう、わかりやすい授業を行う。また、理論と実践との間にあるギャップを前提に、精神保健福祉士(ソーシャルワーカー)に求められる揺るぎの力(ジレンマ)に目を向け、精神保健福祉士として働く上でのやりがいやたのしさを伝えることに焦点を充てる。その中で、精神障害者は、本来は支え合えるはずの地域や社会の中で、生きづらさを感じながら生活しているという現実を知り、考察する上で、当事者中心の視点を大切にした対話的・参加型の授業を展開する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新 精神保健福祉士養成講座 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 精神障害リハビリテーション論					授業で学んだ知識を仲間と共有したり、日常生活や対人関係において活用する。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】テキストP2～8 (1)科目オリエンテーション (2)精神障害リハビリテーションとソーシャルワーク				9	【授業単元】テキストP139～161 社会的リハビリテーションプログラム			
	【到達目標】 (1)本科目の概要と意義を理解することができる (2)精神障害リハビリテーションの意義と特徴を理解することができる (3)精神保健ソーシャルワークの現状を理解することができる (4)精神障害リハビリテーションと精神保健ソーシャルワークの違いを理解することができる					【到達目標】 社会的リハビリテーションプログラムについて具体的に学び、理解することができる 社会的リハビリテーションが実施されている機関について把握することができる 精神障害リハビリテーションプログラムへの精神保健福祉士のかかわりを知ることができる			
2	【授業単元】テキストP9～32 (1)精神障害リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割 (2)精神障害リハビリテーションの理念と定義				10	【授業単元】テキストP163～173 教育的リハビリテーションプログラム			
	【到達目標】 (1)精神障害リハビリテーションの原理を理解することができる、(2)ソーシャルワークの価値を理解することができる、(3)精神障害リハビリテーションにおける多職種連携について理解することができる、(4)リハビリテーションの理念と定義を理解することができる、(5)精神障害リハビリテーションに至る歴史的経緯と定義について理解することができる、(6)医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーションの考え方について理解することができる					【到達目標】 特別支援教育の実施機関について理解を深めることができる 特別支援教育における各プログラムについて理解を深めることができる 障害のある学生への支援について学ぶことができる			
3	【授業単元】テキストP33～52 医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーション				11	【授業単元】テキストP174～195 家族支援プログラム			
	【到達目標】 (1)医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーションの概要を理解することができる (2)医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーションの実践概要を理解することができる (3)4つのリハビリテーションの関連性について考えることができる					【到達目標】 精神障害リハビリテーションにおける家族支援の視点について学ぶことができる 精神障害リハビリテーションにおけるさまざまな家族支援プログラムの方法について学ぶことができる セルフヘルプグループとしての家族会と精神保健福祉士の支援のあり方について学ぶことができる			
4	【授業単元】P54～75 精神障害リハビリテーションの対象 チームアプローチ				12	【授業単元】テキストP196～206 リハビリテーションに用いられるその他の手法・プログラム			
	【到達目標】 (1)精神障害リハビリテーションの対象について理解することができる、(2)精神障害者の法制度上の位置づけについて理解することができる、(3)精神障害の特性について理解することができる、(4)チームアプローチと多職種連携の概要を把握することができる、(5)各専門職の役割を理解する、(6)チームアプローチの方法や課題を学ぶことができる					【到達目標】 マインドフルネスの概要とエクササイズを理解し、実践に活かすことができる オープンダイアログの考え方を理解することができる リカバリーカレッジについて理解することができる			
5	【授業単元】テキストP76～83 精神障害リハビリテーションのプロセス				13	【授業単元】P208～231 精神障害リハビリテーションの動向と実際			
	【到達目標】 (1)精神障害リハビリテーションは、多職種による包括的な支援システムであることを理解することができる (2)そのプロセスが利用者との共同作業であることを理解することができる (3)その評価は、個人レベルと事業所レベルの評価を含む複合的なものである					【到達目標】 自身の経験を活かして活動するピアサポーターの多様性を理解することができる 精神障害者の家族を支援する活動の意義を学ぶことができる ケアラーがケアを行うことによって受ける影響について理解を深めることができる			
6	【授業単元】テキストP84～111 医学的リハビリテーションプログラム				14	【授業単元】 各授業の振り返り			
	【到達目標】 (1)精神科医療機関で実施されるリハビリテーションプログラムの目的と内容を理解することができる、(2)精神科医療機関で行われているリハビリテーションプログラムにかくある専門職や診療報酬のための施設基準や算定基準について理解することができる、(3)各プログラムにおける精神保健福祉士の関与について理解することができる					【到達目標】 各授業で学んだことを振り返り整理すると共に、学んだことや理解したことを記憶に定着させることができる 定着させた概念や手法を実践に活かすことに挑戦することができる 定期試験に備えることができる			
7	【授業単元】テキストP112～138 職業的リハビリテーションプログラム				15	【授業単元】 定期試験			
	【到達目標】 (1)職業リハビリテーションの概要と援助過程を理解することができる (2)精神障害における職業リハビリテーションの支援対象を把握することができる (3)職業リハビリテーションプログラムの内容と実際を学ぶことができる					【到達目標】 第1回から第14回までの授業を振り返り、効果測定で理解度を知ることができる			
8	【授業単元】テキストP2～138 中テスト				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 第1回から第7回までの授業を振り返り、効果測定で理解度を知ることができる								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
●知識の定着に向けてキーとなる概念やポイントとなるキーワードを理解し、自分の考えを述べられることを目標とする。 ●小テストでは、各回のレジュメで最低限覚えておいてほしいキーとなる概念やキーワードを中心に問題とする。									

授業概要

科目名	ソーシャルワークの基盤と専門職	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	前田 伊織		
学科 コース	社会福祉科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1、ソーシャルワーク専門職として法的な位置づけを元に専門性について理解する 2、ソーシャルワークの定義や構成要素について理解する 3、ソーシャルワークの原理や概念について理解する 4、ソーシャルワーク専門職としての倫理について理解する									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
高齢者福祉施設、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所等にて相談援助業務や管理業務を約17年間務める。業務で得た知識を元に、ソーシャルワーカーとしての倫理観や心構えなどを、実際に出会った事例などを元に理解しやすい形での授業進行を心がける。また、社会福祉士としての考え方を介護支援専門員との視点を交えて伝えていけるよう授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】				【授業時間外における学習】					
最新社会福祉士養成講座 ソーシャルワークの基盤と専門職(中央法規出版) タブレット(MicrosoftTeams)、授業時に配布する資料				予習・復習として、ソーシャルワーク専門職としてどのような実質が必要となり、どのような役割を果たすのかを日常的に考察する。授業での発表や提出は事前通知する。					
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 導入ガイダンス 第1章 ソーシャルワーク専門職である社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ(1)			9	【授業単元】 第4章 ソーシャルワークの形成過程(1)				
	【到達目標】 ・ソーシャルワーク専門職について理解できる ・社会福祉士法及び介護福祉士法について理解できる ・精神保健福祉士法について理解できる				【到達目標】 ・ソーシャルワーク前史について理解できる ・ソーシャルワークの基礎確立期について理解できる				
2	【授業単元】 第1章 ソーシャルワーク専門職である社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ(2)			10	【授業単元】 第4章 ソーシャルワークの形成過程(2)				
	【到達目標】 ・社会福祉士及び精神保健福祉士の専門性について理解できる ・社会福祉士・精神保健福祉士に求められるコンピテンシーについて理解できる				【到達目標】 ・ソーシャルワークの発展期について理解できる ・ソーシャルワークの展開期と統合化について理解できる				
3	【授業単元】 第2章 ソーシャルワークの概念(1)			11	【授業単元】 第4章 ソーシャルワークの形成過程(3)				
	【到達目標】 ・ソーシャルワークの定義の変遷について理解できる ・ソーシャルワークについて理解できる ・ソーシャルワーク専門職のグローバル定義について理解できる				【到達目標】 ・日本における社会事業前史について理解できる ・日本における社会事業の基礎確立期について理解できる ・日本におけるソーシャルワークの展開について理解できる				
4	【授業単元】 第2章 ソーシャルワークの概念(2)			12	【授業単元】 第5章 ソーシャルワークの倫理(1)				
	【到達目標】 ・ソーシャルワークを構成する要素について理解し、説明することができる				【到達目標】 ・専門職の倫理概念について理解できる ・各種倫理綱領について理解できる				
5	【授業単元】 第3章 ソーシャルワークの基盤となる考え方(1)			13	【授業単元】 第5章 ソーシャルワークの倫理(2)				
	【到達目標】 ・ソーシャルワークの原理について理解できる ・人権を尊重し養護することの意味について理解できる ・集団的責任を果たすことについて理解できる ・多様性の尊重について理解できる				【到達目標】 ・各種倫理綱領について理解できる				
6	【授業単元】 第3章 ソーシャルワークの基盤となる考え方(2)			14	【授業単元】 第5章 ソーシャルワークの倫理(3)				
	【到達目標】 ・ソーシャルワークの理念について理解できる ・当事者主権、尊厳の保持、権利擁護、自立支援、エンパワメント、ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョンについて理解できる				【到達目標】 ・倫理的ジレンマについて理解できる				
7	【授業単元】 第3章 ソーシャルワークの基盤となる考え方(3)			15	定期試験 前期授業の振り返り				
	【到達目標】 ・当事者主権、尊厳の保持、権利擁護、自立支援、エンパワメント、ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョンについて理解できる				【到達目標】 ・前期授業 全範囲を対象とした筆記試験による理解度の確認 ・定期試験問題の解答解説と前期授業の振り返り				
8	【授業単元】 中テスト(第1～7回までの授業範囲を出題対象とする)			【成績評価の方法と基準】					
	【到達目標】			講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。					
【履修に当たっての心構え・留意点】									
ソーシャルワークの専門職の基礎となる分野です。「専門職の価値とは何か」を理解できるよう心掛けてください。部分的に、授業内でグループワークを取り入れ、専門職として考える力も習得できるよう進行する予定です。									

授業概要

科目名	ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	前田 伊織		
学科 コース	社会福祉科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1、ソーシャルワーク専門職の概念や役割について理解する 2、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて理解する 3、ジェネラリストについて理解する 4、多職種連携とチームアプローチについて理解する									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
高齢者福祉施設、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所等にて相談援助業務や管理業務を約17年間務める。業務で得た知識を元に、ソーシャルワーカーとしての倫理観や心構えなどを、実際に出会った事例などを元に理解しやすい形で授業進行を心がける。また、社会福祉士としての考え方を介護支援専門員との視点を交えて伝えていけるよう授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】				【授業時間外における学習】					
最新社会福祉士養成講座 ソーシャルワークの基盤と専門職(中央法規出版) タブレット(MicrosoftTeams)、授業時に配布する資料				予習・復習として、ソーシャルワーク専門職としてどのような資質が必要となり、どのような役割を果たすのかを日常的に考察する。授業での発表や提出は事前通知する。					
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 導入ガイダンス 第6章 ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲(1)			9	【授業単元】 第8章 総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容(1)				
	【到達目標】 ・専門職の成立条件について理解できる ・社会生活支援・地域支援の専門職としてのソーシャルワーカーについて理解できる ・ソーシャルワーク専門職と職能団体の役割について理解できる				【到達目標】 ・総合的かつ包括的な支援としてのソーシャルワークの意義と必要性について理解できる ・ソーシャルワークにおけるジェネラリストの視点について理解できる ・ジェネラリストの視点に基づくソーシャルワークの特徴				
2	【授業単元】 第6章 ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲(2)			10	【授業単元】 第8章 総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容(2)				
	【到達目標】 ・社会福祉士の職域と役割について理解できる ・多様な組織・機関・団体における専門職について理解できる ・諸外国の同行について理解できる				【到達目標】 ・ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容について理解できる ・多機関・多職種の連携・協働による包括的支援体制の構築について理解できる				
3	【授業単元】 第7章 ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク(1)			11	【授業単元】 第8章 総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容(3)				
	【到達目標】 ・ソーシャルワークにおける、ミクロ・メゾ・マクロレベルについて理解できる ・ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象について理解できる ・ミクロ・メゾ・マクロレベルにおける課題状況の把握について理解できる				【到達目標】 ・社会資源となる人や組織等との協働体制について理解できる ・ソーシャルサポートネットワークングについて理解できる				
4	【授業単元】 第7章 ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク(2)			12	【授業単元】 第8章 総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容(4)				
	【到達目標】 ・ソーシャルワーク専門職のグローバル定義とミクロ・メゾ・マクロレベルにおける実践の展開について理解できる ・ミクロ・メゾ・マクロレベルへの介入の考え方について理解できる				【到達目標】 ・多職種連携およびチームアプローチの意義と内容について理解できる ・機関・団体間の合意形成の促進とクライアントとの連携・協働について理解できる				
5	【授業単元】 第7章 ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク(3)			13	【授業単元】 第8章 総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容(5)				
	【到達目標】 ・ミクロレベルでの実践の展開と考え方について理解できる				【到達目標】 ・ジェネラリストの視点に基づく事例検討を行うことができる				
6	【授業単元】 第7章 ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク(4)			14	【授業単元】 第8章 総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容(6)				
	【到達目標】 ・メゾレベルでの実践の展開と考え方について理解できる				【到達目標】 ・社会資源や多職種連携を意識した事例検討ができる				
7	【授業単元】 第7章 ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク(5)			15	定期試験 後期授業の振り返り				
	【到達目標】 ・マクロレベルでの実践の展開と考え方について理解できる				【到達目標】 ・後期授業 全範囲を対象とした筆記試験による理解度の確認 ・定期試験問題の解答解説と前期授業の振り返り				
8	【授業単元】 中テスト(第1～7回までの授業範囲を出題対象とする)			【成績評価の方法と基準】					
	【到達目標】			講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。					
【履修に当たっての心構え・留意点】									
ソーシャルワークの専門職の基礎となる分野です。「専門職の価値とは何か」を理解できるよう心掛けてください。部分的に、授業内でグループワークを取り入れ、専門職として考える力も習得できるよう進行する予定です。									

授業概要

科目名	情報リテラシーⅡ	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	株式会社 プレーンスタッフコンサルタンツ		
学科 コース	社会福祉科	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
Excelのグラフや画像・動画を取り入れた、訴求力のあるプレゼンテーションスライドを作成し発表できる									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
滋慶学園グループの企業である(株)プレーンスタッフコンサルタンツのラーニングマネージャーが、卒業研究や就職後に必須となるパソコンスキルについての講義を実施。学生に必要なスキルに特化した、オリジナルのe-learning(インターネット上のテキスト)を使用									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
オリジナルのe-learningテキスト					e-learningテキストで操作手順を確認し、PC操作を実践する				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 入門：生成AI入門 IT・DXリテラシー理解度テスト			9	【授業単元】 Excel応用F データ集計				
	【到達目標】 Copilotを使って生成AIを正しく活用できる IT・DXリテラシー理解度テストに合格する				【到達目標】 COUNTIF関数やピボットテーブルを使用したアンケート集計ができる				
2	【授業単元】 プレゼンテーション基礎1 設計			10	【授業単元】 プレゼンテーション応用B グラフ応用				
	【到達目標】 何を伝えるかを簡潔に示したスライド作成の設計ができる				【到達目標】 効果的なグラフの作成方法を理解し、活用できる				
3	【授業単元】 プレゼンテーション基礎2 図解			11	【授業単元】 プレゼンテーション応用D スライドマスター				
	【到達目標】 レイアウト、配色等、デザインに考慮した図解を作成できる				【到達目標】 プレゼンテーションをサポートする機能を活用できる				
4	【授業単元】 プレゼンテーション基礎3 表・図表			12	【授業単元】 プレゼン制作1				
	【到達目標】 表の活用・図表の効果的な表現をすることができる				【到達目標】 テーマに沿ったプレゼンテーション資料を作成できる				
5	【授業単元】 プレゼンテーション基礎4 画像・グラフ			13	【授業単元】 プレゼン制作2				
	【到達目標】 画像とグラフの効果的な活用ができる				【到達目標】 テーマに沿ったプレゼンテーション資料を作成できる				
6	【授業単元】 プレゼンテーション基礎5 アニメーション			14	【授業単元】 プレゼンテーションⅡ試験対策				
	【到達目標】 効果的なアニメーション効果の設定、データの共有方法について理解し活用できる				【到達目標】 プレゼンテーション講座で学習した操作を繰り返し練習して、設問指示に従った操作を実践できる				
7	【授業単元】 プレゼンテーション試験対策			15	【授業単元】 プレゼンテーションⅡ定期試験				
	【到達目標】 プレゼンテーション基礎講座で学習した操作を繰り返し練習して、設問指示に従った操作を実践できる				【到達目標】 設問指示に従った操作を実践して、プレゼンテーション資料を作成できる				
8	【授業単元】 プレゼンテーション中テスト			【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。					
	【到達目標】 設問指示に従った操作を実践して、プレゼンテーション資料を作成できる								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
PC操作は日々繰り返すことでタイピング速度が上がり、効率的な資料作成やデータ処理が可能になります。できるだけ日常に取り入れて活用してください。									

授業概要

科目名	情報リテラシーⅡ	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	株式会社 プレーンスタッフコンサルタンツ			
学科 コース	社会福祉科	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間	
【授業を通じての到達目標】										
Excelのグラフや画像・動画を取り入れた、訴求力のあるプレゼンテーションスライドを作成し発表できる										
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)										
滋慶学園グループの企業である(株)プレーンスタッフコンサルタンツのラーニングマネージャーが、卒業研究や就職後に必須となるパソコンスキルについての講義を実施。学生に必要なスキルに特化した、オリジナルのe-learning(インターネット上のテキスト)を使用										
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】					
オリジナルのe-learningテキスト					e-learningテキストで操作手順を確認し、PC操作を実践する					
コマ	授業計画			コマ	授業計画					
1	【授業単元】 入門：生成AI入門 IT・DXリテラシー理解度テスト			9	【授業単元】 Excel応用F データ集計					
	【到達目標】 Copilotを使って生成AIを正しく活用できる IT・DXリテラシー理解度テストに合格する				【到達目標】 COUNTIF関数やピボットテーブルを使用したアンケート集計ができる					
2	【授業単元】 プレゼンテーション基礎1 設計			10	【授業単元】 プレゼンテーション応用B グラフ応用					
	【到達目標】 何を伝えるかを簡潔に示したスライド作成の設計ができる				【到達目標】 効果的なグラフの作成方法を理解し、活用できる					
3	【授業単元】 プレゼンテーション基礎2 図解			11	【授業単元】 プレゼンテーション応用D スライドマスター					
	【到達目標】 レイアウト、配色等、デザインに考慮した図解を作成できる				【到達目標】 プレゼンテーションをサポートする機能を活用できる					
4	【授業単元】 プレゼンテーション基礎3 表・図表			12	【授業単元】 プレゼン制作1					
	【到達目標】 表の活用・図表の効果的な表現をすることができる				【到達目標】 テーマに沿ったプレゼンテーション資料を作成できる					
5	【授業単元】 プレゼンテーション基礎4 画像・グラフ			13	【授業単元】 プレゼン制作2					
	【到達目標】 画像とグラフの効果的な活用ができる				【到達目標】 テーマに沿ったプレゼンテーション資料を作成できる					
6	【授業単元】 プレゼンテーション基礎5 アニメーション			14	【授業単元】 プレゼンテーションⅡ試験対策					
	【到達目標】 効果的なアニメーション効果の設定、データの共有方法について理解し活用できる				【到達目標】 プレゼンテーション講座で学習した操作を繰り返し練習して、設問指示に従った操作を実践できる					
7	【授業単元】 プレゼンテーション試験対策			15	【授業単元】 プレゼンテーションⅡ定期試験					
	【到達目標】 プレゼンテーション基礎講座で学習した操作を繰り返し練習して、設問指示に従った操作を実践できる				【到達目標】 設問指示に従った操作を実践して、プレゼンテーション資料を作成できる					
8	【授業単元】 プレゼンテーション中テスト			【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。						
	【到達目標】 設問指示に従った操作を実践して、プレゼンテーション資料を作成できる									
【履修に当たっての心構え・留意点】										
PC操作は日々繰り返すことでタイピング速度が上がり、効率的な資料作成やデータ処理が可能になります。できるだけ日常に取り入れて活用してください。										

授 業 概 要

科目名	地域連携プログラム指導	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年	担当 教員	遠藤 龍		
学科 コース	社会福祉科	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	2 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
地域連携プログラムや学校行事に関連した準備や振り返りを行うとともに、そのプロセスにおいて既習内容と関連させる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
福祉専門職育成に携わる教員が、当プログラムの目的及び実習に関する基本的なマナーについて指導をするとともに、学校行事に学生が主体的な姿勢で参加できるようにファシリテートを行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
適宜資料を配布するとともに、各自の取り組む内容に関連するWEBサイトや教科書を参照すること。					実習内容の振り返りとともに、関連する内容についての主体的な調べ学習やボランティアの参加を要する。				
授業計画									
【地域連携プログラムの実習内容の振り返りとシェア】 ・実習プログラム参加に際して、日誌記入の仕方、実習先での利用者・職員との基本的な関わり方等について最低限必要なことを理解するとともに、状況に応じた行動ができるようになる。 ・実習プログラムにおいて日々体験した内容を言語化し、クラス内シェアをするとともに、他の学生の活動や気付きにふれ、次回の行動につなげていく。									
【履修に当たっての心構え・留意点】					【成績評価の方法と基準】				
グループワークやペアワーク等で、主知的な姿勢で課題解決に臨む姿勢を求める。					記述試験とする。 成績の評価については、学則に準ずる。				

授 業 概 要

科目名	地域連携プログラム	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年	担当 教員	遠藤 龍			
学科 コース	社会福祉科	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	8 単位	総時間数	240 時間	
【授業を通じての到達目標】										
地域における社会福祉・精神保健福祉領域の多様な対象の支援に必要な基礎を、講義・演習科目と福祉現場体験を通して身につける。 3年次の「ソーシャルワーク実習(社会)」、4年次の「ソーシャルワーク実習(精神)」の学びを補完、強化し、卒業研究の学びにつなげるのオリジナルプログラムとして行う。										
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)										
福祉専門職育成に携わる教員が、当プログラムの目的及び実習に関する基本的なマナーについて指導をする。合わせて、各事業所における現場職員が、実習機会を提供し、利用者理解と事業所理解に資する技術・知識について指導を行う。										
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】					
適宜資料を配布するとともに、各自の取り組む内容に関連するWEBサイトや教科書を参照すること。					実習内容の振り返りとともに、関連する内容についての主体的な調べ学習やボランティアの参加を要する。					
授業計画										
社会福祉・精神保健福祉領域に特化した施設実習プログラム										
1年次授業で学んだ知識・技術を、その実習先において必要な援助に変換して実践する。(スペシフィックソーシャルワークの実践)										
★ねらい										
・個別支援計画を立案する力につなげるコミュニケーション力の強化										
・3年次の「ソーシャルワーク実習(社会)」、4年次の「ソーシャルワーク実習(精神)」に向けた記録のトレーニング										
★取り組む内容										
基本的なコミュニケーション／人間形成／利用者理解										
★プログラム内容										
社会福祉・精神保健福祉分野等の協力施設での現場体験(実習)										
★実施日程										
原則月曜日										
※前・後期は異なる事業所										
※後期は、前期内容を踏まえた上で、各施設の抱えている課題を自発的に発見し、その課題を解決する考え方・姿勢を持ち、限られた時間内にて最善の解決方法を模索する。										
活動を通じた振り返り・活動報告会										
事業所実習プログラムで取り組んだ内容については、後期終了時に活動報告会にてプレゼンテーションを行う。										
★2年生の予定										
前期 地域連携プログラム 10日間										
夏 社会福祉士法定実習 8日間										
後期 地域連携プログラム 10日間										
基本的に2年生では各学生2～3事業所を経験する形で実習先を調整する。										
【履修に当たっての心構え・留意点】					【成績評価の方法と基準】					
実習時には感染症予防等もふまえ、体調管理に留意する必要がある。 また、主体的な姿勢で課題解決に臨む姿勢を求める。					日誌、月報及び活動報告会のプレゼンテーション及び個人の振り返りを通して評価を行う。 評価の基準等は学則に準ずる。					

授業概要

科目名	社会福祉の原理と政策	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	内藤 博幸		
学科 コース	社会福祉科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間

【授業を通じての到達目標】

現代社会における福祉制度や意義や理念、福祉政策との関係について理解し、その概要を説明できる。福祉政策におけるニーズと資源について理解する。福祉政策の課題について理解し、解決策を模索する。福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解し、福祉国家論の基本を説明できるようにする。福祉政策の構成要素(福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割)について理解する。福祉政策と関連政策(教育政策、住宅政策、労働政策等)の関係について理解し、市場経済における労働・教育と福祉政策との関係を概説できるようにする。

【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

福祉国家及び福祉政策に関する研究経験のある教員が、現代社会における福祉政策を理解するための授業を行う。

【使用教科書・教材・参考図書】

【授業時間外における学習】

「最新 社会福祉士養成講座4 第2版 社会福祉の原理と政策」中央法規
使用教材は授業ごとに配布する

授業を受けたその日のうちに、今一度内容を確認することが重要です。そこで、必ず疑問点が、見えてくるはずです。

回	授業計画	回	授業計画
1	【授業単元】 イギリスでの社会福祉の源流 エリザベス教養法～トインビーホール P22～25 P50～56 P353 【到達目標】 ・エリザベス教養法の内容が説明できるようになる。 ・新教養法の3つの原則を上げることができる。 ・トインビーホール設置の目的と事業内容を説明できる。	9	【授業単元】 現代社会の変化と福祉 人口動態や世帯の在り方から福祉政策をの変化を見る P118～128 【到達目標】 ・高齢化率の変遷を説明できる ・合計特殊出生率の変遷を説明できる。 ・世帯の在り方の変化を説明できる ・働き方の変遷を説明できる。
2	【授業単元】 福祉国家の萌芽 貧困調査～ワイマール共和国の誕生 P26～27 P50～56 【到達目標】 ・貧困調査の意義とその報告内容を簡単に説明できる。 ・ナショナルミニマムについて簡潔に説明できる。 ・第一次大戦の結末と社会主義国家誕生を関連付けて説明できる。 ・ワイマール共和国誕生の意義を解説でききる	10	【授業単元】 社会保障予算の抑制へ 「新しい日本型福祉社会の実現」(1979)～福祉八法改正(1990) P45～46 【到達目標】 ・1979年の「新しい日本型福祉社会」とは、何かを説明できる。 ・1985年の基礎年金制度への改正とその目的を説明できる。 ・1989年「今後の社会福祉のあり方について」のポイント3つを指摘できる。 ・福祉八法改正の要点を3つあげられる。
3	【授業単元】 福祉国家の発展 ルーズベルトの社会保障法～ジョンソンの「貧困戦争」 P28～31 P50～56 【到達目標】 ・ルーズベルト大統領のニューディール政策と社会保障法を解説できる。 ・ベヴァリッジ報告の目指した生活保障を解説できる。 ・ジョンソン大統領の「貧困との戦い」の内容を説明できる。 ・福祉国家の意味をを端的に説明できる。	11	【授業単元】 社会福祉基礎構造改革 1994「21世紀福祉ビジョン」～2000「社会福祉法」 P47 P216～218 【到達目標】 ・「21世紀福祉ビジョン」が目指した重要ポイント一つをあげる。 ・1998「社会福祉基礎構造改革」の「措置から契約へ」「多様な主体の参入」の意味と意義を説明できる。 ・2000年「社会福祉法」の最重要ポイントを一点あげられる
4	【授業単元】 福祉国家の変容 福祉多元論～ワークフェアの拡がり P31～33 P50～56 【到達目標】 ・レーガノミクスやサッチャイズムを解説できる。 ・新自由主義が福祉政策に及ぼした影響を解説できる。 ・「第三の道」や「ポジティブウェルフェア」を解説できる。	12	【授業単元】 新自由主義的改革 小泉政権下の構造改革～民主党政権の政策 2005～介護保険制度の改正 2008:後期高齢者医療制度 2004:年金改革 【到達目標】 ・小泉政権が行った自立支援にはどのようなものがあったかを説明できる ・セーフティネットの底が抜けた日本の課題を解説できる ・民主党政権下の「税と社会保障の一体改革」の意味を解説できる
5	【授業単元】 日本の福祉の源流 江戸時代～明治の社会事業政策 中央慈善協会設立(1908) P35～39 【到達目標】 ・江戸時代の都市と農村での互助制度を簡単に述べることができる。 ・明治時代の篤志家による社会事業活動に関して、7人の活動内容を説明できる。 ・感化法の歴史的意味を議論できる ・明治期の慈善事業は篤志家によって支えられていたことを理解する。	13	【授業単元】 安倍政権下の社会福祉政策 P219～221 【到達目標】 ・貧困対策としての生活困窮者自立支援法の中身を言う ・労働力不足対策としての女性活躍推進法の意味を解説できる ・アベノミクス 新・三本の矢の意味するところを説明できる
6	【授業単元】 戦争と厚生事業 済世顧問制度(1917)～健康保険(1942) P39～41 【到達目標】 ・方面委員制度・済世顧問制度を説明できる。 ・健康保険制度を成立させた時代背景を具体的に述べることができる。 ・戦時厚生事業の目的を把握し、説明できる。 ・厚生年金の成立の事情を述べられる。	14	【授業単元】 社会的包摂と地域共生社会の構築へ P221～241 【到達目標】 ・地域包括ケアシステムを構築しようと考えたきっかけが何かを説明できる ・介護保険法と地域包括システムの関係を解説できる ・「一億総活躍プラン」と地域共生社会の関係を解説できる・「我が事・丸ごと」地域共生社会 ・「我が事・丸ごと」地域共生社会をイメージできる
7	【授業単元】 福祉国家への始動 マッカーサー三原則(1945)～国民皆保険の達成(1961) P41～43 【到達目標】 ・福祉三法を制定した必要性を説明できる。 ・新生活保護法の改正点を挙げることができる。 ・医療保険と年金保険制度に関して、簡単な説明ができる	15	【授業単元】 ・社会福祉の歴史の総復習 ・後期試験 【到達目標】 ・グループ学習で、お互いの知識を確認する ・試験は60%以上の正解率
8	【授業単元】 福祉の充実期 1960～1975 所得倍増計画(1960)～福祉元年(1973) P43～45 【到達目標】 ・福祉六法をすべてあげることができる。 ・社会保障制度審議会『862年勧告』の重要部分を解説できる。 ・田中角栄首相の「福祉元年」の内容を説明できる ・福祉見直しが言われ始めた背景を解説できる	【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。	
【履修に当たっての心構え・留意点】 配布プリントに解答を書き込むだけでなく、気が付いたことや理解に役立つことと思ったら、どんどんメモを取っていいことです。			

授業概要

科目名	社会福祉の原理と政策	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	内藤 博幸		
学科 コース	社会福祉科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
現代社会における福祉制度や意義や理念、福祉政策との関係について理解し、その概要を説明できる。福祉政策におけるニーズと資源について理解する。福祉政策の課題について理解し、解決策を模索する。福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解し、福祉国家論の基本を説明できるようにする。福祉政策の構成要素(福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割)について理解する。福祉政策と関連政策(教育政策、住宅政策、労働政策等)の関係について理解し、市場経済における労働・教育と福祉政策との関係を概説できるようにする。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
福祉国家及び福祉政策に関する研究経験のある教員が、現代社会における福祉政策を理解するための授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
「最新 社会福祉士養成講座4 第2版 社会福祉の原理と政策」中央法規 使用教材は授業ごとに配布する					授業を受けたその日のうちに、今一度内容を確認することが重要です。そこで、必ず疑問点が、見えてくるはずです。				
回	授業計画			回	授業計画				
1	【授業単元】 社会福祉の思想・哲学 福祉政策において重要な概念・理念 P50～65 P139～152			9	【授業単元】 男女共同参画社会と日本の課題 P363～365				
	【到達目標】 ・福祉政策の下となった理念の変遷を説明できる ・自由主義・社会主義・保守主義などのイデオロギーを理解し簡単な説明ができる ・社会権、ノーマライゼーション、福祉多元主義など重要な用語の解説ができる ・ウェルフェアからワークフェアへの意味を解説できる				【到達目標】 ・女性解放運動(フェミニズム運動)の簡単な歴史を解説できる ・男女共同参画社会の目的は何かを解説できる ・労働力不足対策 ・少子化対策				
2	【授業単元】 福祉政策におけるニーズと資源(リソース) P156～186 P82～90			10	【授業単元】 今日の我が国の福祉制度の課題				
	【到達目標】 ・非貨幣ニードという発想が生まれた背景を解説できる ・ブラッドショーのニード分類を理解し、解説することができる。 ・ニーズ(必要)とデマンド(需要)を解説できる ・必要原則と貢献原則 報酬と用具の用語解説ができる				【到達目標】 ・岸田首相の異次元の少子化対策の内容を解説できる ・岸田内閣の掲げる「新しい資本主義」とは何かを説明できる ・菅義偉内閣の子ども基本法制定と子ども家庭庁の新設について解説できる ・財政の問題を語るることができる				
3	【授業単元】 福祉政策と資源配分 P188～199 分配の正義 P79～80			11	【授業単元】 福祉国家の類型 P318～320 P357				
	【到達目標】 ・ロールズの格差原理を解説できる ・パレート効率性を理解する ・現金給付と現物給付の長所・短所をあげることができる				【到達目標】 ・先進各国の社会保障費の現状を解説できる ・ティトマスの福祉国家の分類を説明できる ・E.アンデルセンの福祉国家レジームを解説できる ・ウレンスキーの福祉国家収斂説を説明できる				
4	【授業単元】 福祉サービスの供給 P288～306			12	【授業単元】 アメリカの社会保障制度 P335～337				
	【到達目標】 ・ウルフェンデン報告の福祉ミックス論を解説できる ・「平行権理論」と「繰り出し梯子理論」を解説できる ・PFIや指定管理者制度などNPMについて説明できる ・ベストの「福祉トライアングル」を説明できる				【到達目標】 ・アメリカの医療制度を解説できる ・アメリカの年金制度を解説できる ・アメリカの高齢者政策を解説できる				
5	【授業単元】 福祉政策と保健医療政策 福祉政策と教育政策 P256～259 P260～264			13	【授業単元】 イギリスの社会保障制度				
	【到達目標】 ・後期高齢者医療制度を説明できる ・地域完結型医療への転換を理解できる ・特別支援学校と就学支援制度を簡潔に理解する				【到達目標】 ・イギリスの医療制度を解説できる ・イギリスの年金制度を解説できる ・イギリスの社会保障政策の流れを解説できる				
6	【授業単元】 福祉政策と住宅政策 P265～261			14	【授業単元】 フランス・ドイツ・スウェーデンの社会保障体制 P326～335				
	【到達目標】 ・老人保健施設、経費老人ホーム、サ高住、特養の違いを説明できる ・住宅セーフティネット法の特徴をひとつ述べることができる。 ・住宅政策の課題をあげられる				【到達目標】 ・スウェーデンのエーデル改革を解説できる ・ドイツのハルツ改革を解説できる ・フランスの一般社会拠出金制度を説明できる				
7	【授業単元】 福祉政策と災害政策 P278～285			15	【授業単元】 ・社会福祉政策と理念の総復習 ・後期試験				
	【到達目標】 ・民生委員と避難行動要支援者登録制度について説明できる ・生活支援相談員の職務を解説できる ・社協のボランティアコーディネータを説明できる ・被災者生活再建支援法を解説できる				【到達目標】 ・グループ学習で、お互いの知識を確認する ・試験は60%以上の正解率				
8	【授業単元】 福祉政策と雇用政策 P272～277			【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。					
	【到達目標】 ・福祉国家の福祉政策の重要性を説明できる ・フレキシビリティ、ワークフェア、アクティベーションのそれぞれの違いを明確に説明できる。 ・求職者支援制度を説明できる ・最低賃金制度に関しての一通りの説明ができる								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
配布プリントに解答を書き込むだけでなく、気が付いたことや理解に役立つことと思ったら、どんどんメモを取っていくことです。									

授 業 概 要

科目名	刑事司法と福祉	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	栗林 正彦		
学科 コース	社会福祉科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
・本授業では、刑事司法制度と福祉制度の接点に着目し、犯罪・非行・被害の背景にある社会的要因を理解することを目的とする。 1. 刑事司法制度の基本構造と役割を理解する。 2. 犯罪・非行と貧困、障害、依存症、家族問題などの関係を説明できる。 3. 加害者・被害者双方に対する福祉的支援の意義を理解する。 4. 刑罰と福祉の関係について批判的に考察できる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
刑事司法は「刑罰」を中心とした制度である一方、福祉は「支援」や「回復」を重視する制度である。本授業では、両者が対立するものではなく、相互に補完し合う関係にあることを、理論・制度・事例の検討を通じて明らかにする。再犯防止、被害者支援、司法福祉の実践など、現代社会における重要課題を扱う。担当教員は、現在保護司として保護観察所と連携を保ちながら、加害者への更生支援に当たっている。また、対人援助技術を駆使しながら、地域包括支援センター及び各種施設での管理者を歴任し相談援助を行ってきた。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
「最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座10刑事司法と福祉」 (中央法規)一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集					日常から起こり得る事件報道等について意識を傾け、授業で学んでいることと照らし合わせながら理解を深める。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 ガイダンス、第1章「刑事司法と福祉」総論				9	【授業単元】 第8章 施設内処遇② 少年			
	【到達目標】 1.2.3.4 刑事司法にソーシャルワーカーに係わる理由、支援にあたって求められる姿勢、刑事司法と福祉の関係がどう展開してきたかを理解する。					【到達目標】 1.2.3.4 少年院および少年鑑別所の組織体制と処遇について確認し、少年院における矯正教育のあり方と社会復帰支援を理解する。			
2	【授業単元】 第2章 社会と犯罪				10	【授業単元】 第9章 社会内処遇の理論と実践			
	【到達目標】 1.2.3.4 日本の犯罪の状況と、その現象を把握し刑事司法の特徴と問題を理解する。					【到達目標】 1.2.3.4 更生保護の意義と歴史を確認し、更生保護制度の概要を学び、ソーシャルワーカーの役割・課題、ネットワークについて理解する。			
3	【授業単元】 第3章 犯罪原因論と対策				11	【授業単元】 第10章 多様なニーズを有する犯罪行為者① 精神障害者を対象とした医療観察制度			
	【到達目標】 1.2.3.4 犯罪原因論に基づく犯罪への対応について学び、その限界を把握し、犯罪対策について考える。					【到達目標】 1.2.3.4 医療観察制度の概要と社会復帰調整官・地域のソーシャルワーカーの役割を理解する。			
4	【授業単元】 第4章 刑罰とは何か				12	【授業単元】 第11章 多様なニーズ有する犯罪行為者② 高齢者・障害者による犯罪・非行と福祉			
	【到達目標】 1.2.3.4 刑罰の本質と機能を知り、刑罰の適用状況を把握すること。					【到達目標】 1.2.3.4 司法と福祉の連携の展開、地域生活定着支援センターの役割と機能について確認し、高齢者・障害者の特徴を把握し、支援と課題を理解。			
5	【授業単元】 第5章 刑事司法				13	【授業単元】 第12章 多様なニーズを有する犯罪行為者③ アディクションを抱える人と刑事司法			
	【到達目標】 1.2.3.4 刑事手続の実態と、刑事手続におけるクライアントの扱われ方を知ったうえで、本人と向き合うことを理解する。					【到達目標】 1.2.3.4 アディクションについて、ソーシャルワーカーは適切にそのメカニズムを理解し、地域社会の協力を得ながら支援することを理解する。			
6	【授業単元】 第6章 少年司法				14	【授業単元】 第13章 犯罪被害者等支援			
	【到達目標】 1.2.3.4 少年による非行・犯罪がさまざまな社会問題や少年自身のニーズと切り離せないものであることを理解し、少年と向き合う。					【到達目標】 1.2.3.4 犯罪被害者等支援に関する制度の概要を把握し、支援における考え方、そして支援の実践を理解する。			
7	【授業単元】 第7章 施設内処遇① 成人				15	【授業単元】 第14章 コミュニティと刑事司法、まとめ			
	【到達目標】 1.2.3.4 刑務所の生活の枠組みを知り、受刑生活の本人への影響を考える想像力を養う。					【到達目標】 1.2.3.4 定期試験・これまでの学びを振り返る。			
8	【授業単元】 中間試験				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 第1章から第7章の振り返りとまとめ。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
講義中心の授業となると常に受け身になるが、先ずは聴く姿勢を培う。(対人援助においては、聴くことが相談の第一歩)また、その際自分自身でも「考える」という習慣を付ける。									

授業概要

科目名	地域福祉と包括的支援体制	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	根本 典子		
学科 コース	社会福祉科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
本科目では、以下の6点を重点的に学修することにより、地域福祉事業を推進するための本旨を理解しながら、精神保健福祉士が地域福祉事業を推進するために実践で活かせる知識と力を養成し、さらに社会資源も活用しかつ開発できるような実践力の修得を目指しながら、共生社会の実現に向けた地域包括ケア時代を理解する。 ①地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について理解する。 ②地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体形成の概念を理解する。 ③地域福祉を推進するための、福祉行財政の実施体制と果たす役割について理解する。 ④地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開を理解する。 ⑤包括的支援体制の考え方と、多職種協働の意義と実際について理解する。 ⑥地域生活課題の変化と現状を踏まえ、包括的支援体制における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割を理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
地方自治体の福祉事務所において地域福祉推進事業や地域包括支援センター事業等を担当していた現場での経験を活かし、共生社会の実現に向けた地域包括ケアシステムの時代実践されている支援策等を紹介しながら講義を行う。講義は、教科書等を活用しながら、制度に関する資料を提示し、地域福祉に関する学修を深められるように進めていく。毎回授業では、小テストを実施する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
1)最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座「6 地域福祉と包括的支援体制」第2版 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 2026年 中央法規㈱ 2)新・社会福祉士シリーズ 10 「地域福祉と包括的支援体制」〔第2版〕福祉臨床シリーズ編集委員会編 山本美香責任編集 2026年 ㈱弘文堂 3)社会福祉士・精神保健福祉士受験ワークブック2027 (共通科目) 中央法規社会福祉士受験対策研究会編集 2026年 中央法規㈱ 4)その他、講義時に紹介する。					他の科目で学習した知識と相互に関連付けて理解を深めるために、事前学習・事後学習を行うとより知識が向上する。 また、ソーシャルワークは、人々の生活や制度・社会問題等の理解に働きかけることから、普段の日常生活の中からもこれらの課題や問題意識を持つと学修力が高まる。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 1)オリエンテーション 2)「地域福祉」の基本的理解 3)「包括的支援体制」の基本的理解 4)「地域福祉」と「包括的支援体制」				9	【授業単元】 地域福祉のガバナンスと多機関協働 ― 仕組みや多機関連携 ―			
	【到達目標】 1)「地域福祉」とは何か理解できる。 2)「包括的支援体制」を理解できる。 3)「地域福祉」と「包括的支援体制」を理解できる。					【到達目標】 1)総合相談や包括的な支援体制による協議の場を理解できる。 2)各種相談機関の連携協働の仕組みを理解できる 3)多職種連携による保健や医療・福祉及び個人情報保護を説明できる。			
2	【授業単元】 地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題として 1)地域社会の概念と理論 2)地域社会の変化として、地域社会での付き合いや世帯の小規模化や地域社会、過疎地域等				10	【授業単元】 地域福祉のガバナンスと多機関協働 ― 福祉以外の分野との協働として機関 ―			
	【到達目標】 1)地域社会の概念等を理解できる。 2)地域社会の変化の中で、地域社会での付き合い、世帯の小規模、過疎地域や中山間部の現状を理解できる。					【到達目標】 1)社会資源の捉え方を理解できる。 2)地方創生を理解できる。			
3	【授業単元】 地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題として 1)地域社会の変化より貧困や外国人、異質性 2)多様化・複雑化した地域生活課題の現状とニーズ 3)地域福祉と社会的孤立				11	【授業単元】 地域福祉の基本的な考え方 ― 概念及び歴史 ―			
	【到達目標】 1)地域社会の変化における貧困や外国人の増加、異質性を理解できる。 2)多様化・複雑化した地域社会での生活課題について理解できる 3)社会的孤立について説明できる。					【到達目標】 1)地域福祉の概念等を理解できる。 2)地域福祉の歴史を理解できる。欧米・日本			
4	【授業単元】 地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制 ― 地域包括ケアシステム ―				12	【授業単元】 地域福祉の基本的な考え方 ― 日本の歴史 ―			
	【到達目標】 1)地域包括ケアシステムについて説明できる。 2)精神障害者の地域包括ケアシステムを理解できる。 3)包括的な相談支援体制を理解できる。					【到達目標】 1)日本の歴史を理解できる。戦前・戦後 2)コミュニティケアの流れを理解できる。 3)社会福祉基礎構造改革と地域福祉の関係を理解できる。 4)地域共生社会の構築を説明できる。			
5	【授業単元】 地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制 ― 包括的支援体制及び地域共生社会の構築 ―				13	【授業単元】 地域福祉の基本的な考え方 ― 地域福祉の動向及び推進主体、福祉教育 ―			
	【到達目標】 1)包括的支援体制とは何かを理解できる。 2)地域共生社会の内容を理解できる。					【到達目標】 1)地域福祉の動向を理解できる。 2)地域福祉の推進主体を説明できる。 3)福祉教育について理解できる。			
6	【授業単元】 地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制 ― 各種施策及び生活困窮者自立支援 ―				14	【授業単元】 1)福祉教育 2)前期のまとめとして、主な事業			
	【到達目標】 1)多機関協働による包括的支援体制を理解できる。 2)生活困窮者自立支援制度の概要や相談支援関係を理解できる。					【到達目標】 1)地域福祉と福祉教育の実際を理解できる。 2)前期の授業の中から主な事業について理解できる。			
7	【授業単元】 生活困窮者自立支援に関する包括的な相談支援体制				15	【授業単元】 定期試験			
	【到達目標】 1)生活困窮者自立支援に関する包括的な相談支援体制を説明できる。					【到達目標】 1)定期試験を通じてこれまでの重要な事業を再確認し、学修を深めることができる。 2)定期試験後は解説を行い、今後の学修につなげる。			
8	【授業単元】 地域福祉ガバナンスと多機関協働 ― 地域福祉のガバナンス及び多機関協働を促進する仕組み ―				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 1)地域福祉のガバナンスとは何かを理解できる。 2)多機関とは何かを理解できる。 3)地域住民の参加と協働を理解できる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
1)ソーシャルワーカーは、地域福祉を推進していく重要な専門職です。人生100年の時代を見据えて地域包括ケアシステムがどのように稼働しているか確認しましょう。さらに、法改正もありますので、積極的に最新の情報をとりいれましょう。 2)授業毎に資料を配付しますが、教科書も活用しますので、必ず教科書を持参してください。									

授業概要

科目名	地域福祉と包括的支援体制	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(後期)	担当 教員	根本 典子		
学科 コース	社会福祉科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
本科目では、以下の6点を重点的に学修することにより、地域福祉事業を推進するための本旨を理解しながら、精神保健福祉士が地域福祉事業を推進するために実践で活かせる知識と力を養成し、さらに社会資源も活用しかつ開発できるような実践力の修得を目指しながら、共生社会の実現に向けた地域包括ケア時代を理解する。 ①地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について理解する。 ②地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体形成の概念を理解する。 ③地域福祉を推進するための、福祉行財政の実施体制と果たす役割について理解する。 ④地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開を理解する。 ⑤包括的支援体制の考え方と、多職種協働の意義と実際について理解する。 ⑥地域生活課題の変化と現状を踏まえ、包括的支援体制における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割を理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
地方自治体の福祉事務所において地域福祉推進事業や地域包括支援センター事業等を担当していた現場での経験を活かし、共生社会の実現に向けた地域包括ケアシステムの時代に実践されている支援策等を紹介しながら講義を行う。講義は、教科書等を活用しながら、制度に関する資料を提示し、地域福祉に関する学修を深められるように進めていく。毎回授業では、小テストを実施する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
1)最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座「6 地域福祉と包括的支援体制」第2版 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 2026年 中央法規㈱ 2)新・社会福祉士シリーズ 10 「地域福祉と包括的支援体制」〔第2版〕福祉臨床シリーズ編集委員会編 山本美香責任編集 2026年 ㈱弘文堂 3)社会福祉士・精神保健福祉士受験ワークブック2027（共通科目）中央法規社会福祉士受験対策研究会編集 2026年 中央法規㈱ 4)その他、講義時に紹介する。					他の科目で学習した知識と相互に関連付けて理解を深めるために、事前学習・事後学習を行うとより知識が向上する。 また、ソーシャルワークは、人々の生活や制度・社会問題等の理解に働きかけることから、普段の日常生活の中からもこれらの課題や問題意識を持つと学修力が高まる。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 地域を基盤としたソーシャルワークの展開として、その方法及び住民の主体形成に向けたアプローチ				9	【授業単元】 福祉行財政システム ― 都道府県の役割、市町村の役割 ―			
	【到達目標】 1)地域を基盤としたソーシャルワークの概念及び背景を理解できる。 2)生活困窮者自立支援制度とコミュニティワークを説明できる。 3)地域共生社会の実現に向けたアプローチを理解できる。 4)住民主体に向けたアプローチの意義や住民主体の方法を理解できる。								
2	【授業単元】 地域を基盤としたソーシャルワークの展開として、具体的な展開				10	【授業単元】 福祉行財政システム ― 国と地方の関係及び福祉行政の組織・専門職 ―			
	【到達目標】 1)具体的な事業の取り組みを確認し、理解することができる。(分析と考察) 2)多職種連携の例を確認できる。								
3	【授業単元】 災害時における総合的かつ包括的な法制度 ― 法制度及び総合的・包括的支援 ―				11	【授業単元】 福祉行財政システム 1)国と地方の関係及び福祉行政の組織・専門職 2)福祉における財源			
	【到達目標】 1)災害対策基本法を説明できる。 2)災害救助法を説明できる。 3)特定非常災害特別措置法を説明できる。 4)災害弔慰金の支給等に関する法律を説明できる 5)被災者生活再建支援法を説明できる。 6)被災者支援の主体を理解できる。								
4	【授業単元】 災害時における総合的かつ包括的な法制度 ― 法制度及び総合的・包括的支援 ―				12	【授業単元】 福祉における財源 ― 国・地方自治体 ―			
	【到達目標】 1)保健医療福祉の連携による支援を説明できる。 2)災害時におけるソーシャルワークを説明できる。								
5	【授業単元】 福祉計画の意義と種類、策定と運用 ― 福祉計画の内容 ―				13	【授業単元】 福祉における財源 ― 保険料及び民間 ―			
	【到達目標】 1)地方自治体が策定する福祉計画の意義や歴史、種類、機能を理解する。 2)地域福祉計画を理解することができる。								
6	【授業単元】 福祉計画の意義と種類、策定と運用 一 代表的な福祉計画として、地域福祉計画 ―				14	【授業単元】 地域福祉の主な事業のまとめ及び地域包括ケアシステム及び共生社会のまとめ			
	【到達目標】 地方自治体が策定する地域福祉計画を理解できる。								
7	【授業単元】 福祉計画の意義と種類、策定と運用 ― 策定過程と方法及びニーズ把握の方法・技術 ―				15	【授業単元】 定期試験			
	【到達目標】 1)福祉計画の主体、過程・方法を理解できる。 2)ニーズの把握の方法や技術を理解できる。								
8	【授業単元】 1)福祉計画の意義と種類、策定と運用の中の評価 2)福祉行財政システム ― 国の役割 ―				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 1)福祉計画における評価を理解できる。(評価の方法や技術) 2)福祉行財政とは何かを理解できる。 3)国の役割を理解できる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
1)「ソーシャルワーカー」は、地域福祉を推進していく重要な専門職です。人生100年の時代を見据えて地域包括ケアシステムがどのように稼働しているか確認をしましょう。さらに、法改正もありますので、積極的に最新の情報をとりいれましょう。 2)授業毎に資料を配付しますが、教科書も活用しますので、必ず教科書を持参してください。									

授業概要

科目名	ソーシャルワークの理論と方法(社会専門)	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	福田真清		
学科 コース	社会福祉科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
①福祉専門職あるいは福祉を学んだ人材として、地域社会における多様化・複雑化する生活課題に関心を持ち、その課題解消に必要なソーシャルワーク実践を習得する。									
②様々な局面で、その状況に応じた実践を行う上で活用する様々な技術や技法を習得する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
多様化・複雑化する生活課題に対応できる実践的かつ効果的なソーシャルワークの理論と方法の習得を目指し、まずミクロからメゾ、マクロへとつなげるカンファレンスの方法と意義、課題を学ぶ。つぎにソーシャルワーク実践を展開していくなかで活用する技術や技法に触れるとともに、自らの実践を振り返り、課題や支援方法を多角的に検証するための手立てを学ぶ。また、事例を用いたロールプレイを通し、得られた知識を実践力に結びつけるための応用力を身に付ける。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
日本ソーシャルワーク学校連盟編集(2021)『ソーシャルワークの理論と方法[社会専門]』中央法規出版					テキストと授業で配布するレジュメの復習を勧める。本科目の受講にあたっては各授業に1時間の自宅学習(予習・復習等)を必要とする。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション ソーシャルワーク実践を学ぶ意義				9	【授業単元】 これまでの振り返り・中間テスト 援助関係の形成			
	【到達目標】 専門職としてソーシャルワーク実践を学ぶ意義を理解する。					【到達目標】 多様化・複雑化した生活課題に対し、多職種・多機関連携の視点による分野・領域を超えたソーシャルワーク実践方法の基礎を習得する。			
2	【授業単元】 総合的・包括的な支援① 家族・世帯へのソーシャルワーク①(家族・世帯を捉える)				10	【授業単元】 ネットワーク・コーディネーション			
	【到達目標】 家族・世帯を取り巻く環境や動向を理解し、家族・世帯を対象にしたソーシャルワーク実践方法の基礎を習得する。					【到達目標】 多職種・多機関の連携方法の理論と実践力を習得する。			
3	【授業単元】 総合的・包括的な支援② 家族・世帯へのソーシャルワーク②(基礎的な理論)				11	【授業単元】 社会資源の活用・調整・開発			
	【到達目標】 家族・世帯を取り巻く環境や動向を理解し、家族・世帯を対象にしたソーシャルワーク実践方法の基礎を習得する。					【到達目標】 ネットワーク・コーディネーションの知識を基盤に、社会視点の活用・調整・開発の理論を習得する。			
4	【授業単元】 総合的・包括的な支援③ 地域を基盤にしたソーシャルワーク				12	【授業単元】 多様化・複雑化する課題に向き合う① 実践的・効果的なソーシャルワーク			
	【到達目標】 地域に横たわる今日的課題を理解し、地域で展開するソーシャルワーク実践方法の基礎を習得する。					【到達目標】 これまでの知識を応用し、今日の地域課題に対する見立て実践力を養う。			
5	【授業単元】 総合的・包括的な支援④ 貧困とソーシャルワーク				13	【授業単元】 多様化・複雑化する課題に向き合う② 知識と実践の統合			
	【到達目標】 貧困者を取り巻く環境や動向を理解し、貧困者を対象としたソーシャルワーク実践方法の基礎を習得する。					【到達目標】 これまでの知識を応用し、知識と実践の循環を目指す。			
6	【授業単元】 総合的・包括的な支援⑤ 災害とソーシャルワーク				14	【授業単元】 □ 多様化・複雑化する課題に向き合う③ 事例の見立てと解決策			
	【到達目標】 ソーシャルワークの視点から被災地支援を捉え、主に福祉を必要とする被災者を対象にしたソーシャルワーク実践方法の基礎を習得する。					【到達目標】 これまでの知識を活用し、多様化・複雑化した今日的課題を解消するためのソーシャルワーク実践の知識を習得する。			
7	【授業単元】 総合的・包括的な支援⑥ 多文化共生とソーシャルワーク				15	【授業単元】 これからのソーシャルワーク実践の視点・まとめ・試験			
	【到達目標】 マイノリティ・多文化への理解と、そのソーシャルワーク実践方法の基礎を習得する。					【到達目標】 これまでの授業内容を振り返り、重要なポイントを自らの言葉で説明できるようにする。			
8	【授業単元】 総合的・包括的な支援⑦ スピリチュアリティ・生きがいを支える				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 「スピリチュアリティ」に接近し、その意味や考え方をソーシャルワークの視点で捉え、理解する。				科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし中テストは15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
それぞれの授業は連関し合っているため、わからない部分はそのままにせず、次の授業までに必ず消化しておくこと。									

授業概要

科目名	ソーシャルワークの理論と方法(社会専門)	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	福田真清		
学科 コース	社会福祉科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
①支援を必要とする人への理解を示し、様々な局面で状況に応じた適切なソーシャルワーク実践に必要な福祉専門職としての知識と技術を得得する。 ②社会福祉士として多様化・複雑化する課題に対応するため、実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論と方法を理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
多様化・複雑化する生活課題に対応できる実践的かつ効果的なソーシャルワークの理論と方法の習得を目指し、まずミクロからメゾ、マクロへとつなげるカンファレンスの方法と意義、課題を学ぶ。つぎにソーシャルワーク実践を展開していくなかで活用する技術や技法に触れるとともに、自らの実践を振り返り、課題や支援方法を多角的に検証するための手立てを学ぶ。また、事例を用いたロールプレイを通し、得られた知識を実践力に結びつけるための応用力を身につける。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
日本ソーシャルワーク学校連盟編集(2021)『ソーシャルワークの理論と方法 [社会専門]』中央法規出版					テキストと授業で配布するレジュメの復習を勧める。本科目の受講にあたっては各授業に1時間の自宅学習(予習・復習等)を必要とする。				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 「総合的・包括的な支援」の振り返り			9	【授業単元】 ソーシャルワーク技法③ ソーシャル・マーケティング				
	【到達目標】 これまでの「ソーシャルワークの理論と方法」で学んできた内容を振り返り、今日的な課題を捉えながら総合的・包括的支援の必要性を理解する。				【到達目標】 ソーシャルワークの技法である「ソーシャル・マーケティング」について、自らの言葉で説明できるようになる。				
2	【授業単元】 カンファレンス① 会議の種類と方法			10	【授業単元】 ソーシャルワーク技法④ ネゴシエーション				
	【到達目標】 カンファレンス① 会議の種類と方法を理解する。				【到達目標】 ソーシャルワークの技法である「ネゴシエーション」について、事例を取り上げながら自らの言葉で説明できるようになる。				
3	【授業単元】 カンファレンス② ミクロ・メゾ・マクロの会議			11	【授業単元】 ソーシャルワーク技法④ コンフリクト・レゾリューション				
	【到達目標】 ④カンファレンス(ロールプレイ)を通し、カンファレンスの運営方法を習得する。				【到達目標】 ソーシャルワークの技法である「コンフリクト・レゾリューション」について、事例を取り上げながら自らの言葉で説明できるようになる。				
4	【授業単元】 ICTと個人情報			12	【授業単元】 ソーシャルワーク技法⑥ 施設コンフリクトへの対応				
	【到達目標】 多職種連携で多様化・複雑化する課題に向き合う際に必要となる個人情報の取り扱いを理解する。				【到達目標】 ソーシャルワークの技法である「コンフリクト・レゾリューション」について、事例を通して解決に向けた方法を理解する。				
5	【授業単元】 ソーシャルワーク実践の質と専門性の向上① 事例分析・事例検討・事例研究			13	【授業単元】 総合的かつ包括的な支援の実践① 地域住民・地域社会に向き合う				
	【到達目標】 事例分析・事例検討・事例研究に関する基礎的知識を得得する。				【到達目標】 事例を用いながら、総合的・包括的なソーシャルワークの動向と課題を理解する。				
6	【授業単元】 ソーシャルワーク実践の質と専門性の向上② 事例分析シートの活用と事例検討			14	【授業単元】 総合的かつ包括的な支援の実践② 地域でソーシャルワークを実践する				
	【到達目標】 事例を用いたロールプレイを通し、事例分析・事例検討の方法を習得する。				【到達目標】 事例を用いながら、総合的・包括的なソーシャルワークの動向と課題を理解する。				
7	【授業単元】 これまでの振り返り・中間テスト ソーシャルワーク技法① プレゼンテーション			15	【授業単元】 地域共生社会の実現に向けたソーシャルワーク・まとめ・試験				
	【到達目標】 ソーシャルワークの技法である「プレゼンテーション」について、自らの言葉で説明できるようになる。				【到達目標】 これまでの授業内容を振り返り、重要なポイントを自らの言葉で説明できるようになる。				
8	【授業単元】 ソーシャルワーク技法② ファシリテーション			【成績評価の方法と基準】					
	【到達目標】 ソーシャルワークの技法である「ファシリテーション」について、自らの言葉で説明できるようになる。			科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし中テストは15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。					
【履修に当たっての心構え・留意点】									
それぞれの授業は連関し合っているため、わからない部分はそのままにせず、次の授業までに必ず消化しておくこと。									

授業概要

科目名	ソーシャルワーク演習(社会専門)Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	田原雄二		
学科 コース	社会福祉科	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
ソーシャルワーカーとしての基礎となる技術・知識を実践を通して体得する。座学で学んでいる内容を知識だけに留めず実践する中で、実践力を養い現場で生かすことのできる即戦力を身につける。同じ専門職を目指す仲間通しの価値観に触れる、深める中で、視野の広さ・選択肢の豊富さに繋がりが総合的に対応できる能力を習得する。(上記、前期・後期を通して)									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
現場でソーシャルワークの実務経験のある教員が、利用者本人を中心に据えたソーシャルワークの実践力を体得させるために、グループワークや事例検討を中心とした演習を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
テキストはなし。参考図書については授業にて適宜提示する。					地域共生型社会の中で、変わりゆく社会、多様化していく社会の情報を当たり前として捉えず、情報に敏感になり考える習慣を身に付けてほしい。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 本人主体、本人中心の視点とは				9	【授業単元】 アセスメント②			
	【到達目標】 演習の狙いと進め方を共有し、年間を通しての目標を明確にする 現場実習を見据え、ソーシャルワーカーとしての本人主体、本人中心の 視点を理解する					【到達目標】 課題分析シートを使い、事例をさらに深めるために、登場人物やその取 り巻く環境の詳細について考えたり、情報を得るための適切な質問を考え る			
2	【授業単元】 インテーク面接(復習)				10	【授業単元】 アセスメント③			
	【到達目標】 1年生の時に学んだ面接技法を復習する。 事例のシナリオに沿って、インテーク面接を行うことができる					【到達目標】 アセスメントで得られた情報について分析・評価を行い、ケース本人の ストレングスを見出すことができる			
3	【授業単元】 記録について①				11	【授業単元】 アセスメント④			
	【到達目標】 簡単な事例について、SOAP/F-SOAPIF方式による記録を書くことができ る。 インテーク事例について、記録票に具体的に記入することができる					【到達目標】 アセスメントで得られた情報から、家族状況や取り巻く環境について図 式化する(マッピング技法)			
4	【授業単元】 記録について②/意思決定支援①				12	【授業単元】 アセスメント⑤			
	【到達目標】 意思決定支援とは何か、また日常生活における意思決定支援の場面や 意思決定支援の対象について学ぶ					【到達目標】 分析・評価した情報をもとに、ICFの視点を取り入れたアセスメントシート を作成することができる			
5	【授業単元】 意思決定支援②				13	【授業単元】 アセスメントからプランニングへ			
	【到達目標】 認知症の方の事例を通して、意思決定支援の基本的考え方や日常生 活における意思決定支援について考察する					【到達目標】 リアルニーズを導くための思考のプロセスを理解する(ニーズ整理) 本人の思いを時間軸を意識しながら要約・文章化することができる			
6	【授業単元】 意思決定支援③				14	【授業単元】 プランニング①			
	【到達目標】 言語表出が困難な方の事例を通して、社会生活における意思決定支援 について考察するとともに、意思決定支援会議の実際について学ぶ					【到達目標】 支援目標を設定し、困難や課題の解決につながる方法や適切な社会資 源等を提示することができる			
7	【授業単元】 意思決定支援④				15	【授業単元】 プランニング②/定期テスト			
	【到達目標】 ALS患者の事例を通して、人生の選択場面における意思決定支援につ いて考察する。まためとして、代弁者として携わる専門職として、様々な 価値観に触れ自身の考えが当たり前でないことを理解する					【到達目標】 グループで作成したニーズ整理表と支援プラン(簡易版)の発表を行う 前期授業を振り返り、このあとの実習や後期授業に活かす			
8	【授業単元】 アセスメント①/中テスト				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、A からFの6段階で評価を行う。また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点 満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数 でない場合は、小数点以下は切上げとする。 1. レポートのテーマ内容や提出状況により評価する 2. 授業への参加姿勢、グループワーク、発表等の授業参画度により評価 する				
	【到達目標】 ソーシャルワークの展開過程におけるアセスメントの位置づけを理解し、 BPS(バイオ・サイコ・ソーシャル)モデルを使い他者理解の視点を学 ぶ								
【履修に当たっての心構え・留意点】 固定概念を持たず、柔軟な考えと他者の意見を否定せずに受け止めることで 成長に活かしてください。共に考えるという姿勢を大切に。演習一つを大切 な実践の場と捉えて取り組んでください。									

授業概要

科目名	ソーシャルワーク演習(社会専門)Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	田原雄二		
学科 コース	社会福祉科	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
ソーシャルワーカーとしての基礎となる技術・知識を実践を通して体得する。座学で学んでいる内容を知識だけに留めず実践の中で、実践力を養い現場で生かすことのできる即戦力を身につける。同じ専門職を目指す仲間通しの価値観に触れる、深める中で、視野の広さ・選択肢の豊富さに繋がり総合的に対応できる能力を習得する。(上記、前期・後期を通して)									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
現場でソーシャルワークの実務経験のある教員が、利用者本人を中心に据えたソーシャルワークの実践力を体得させるために、グループワークや事例検討を中心とした演習を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
テキストはなし。参考図書については授業にて適宜提示する。					地域共生型社会の中で、変わりゆく社会、多様化していく社会の情報を当たり前として捉えず、情報に敏感になり考える習慣を身に付けてほしい。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 後期オリエンテーション／プランニング③				9	【授業単元】 最近のニュースを題材にした事例検討①			
	【到達目標】 後期に行う演習内容を確認する 前期の演習や実習を振り返りながら、プランニングに必要な項目やポイントを理解する					【到達目標】 最近起こった福祉に関わる事件やニュースを取り上げ、背景を探ったり、対応策や予防策について考察する			
2	【授業単元】 プランニング④				10	【授業単元】 最近のニュースを題材にした事例検討②			
	【到達目標】 アセスメント事例について、本人の特性やストレングスを活かした目標、必要となる社会資源を盛り込んだ支援プランを作成する					【到達目標】 最近起こった福祉に関わる事件やニュースを取り上げ、背景を探ったり、対応策や予防策について考察する			
3	【授業単元】 プランニング⑤				11	【授業単元】 最近のニュースを題材にした事例検討③			
	【到達目標】 作成した支援プランを発表する プランニングのまとめ					【到達目標】 最近起こった福祉に関わる事件やニュースを取り上げ、背景を探ったり、対応策や予防策について考察する			
4	【授業単元】 支援の実施・モニタリング				12	【授業単元】 ソーシャルワーク総合演習①			
	【到達目標】 実施した支援に対する適切な評価を行うための質問項目を検討する					【到達目標】 複合的な課題を抱える家族の事例を用いて、これまでに学んだ知識や技術を活用して、インタークーアセスメント→プランニングの過程をたどりながら検討し、ケースの問題解決への道筋を立てる。			
5	【授業単元】 児童とその家族に対する支援の実践①				13	【授業単元】 ソーシャルワーク総合演習②			
	【到達目標】 児童とその家族の支援事例を検討し、アセスメントや支援者間での連携のあり方を理解する					【到達目標】 複合的な課題を抱える家族の事例を用いて、これまでに学んだ知識や技術を活用して、インタークーアセスメント→プランニングの過程をたどりながら検討し、ケースの問題解決への道筋を立てる。			
6	【授業単元】 児童とその家族に対する支援の実践②				14	【授業単元】 ソーシャルワーク総合演習③			
	【到達目標】 児童とその家族の支援事例を検討し、アセスメントや支援者間での連携のあり方を理解する					【到達目標】 複合的な課題を抱える家族の事例を用いて、これまでに学んだ知識や技術を活用して、インタークーアセスメント→プランニングの過程をたどりながら検討し、ケースの問題解決への道筋を立てる。			
7	【授業単元】 BCP(業務継続計画)と災害時のソーシャルワーク①				15	【授業単元】 定期テスト			
	【到達目標】 BCP(業務継続計画)の基本を理解する 地域における水害や地震を想定し、起こりうるリスクや課題を抽出する					【到達目標】 小論文を実施する			
8	【授業単元】 BCP(業務継続計画)と災害時のソーシャルワーク② 中テスト				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 事例をもとに個別避難計画の作成を行う								
【履修に当たっての心構え・留意点】					1. レポートのテーマ内容や提出状況により評価する 2. 授業への参加姿勢、グループワーク、発表等の授業参画度により評価する				
固定概念を持たず、柔軟な考えと他者の意見を否定せずに受け止めることで成長に活かしてください。共に考えるという姿勢を大切にする。演習一つを大切な実践の場と捉えて取り組んでください。									

授 業 概 要

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ（社会）	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	遠藤龍				
学科 コース	社会福祉科	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1	単位	総時間数	30	時間
【授業を通じての到達目標】											
・相談援助実習の意義について理解する。 ・相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術を体得する。 ・社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ・具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する。											
【学習内容】（どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
社会福祉士としての実務経験が5年以上もしくは実習教員講習会を修了した教員が、集団および個別指導にて実習先における事前理解や実習終了後の現場体験を踏まえた総括等をおこなう。											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
実習要項 社会福祉士指定科目 各教科書						実習オリエンテーションに参加するとともに、実習先についての事前学習等、実習に向けた各自の学習が必要である。					
授業計画											
実習開始前と実習終了後に下記の内容にて実施する ・ 相談援助実習と相談援助実習指導における個別指導及び集団指導の意義 ・ 実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解 ・ 実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解 ・ 現場体験学習及び見学実習（実際の介護サービスの理解や各種サービスの利用体験等を含む。） ・ 実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解 ・ 実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解（個人情報保護法の理解を含む。） ・ 「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解 ・ 実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成 ・ 巡回指導 ・ 実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成 ・ 実習の評価全体総括会											
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
ソーシャルワーカーとしてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むための心がまえが求められる。						提出物及び記述試験をふまえ、A～Eの6段階で評価する。					

授 業 概 要

科目名	ソーシャルワーク実習Ⅰ（社会）	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	遠藤龍				
学科 コース	社会福祉科	学年	2年	授業の 方法	実習	単位数	1	単位	総時間数	60	時間
【授業を通じての到達目標】											
・相談援助実習を通じて、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実的に理解し実践的な技術等を体得する。 ・社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ・関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。											
【学習内容】（どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
社会福祉士として実務経験を取得した講師及び実習指導者講習会を修了した実習担当者が、相談援助実習担当教員の巡回指導と合わせ、実習中の取り組みについてフィードバックとスーパービジョンを行うなかで、実践を通して学んだ知識や経験を理論としてまとめる能力の涵養を行う。											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
実習要項 社会福祉士指定科目 各教科書						実習時間以外も実習日誌の記入や実習課題等に取り組むとともに、既習内容を復習し実習に生かしていく姿勢が必要である。					
授業計画											
以下の内容について、各実習施設における実習計画書に沿って、実習指導者による指導を受け理解を図る。 ・利用者やその関係者、施設・事業者・機関・団体等の職員、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成 ・利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成 ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成 ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援（エンパワメントを含む。）とその評価 ・多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実践 ・社会福祉士としての職業倫理、施設・事業者・機関・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解 ・施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実践 ・当該実習先が地域社会の中の施設・事業者・機関・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーク、社会資源の活用・調整・開発に関する理解											
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
ソーシャルワーカーとしてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むとともに、主体的な姿勢でとくることが求められる。						実習指導者による評価、実習巡回教員による評価、自己評価を換算し、A～Eの5段階で評価する。					

授業概要

科目名	ソーシャルワークの理論と方法（精神専門）	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	安藤 宏美		
学科 コース	社会福祉科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1.精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークのプロセスを説明できる。2.精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法を説明できる。3.精神医療、精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の方法と精神保健福祉士の役割について説明できる。4.精神保健福祉士と所属機関の関係をふまえ、組織運営管理、組織介入・組織活動の展開に関する概念と方法について説明できる。5.個別支援からソーシャルアクションへの実践展開をミクロ・メゾ・マクロの連続性・重層性をふまえて説明できる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
精神保健福祉士として精神科医療機関でソーシャルワークを行ってきた教員が、精神保健福祉士の専門性である「価値・知識・技術」を中心に据え、精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークのプロセスや家族への支援方法、多職種連携・多機関連携の方法及び精神保健福祉士の役割、ソーシャルアドミニストレーション、個別支援からソーシャルアクションへの実践展開について、講義とそれに関連した具体的な事例検討等を実施する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
【最新 精神保健福祉士養成講座 6 ソーシャルワークの理論と方法〔精神専門〕〕中央法規出版					・復習：授業資料と教科書の該当箇所を読み直し、理解を深める。 ・予習：次回の授業資料と教科書の該当箇所を読み、不明点や疑問点を挙げておくことが望ましい。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 (1)オリエンテーション (2)ソーシャルワークとは				9	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークのプロセス4 アセスメント			
	【到達目標】 (1)本科目の概要、受講のルール、国家試験における位置付けを理解できる。 (2)ソーシャルワークの概要を説明できる。 ①目的 ②対象 ③活動領域					【到達目標】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークのプロセスにおけるアセスメントの内容と用いられる主な技術を説明できる。			
2	【授業単元】 精神保健福祉領域のソーシャルワークの価値、視点				10	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークのプロセス5 プランニング			
	【到達目標】 精神保健福祉士の価値に根差した3つの視点を説明できる。					【到達目標】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークのプロセスにおけるプランニングの内容と用いられる主な技術を説明できる。			
3	【授業単元】 (1)精神保健福祉領域のソーシャルワークの支援対象 (2)精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人の生活状況				11	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークのプロセス6 インターベンション、モニタリング、エバリュエーション、ターミネーション			
	【到達目標】 (1)精神保健福祉領域のソーシャルワークの支援対象を説明できる。 (2)精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人の生活状況及び生活のしづらさを説明できる。					【到達目標】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークのプロセスにおけるインターベンション、モニタリング、エバリュエーション、ターミネーションの内容と用いられる主な技術を説明できる。			
4	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人の人権				12	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークにおける面接技術1			
	【到達目標】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人の人権をめぐる状況を説明できる。 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人の人権擁護について自分の考えを述べることができる。					【到達目標】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークにおける面接の特性及び精神保健福祉士に求められる基本姿勢を説明できる。			
5	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人の支援の理念				13	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークにおける面接技術2			
	【到達目標】 精神障害者支援の理念のうち、世界的に主流のものや近年注目されているものを説明できる。					【到達目標】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークにおいて用いられる面接技術を使い始められる。			
6	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークのプロセス1 インテーク				14	【授業単元】 前期まとめ			
	【到達目標】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークのプロセスにおけるインテークの内容と用いられる主な技術を説明できる。					【到達目標】 前期の授業内容を振り返り、定期試験に備えることができる。			
7	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークのプロセス2 インテーク				15	【授業単元】 定期試験、前期の要点を復習			
	【到達目標】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークのプロセスにおけるインテークの内容と用いられる主な技術を説明できる。					【到達目標】 前期の全授業の要点を理解することができる。			
8	【授業単元】 (1)中テスト (2)精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークのプロセス3 アセスメント				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 (1)学習した内容の要点を復習し、現段階での自身の理解度を確認できる。 (2)精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークのプロセスにおけるアセスメントの内容と用いられる主な技術を説明できる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
・疑問点や不明点はまず自分で調べたり考えたりから質問するのが望ましい。 ・授業内容を受け取るだけでなく「それについて自分はどう思うのか」を考えること。 ・他者とのワーク時は「ソーシャルワーカーとして必要な技術の練習」ととらえて取り組むこと。									

授 業 概 要

科目名	ソーシャルワークの理論と方法（精神専門）	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	安藤 宏美		
学科 コース	社会福祉科	学年	2	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークのプロセスを説明できる。 2 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法を説明できる。 3 精神医療、精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の方法と精神保健福祉士の役割について説明できる。4 精神保健福祉士と所属機関の関係をふまえ、組織運営管理、組織介入・組織活動の展開に関する概念と方法について説明できる。 5 個別支援からソーシャルアクションへの実践展開をミクロ・メゾ・マクロの連続性・重層性をふまえて説明できる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
精神保健福祉士として精神科医療機関でソーシャルワークを行ってきた教員が、精神保健福祉士の専門性である「価値・知識・技術」を中心に据え、精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークのプロセスや家族への支援方法、多職種連携・多機関連携の方法及び精神保健福祉士の役割、ソーシャルアドミニストレーション、個別支援からソーシャルアクションへの実践展開について、講義とそれに関連した具体的な事例検討等を実施する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
『最新 精神保健福祉士養成講座 6 ソーシャルワークの理論と方法【精神専門】』 中央法規出版					・複習：授業資料と教科書の該当箇所を読み直し、理解を深める。 ・予習：次の授業資料と教科書の該当箇所を読み、不明点や疑問点を挙げておくことが望ましい。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する集団を活用した支援1				9	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する支援におけるチームアプローチ1			
	【到達目標】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する集団を活用した支援（ソーシャル・グループワーク）の概要を理解し、以下について説明できる。 (1)定義 (2)基本的枠組み (3)理論的モデル (4)歴史 (5)展開過程 (6)グループワークの実践					【到達目標】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する支援におけるチームアプローチの概要を説明できる。			
2	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する集団を活用した支援2				10	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する支援におけるチームアプローチ2 ピアサポート			
	【到達目標】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する集団を活用した支援（ソーシャル・グループワーク）の概要を理解し、以下について説明できる。 (1)定義 (2)基本的枠組み (3)理論的モデル (4)歴史 (5)展開過程 (6)グループワークの実践					【到達目標】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する支援におけるピアサポートの意義を説明できる。			
3	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するアウトリーチ				11	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する支援におけるチームアプローチ3 ピアサポート			
	【到達目標】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するアウトリーチの意義、方法、形態、留意点を説明できる。					【到達目標】 AA (Alcoholics Anonymous) のメンバーをゲストに迎え、精神保健福祉士とピアとの協働のあり方について自分の意見を述べることができる。			
4	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する支援におけるケアマネジメント1				12	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する支援におけるソーシャルアクション			
	【到達目標】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する支援におけるケアマネジメントの意義、目的、展開過程、方法、チームの概要を説明できる。					【到達目標】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する支援におけるソーシャルアクションの視点、歴史、展開過程、政策提言のあり方の概要を説明できる。			
5	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する支援におけるケアマネジメント2				13	【授業単元】 精神保健福祉領域のソーシャルアドミニストレーション			
	【到達目標】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する支援におけるケアマネジメントの意義、目的、展開過程、方法、チームの概要を説明できる。					【到達目標】 ソーシャルアドミニストレーションの概念、意義、展開方法の概要を説明できる。			
6	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人の家族に対する支援1				14	【授業単元】 まとめ			
	【到達目標】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人の家族が置かれてきた状況を説明できる。					【到達目標】 後期の授業内容を振り返り、定期試験に備えることができる。			
7	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人の家族に対する支援2				15	【授業単元】 定期試験、後期の要点を復習			
	【到達目標】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人の家族に対する支援の意義と方法を説明できる。					【到達目標】 後期の全授業の要点を理解することができる。			
8	【授業単元】 (1)中テスト (2)精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するコミュニティワーク				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 (1)学習した内容の要点を復習し、現段階での自身の理解度を確認できる。 (2)精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するコミュニティワークの概要を説明できる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
・疑問点や不明点はまず自分で調べたり考えてから質問するのが望ましい。 ・授業内容を受け取るだけでなく「それについて自分はどう思うのか」を考えること。 ・他者とのワーク時は「ソーシャルワーカーとして必要な技術の練習」ととらえて取り組むこと。									

授 業 概 要

科目名	精神保健福祉制度論	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	山田 伸
学科 コース	社会福祉科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位 総時間数 30 時間
【授業を通じての到達目標】							
1. 精神障害者に関する制度・施策について理解する。 2. 精神障害者の医療に関する制度について理解する。 3. 精神障害者の生活支援に関する制度について理解する。 4. 精神障害者の経済的支援に関する制度について理解する。							
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)							
ソーシャルワーカー(精神保健福祉士・社会福祉士)として、精神科病院で相談援助(ソーシャルワーク)に従事している教員が、メンタルヘルスの課題を抱えた人々の法制度の体系について基礎的な知識を習得する授業を行う。授業展開としては、講義を中心に、個人ワーク、グループワークも行う。							
【使用教科書・教材・参考図書】				【授業時間外における学習】			
最新 精神保健福祉士養成講座4 精神保健福祉制度論[第2版] (日本ソーシャルワーク教育学校連盟編) 中央法規出版				他の科目で学習した知識と相互に関連付けて理解を深めるために、事前学習・事後学習を行う。また、ソーシャルワークは人々の生活課題や社会の問題等の解決に働きかけることから、普段の日常生活の中から、これら課題や問題意識を持つことが求められる。			
コマ	授業計画			コマ	授業計画		
1	【授業単元】 オリエンテーション 第1章 精神障害者に関する制度・施策の理解 第1節 精神障害者に関する制度・施策の体系 【到達目標】 ・本科目の位置づけ、本講義の進め方を理解し、主体的な学びへの基礎を醸成する ・社会保障が精神障害者に果たす機能と役割を体系的に理解する ・精神保健福祉の特性や制度および施策の仕組みを把握する ・ライフサイクル(今・10年後・30年後)と精神障害者に関する制度や施策の関係について学ぶ			9	【授業単元】 第3章 精神障害者の生活支援に関する制度 第1節 生活支援の基本的な考え方 【到達目標】 ・生活支援とは何を意味しているかを理解する ・障害者の生活をサポートする障害者総合支援法の体系を把握する ・障害者総合支援法の支援の流れを知る		
2	【授業単元】 第1章 精神障害者に関する制度・施策の理解 第3節 精神障害者に関する制度活用の流れ・事例から 【到達目標】 ・事例を通じて本科目を学ぶ意味を考える ・さまざまな制度・サービスが、実際のケースと密接につながっていることを知る			10	【授業単元】 第3章 精神障害者の生活支援に関する制度 第2節 相談支援制度 【到達目標】 ・相談支援制度が構築された歴史的経緯を把握する ・障害者総合支援法による相談支援の枠組みを理解する ・精神保健福祉分野における相談支援の課題を考える		
3	【授業単元】 第1章 精神障害者に関する制度・施策の理解 第2節 精神障害者に関する制度の成立過程とその特徴 【到達目標】 ・精神障害者の医療や福祉制度の策定過程の変遷を学ぶ ・精神障害者に関する制度の成立過程の特徴を学ぶ ・精神保健福祉制度の成立過程を精神保健福祉士の視点で学ぶ			11	【授業単元】 第3章 精神障害者の生活支援に関する制度 第3節 居住支援制度 【到達目標】 ・居住支援制度の展開と必要性について理解し、居住支援にかかわるケアサービスについて学習する ・居住支援における精神保健福祉士の役割と基本的視点を踏まえて、住居の確保および居住継続支援のあり方について理解を深める ・居住支援制度の課題について、居住支援システムの基盤整備と精神保健福祉士の実践課題から考察する		
4	【授業単元】 第2章 精神障害者の医療に関する制度 第1節 精神保健福祉法の概要と精神保健福祉士の役割 【到達目標】 ・精神保健福祉法の概要について学ぶ ・精神障害者の権利擁護について考える ・精神保健福祉法における精神保健福祉士の役割を理解する			12	【授業単元】 第3章 精神障害者の生活支援に関する制度 第4節 就労支援制度 【到達目標】 ・精神障害者が働くことの意味を理解する ・精神障害者に関連する就労支援の法制度を理解する ・就労を通じた自己実現について考える		
5	【授業単元】 第2章 精神障害者の医療に関する制度 第2節 精神科医療がかかわりをもつ施策 【到達目標】 ・精神科医療がかかわりをもつ施策について把握する ・各施策の概要について学ぶ ・施策や内容について、精神保健福祉士の視点で学ぶ			13	【授業単元】 第4章 精神障害者の経済的支援 第1節 精神障害者の暮らしに果たす経済的支援の意義と役割 第2節 所得保障にかかわる経済的支援／第3節 経済的負担の軽減 【到達目標】 ・精神障害者の暮らしに果たす経済的支援の必要性について学ぶ ・所得保障の中核となる障害年金および関連する制度を学ぶ ・精神障害者の経済負担を軽減する制度や施策を体系的に理解する ・経済的支援に果たす精神保健福祉士の役割と制度や施策の課題を把握する		
6	【授業単元】 第2章 精神障害者の医療に関する制度 第3節 医療観察法の概要と精神保健福祉士の役割 【到達目標】 ・医療観察法の目的や仕組みについて理解する ・医療観察制度における多職種チームの連携と精神保健福祉士の役割を理解する ・医療観察制度が精神保健医療福祉に及ぼした影響や今後の可能性について学ぶ			14	【授業単元】 第5章 精神障害者と生活困窮 第1節 生活困窮と生活保護制度 第2節 生活困窮者自立支援制度／第3節 低所得者対策 【到達目標】 ・生活保護制度の概要の概要について理解する ・生活困窮者自立支援法の概要について理解する ・低所得者対策の概要とその重要性について理解する		
7	【授業単元】 第2章 精神障害者の医療に関する制度 第4節 精神障害者の医療と関連する施策 【到達目標】 ・関連施策や支援の歴史的経緯について把握する ・関連施策や支援の概要について学ぶ ・関連施策や支援について精神保健福祉士の実践として理解する			15	【授業単元】 定期試験 解説及び学習内容の振り返り(まとめ) 【到達目標】 ・授業の学習内容から出題 ・定期試験解説、学習目標の達成度を振り返り、今後の学びについて考える		
8	【授業単元】 中テスト 解説および学習内容の振り返り 【到達目標】 ・第1～7回の学習内容から出題 ・中テスト解説、学習内容の振り返りから理解度を確認する ・後半の授業内容について確認する			【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。			
【履修に当たっての心構え・留意点】							
ソーシャルワーカーとして実践に携わるには、さまざまな知識を学び理解する必要があります。他の科目で学習した知識と相互に関連付けて理解を深めていきましょう。							

授業概要

科目名	ソーシャルワーク演習 (精神専門)Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	遠藤 龍, 安藤 宏美				
学科 コース	社会福祉科	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1	単位	総時間数	30	時間
【授業を通じての到達目標】											
①精神疾患や精神障害、精神保健の課題がある人の状況や困難、希望を社会環境を含めて理解しソーシャルワークを行うための精神保健福祉士の専門性(価値・知識・技術)の基礎を習得する。 ②精神疾患や精神障害、精神保健の課題がある人を支援する制度やサービスを理解し活用できるようにする。 ③精神疾患や精神障害、精神保健の課題がある人を支援する機関や職種の役割を理解し、本人主体の支援チームが連携する際のコーディネート役を担えるようになる。 ④精神疾患や精神障害、精神保健の課題がある人を取り巻く社会環境を検討し、差別や偏見を除去する精神保健福祉士の役割を認識し、制度政策、行政や地域住民に働きかける方法を想定できるようにする。 ⑤精神保健福祉士として思考し行動するための姿勢を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義を理解できる。											
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
<遠藤先生の経歴>の教員と、精神科医療機関における精神保健福祉士としてのソーシャルワーク実践の経験を有し、かつ精神障害当事者活動の研究を行っている教員が、精神保健福祉士の専門性に基くソーシャルワーク実践に必要な価値と視点、理論や知識、援助技術を包括的かつ実践的に習得するための授業を実施する。授業方法は、事例についてのグループディスカッションおよびプレゼンテーション、精神疾患や精神障害、精神保健の課題がある当事者の体験を聴くこと、ロールプレイングなどを行う。こうした方法により、講義で学んだ理論や知識をふまえて思考し行動できる精神保健福祉士の実践能力を											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新 精神保健福祉士養成講座 7 ソーシャルワーク演習 [精神専門]』(2021) 中央法規出版						・復習:授業資料と教科書の該当箇所を読み直し、理解を深める。 講義科目や実習での学習と関連づけて復習する。 ・予習:次の授業資料と教科書の該当箇所を読み、不明点や疑問点を挙げておくことが望ましい。					
コマ	授業計画					コマ	授業計画				
1	【授業単元】 ①オリエンテーション ②自己理解と他者理解 【到達目標】 ①・本科目の目標、方法、授業計画などを理解する。 ②・精神保健福祉士としての自己理解の必要性を理解する。 ・精神保健福祉士としての他者理解の必要性を理解する。					9	【授業単元】 コミュニティにおけるソーシャルワーク1 【到達目標】 ・精神保健福祉士によるコミュニティにおけるソーシャルワークの視点や技術を理解する。 ・精神保健福祉士によるコミュニティにおけるソーシャルワークの展開過程を理解する。 ・関連する機関や職種の役割などを理解する。				
	2	【授業単元】 価値と倫理 【到達目標】 ・精神保健福祉士の価値について理解する。 ・精神保健福祉士の倫理について理解する。					10	【授業単元】 コミュニティにおけるソーシャルワーク2 【到達目標】 ・精神保健福祉士によるコミュニティにおけるソーシャルワークの視点や技術を理解する。 ・精神保健福祉士によるコミュニティにおけるソーシャルワークの展開過程を理解する。 ・関連する機関や職種の役割などを理解する。			
3		【授業単元】 個人に対するソーシャルワーク1 【到達目標】 ・精神保健福祉士による個人に対するソーシャルワークの視点や技術を理解する。 ・精神保健福祉士による個人に対するソーシャルワークの展開過程を理解する。 ・関連する機関や職種の役割などを理解する。						11	【授業単元】 コミュニティにおけるソーシャルワーク3 【到達目標】 ・精神保健福祉士によるコミュニティにおけるソーシャルワークの視点や技術を理解する。 ・精神保健福祉士によるコミュニティにおけるソーシャルワークの展開過程を理解する。 ・関連する機関や職種の役割などを理解する。		
	4	【授業単元】 個人に対するソーシャルワーク2 【到達目標】 ・精神保健福祉士による個人に対するソーシャルワークの視点や技術を理解する。 ・精神保健福祉士による個人に対するソーシャルワークの展開過程を理解する。 ・関連する機関や職種の役割などを理解する。					12		【授業単元】 記録の技術 【到達目標】 ・精神保健福祉士に求められる記録の技術を理解する。 ・精神保健福祉士として必要な記録の技術の基礎を実践できるようになる。		
5		【授業単元】 個人に対するソーシャルワーク3 【到達目標】 ・精神保健福祉士による個人に対するソーシャルワークの視点や技術を理解する。 ・精神保健福祉士による個人に対するソーシャルワークの展開過程を理解する。 ・関連する機関や職種の役割などを理解する。						13	【授業単元】 コミュニケーション技術、面接技術1 【到達目標】 ・精神保健福祉士に求められるコミュニケーション技術を理解する。 ・精神保健福祉士として必要な面接技術の基礎を実践できるようになる。		
	6	【授業単元】 グループにおけるソーシャルワーク1 【到達目標】 ・精神保健福祉士によるグループにおけるソーシャルワークの視点や技術を理解する。 ・精神保健福祉士によるグループにおけるソーシャルワークの展開過程を理解する。 ・関連する機関や職種の役割などを理解する。					14		【授業単元】 コミュニケーション技術、面接技術2 【到達目標】 ・精神保健福祉士に求められるコミュニケーション技術を理解する。 ・精神保健福祉士として必要な面接技術の基礎を実践できるようになる。		
7		【授業単元】 グループにおけるソーシャルワーク2 【到達目標】 ・精神保健福祉士によるグループにおけるソーシャルワークの視点や技術を理解する。 ・精神保健福祉士によるグループにおけるソーシャルワークの展開過程を理解する。 ・関連する機関や職種の役割などを理解する。						15	【授業単元】 ①前期のふり返り ②定期試験 【到達目標】 ①②・前期の学習内容の要点を復習し、現段階での自身の理解度と習得度を確認する。		
	8	【授業単元】 ①グループにおけるソーシャルワーク3 ②中テスト 【到達目標】 ①・精神保健福祉士によるグループにおけるソーシャルワークの視点や技術を理解する。 ・精神保健福祉士によるグループにおけるソーシャルワークの展開過程を理解する。 ・関連する機関や職種の役割などを理解する。 ②・学習内容の要点を復習し、現段階での自身の理解度と習得度を確認する。					【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は実技試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】											
・主体的かつ積極的に授業に取り組んでほしい。 ・授業の内容について「自分はどう感じるのか、どう考えるのか」に意識的になってほしい。そして見出した自身の感覚・感情や思考を自ら深めていくことを期待します。 ・グループで課題を考える際は、「ソーシャルワーカーとして必要な技術の練習の機会」と捉えて取り組むこと。											

授業概要

科目名	ソーシャルワーク演習 (精神専門)Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	遠藤 龍, 安藤 宏美				
学科 コース	社会福祉科	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1	単位	総時間数	30	時間
【授業を通じての到達目標】											
①精神疾患や精神障害、精神保健の課題がある人の状況や困難、希望を社会環境を含めて理解しソーシャルワークを行うための精神保健福祉士の専門性(価値・知識・技術)の基礎を獲得する。 ②精神疾患や精神障害、精神保健の課題がある人を支援する制度やサービスを理解し活用できるようになる。 ③精神疾患や精神障害、精神保健の課題がある人を支援する機関や職種の役割を理解し、本人主体の支援チームが連携する際のコーディネート役を担えるようになる。 ④精神疾患や精神障害、精神保健の課題がある人を取り巻く社会環境を検討し、差別や偏見を除去する精神保健福祉士の役割を認識し、制度政策、行政や地域住民に働きかける方法を想定できるようになる。 ⑤精神保健福祉士として思考し行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義を理解できる。											
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
<遠藤先生のご経歴>の教員と、精神科医療機関における精神保健福祉士としてのソーシャルワーク実践の経験を有し、かつ精神障害当事者活動の研究を行っている教員が、精神保健福祉士の専門性に基くソーシャルワーク実践に必要な価値と視点、理論や知識、援助技術を包括的かつ実践的に習得するための授業を実施する。授業方法は、事例についてのグループディスカッションおよびプレゼンテーション、精神疾患や精神障害、精神保健の課題がある当事者の体験を聴くこと、ロールプレイングなどを行う。こうした方法により、講義で学んだ理論や知識をふまえて思考し行動できる精神保健福祉士の実践能力を											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新 精神保健福祉士養成講座 7 ソーシャルワーク演習 [精神専門]』(2021) 中央法規出版						・復習:授業資料と教科書の該当箇所を読み直し、理解を深める。 講義科目や実習での学習と関連づけて復習する。 ・予習: 次回の授業資料と教科書の該当箇所を読み、不明点や疑問点を挙げておくことが望ましい。					
コマ	授業計画					コマ	授業計画				
1	【授業単元】 精神科医療機関におけるインテーク面接1					9	【授業単元】 地域包括支援センターにおける認知症高齢者の支援1				
	【到達目標】 ・精神科医療機関における受診の援助に関する相談面接の技術を学ぶ。 ・本人主体の相談姿勢を理解する。 ・精神科医療の利用者の権利を確認し、説明できるようになる。						【到達目標】 ・地域包括支援センターの精神保健福祉士と病院の精神保健福祉などとの連携による、認知症のある人の危機介入の方法を学ぶ。				
2	【授業単元】 精神科医療機関におけるインテーク面接2					10	【授業単元】 地域包括支援センターにおける認知症高齢者の支援2				
	【到達目標】 ・精神科医療機関における受診の援助に関する相談面接の技術を学ぶ。 ・本人主体の相談姿勢を理解する。 ・精神科医療の利用者の権利を確認し、説明できるようになる。						【到達目標】 ・地域包括支援センターの精神保健福祉士と病院の精神保健福祉などとの連携による、認知症のある人の危機介入の方法を学ぶ。				
3	【授業単元】 精神科病院からの地域移行支援・福祉サービス利用援助1					11	【授業単元】 相談支援事業所における地域生活支援のケアマネジメント1				
	【到達目標】 ・精神障害者の生活課題を理解する。 ・精神障害者の地域移行支援について学ぶ。 ・障害福祉サービスの種類や内容を確認する。						【到達目標】 ・「高齢の親と中年期以降の精神障害者」の地域生活における課題を学ぶ。 ・急に単身になった当事者が地域生活を維持できるようにするための支援システムの活用方法を学ぶ。 ・相談支援専門員の役割を学ぶ。				
4	【授業単元】 精神科病院からの地域移行支援・福祉サービス利用援助2					12	【授業単元】 相談支援事業所における地域生活支援のケアマネジメント2				
	【到達目標】 ・精神障害者の生活課題を理解する。 ・精神障害者の地域移行支援について学ぶ。 ・障害福祉サービスの種類や内容を確認する。						【到達目標】 ・「高齢の親と中年期以降の精神障害者」の地域生活における課題を学ぶ。 ・急に単身になった当事者が地域生活を維持できるようにするための支援システムの活用方法を学ぶ。 ・相談支援専門員の役割を学ぶ。				
5	【授業単元】 精神科医療機関におけるアルコール依存症者の回復支援1					13	【授業単元】 当事者との協働によるソーシャルアクションの実践1				
	【到達目標】 ・アディクション問題がある本人の回復に向けた支援方法を学ぶ。 ・アルコール依存症者の家族が置かれがちな状況を理解し、適切な支援方法を学ぶ。 ・セルフヘルプグループの意義を理解し、当事者が利用するための支援方法を学ぶ。						【到達目標】 ・施設コンフリクトや精神科病院の問題などについて当事者と協働で取り組む精神保健福祉士のソーシャルアクションについて学ぶ。 ・当事者を取り巻く社会環境や精神保健システムの問題に働きかけるソーシャルアクションについて考える。				
6	【授業単元】 精神科医療機関におけるアルコール依存症者の回復支援2					14	【授業単元】 当事者との協働によるソーシャルアクションの実践2				
	【到達目標】 ・アディクション問題がある本人の回復に向けた支援方法を学ぶ。 ・アルコール依存症者の家族が置かれがちな状況を理解し、適切な支援方法を学ぶ。 ・セルフヘルプグループの意義を理解し、当事者が利用するための支援方法を学ぶ。						【到達目標】 ・施設コンフリクトや精神科病院の問題などについて当事者と協働で取り組む精神保健福祉士のソーシャルアクションについて学ぶ。 ・当事者を取り巻く社会環境や精神保健システムの問題に働きかけるソーシャルアクションについて考える。				
7	【授業単元】 精神保健福祉センターにおける家族支援1					15	【授業単元】 ①後期のふり振り返り ②定期試験				
	【到達目標】 ・精神疾患を発生した人の家族の心理・社会状況を学ぶ。 ・家族心理教育プログラムについて学ぶ。 ・精神保健福祉センターにおける精神保健福祉士の支援を学ぶ。						【到達目標】 ①②・前期の学習内容の要点を復習し、現段階での自身の理解度と習得度を確認する。				
8	【授業単元】 ①精神保健福祉センターにおける家族支援2 ②中テスト					【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験はレポート試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。					
	【到達目標】 ①・精神疾患を発生した人の家族の心理・社会状況を学ぶ。 ・家族心理教育プログラムについて学ぶ。 ・精神保健福祉センターにおける精神保健福祉士の支援を学ぶ。 ②・学習内容の要点を復習し、現段階での自身の理解度と習得度を確認する。										
【履修に当たっての心構え・留意点】											
・主体的かつ積極的に授業に取り組んでほしい。 ・授業の内容について「自分はどう感じるのか、どう考えるのか」に意識的になってほしい。そして見出した自身の感覚・感情や思考を自ら深めていくことを期待します。 ・グループで課題を考える際は、「ソーシャルワーカーとして必要な技術の練習の機会」と捉えて取り組むこと。											

授業概要

科目名	スクールソーシャルワーク論	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	根本 典子	
学科 コース	社会福祉科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数 30 時間
【授業を通じての到達目標】								
日本では、「いじめ、不登校、暴力行為、児童虐待など、児童生徒の問題行動等については、極めて配慮すべき状況にあり、教育上の大きな課題である。こうした児童生徒の問題行動等の状況や背景には、児童生徒の心の問題とともに、家庭、友人関係、地域、学校等の児童生徒が置かれている環境の問題が複雑に絡みあっているものと考えられる。したがって、児童生徒が置かれている様々な環境に着目して働きかけることができる人材や、学校内あるいは学校の枠を超えて、関係機関等との連携をより一層強化し、問題を抱える児童生徒の課題解決を図るためのコーディネーター的な存在が、教育現場において求められているところである。このため、教育分野に関する知識に加えて、社会福祉等の専門的な知識や技術を有するスクールソーシャルワーカーを活用し、問題を抱えた児童生徒に対し、当該児童生徒が置かれた環境へ働きかけたり、関係機関等とのネットワークを活用したりするなど、多様な支援方法を用いて、課題解決への対応を図っていくこととする。」(文部科学省)という趣旨からスクールソーシャルワーカー活用事業が導入されている。この事業は、いろいろな地方自治体の教育委員会にて導入されている事業である。この事業には、社会福祉士や精神保健福祉士等がスクールソーシャルワーカーとして活動をしていることから、スクールソーシャルワーカーとは何か、スクールソーシャルワーカーとしての活動がどのようなものであるか、さらに歴史やその必要性、ソーシャルワークのプロセス等を理解できることを達成目標とする。								
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)								
地方自治体の福祉事務所において児童福祉の事業を担当していた現場での経験を活かして、さらに、スクールソーシャルワーカーとして現在活動をしている経験を活用し、スクールソーシャルワーカー活用事業を紐解いていく。講義は教科書を活用しながら、制度に関する最新の動向等に関する資料を提示し、スクールソーシャルワーク論の学修を深められるように進めていく。毎回授業では、課題や感想等を提出していただく。								
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】			
1)教科書:やわらかアカデイズム・(わかる)シリーズ「よくわかるスクールソーシャルワーク」〔第2版〕 山野則子・野田正人・半羽利美佳編著 2021年 ㈱ミネルヴァ書房 2)参考文献:「学校プラットフォーム ― 教育・福祉、そして地域での協働で子どもの貧困に立ち向かう」 山野則子著 2018年 ㈱有斐閣 3)その他、講義時に紹介する。					子どもや家族の課題また最近の教育体制や学校の在り方について注意を払い、マスコミや新聞等で発表されている問題や事件に対して、子どもを守る支援策等を理解しておくことより学修が深まる。			
コマ	授業計画				コマ	授業計画		
1	【授業単元】 1)オリエンテーション 2)なぜスクールソーシャルワークが必要なのか				9	【授業単元】 スクールソーシャルワークの実践 ― 貧困、非行、精神疾患、児童福祉施設		
	【到達目標】 1)学校における現代的課題について理解できる。 2)スクールソーシャルワークを理解できる。 3)歴史と動向を理解できる。					【到達目標】 グループワークを活用した事例研究を行い、グループ内の学生同士で研究内容をまとめ、発表をしていくことができる。		
2	【授業単元】 学校教育の特徴及び教育(学校)が連携する機関とその機能				10	【授業単元】 スクールソーシャルワークの実践 ― 外国籍、子育て支援、災害支援		
	【到達目標】 1)教育行政の仕組みと学校を理解できる。 2)生徒指導提要とスクールソーシャルワークを理解できる。 3)法律関係や児童相談所、福祉事務所、要保護児童対策地域協議会を理解できる。					【到達目標】 グループワークを活用した事例研究を行い、グループ内の学生同士で研究内容をまとめ、発表をしていくことができる。		
3	【授業単元】 教育(学校)が連携する機関とその機能				11	【授業単元】 スクールソーシャルワークの実践 ― 自殺予防、若者の貧困、性的マイノリティ、高等学校		
	【到達目標】 1)児童福祉施設を理解できる。 2)保健所や保健センター、病院等との連携を理解できる。 3)発達障害者支援センターやフリースクールの連携等を理解できる。					【到達目標】 グループワークを活用した事例研究を行い、グループ内の学生同士で研究内容をまとめ、発表をしていくことができる。		
4	【授業単元】 スクールソーシャルワーク基礎理論				12	【授業単元】 スクールソーシャルワークの実践 ― 現場からの事例紹介(担当教員)エピソード等		
	【到達目標】 1)学説の内容を理解できる。 2)エコロジカル・アプローチや協働理論を理解できる。 3)ジェネラリスト・ソーシャルワーク、教育福祉、コミュニティワーク等を理解できる。					【到達目標】 グループワークを活用した事例研究を行い、グループ内の学生同士で研究内容をまとめ、発表をしていくことができる。		
5	【授業単元】 スクールソーシャルワークの展開過程				13	【授業単元】 スクールソーシャルワークの実践 ― 現場からの事例紹介(担当教員)エピソード等		
	【到達目標】 ミクロ～マクロまでの実践課程を理解できる。(ケース会議、プランニング、校内研修等)					【到達目標】 グループワークを活用した事例研究を行い、グループ内の学生同士で研究内容をまとめ、発表をしていくことができる。		
6	【授業単元】 スクールソーシャルワークの実践				14	【授業単元】 1)スクールソーシャルワークとは何か、どのような事業であるか、現場での支援策等のまとめ。		
	【到達目標】 グループワークを活用した事例研究を行い、グループ内の学生同士で研究内容をまとめ、発表をしていくことができる。					【到達目標】 スクールソーシャルワークとは何か、説明することができる。		
7	【授業単元】 スクールソーシャルワークの実践 ― 教育行政から特別支援教育				15	【授業単元】 定期テスト		
	【到達目標】 グループワークを活用した事例研究を行い、グループ内の学生同士で研究内容をまとめ、発表をしていくことができる。					【到達目標】 これまで学んだ知識を試験問題に取り込む中で定着できる。		
8	【授業単元】 スクールソーシャルワークの実践 ― いじめ、不登校、児童虐待等				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の課題等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の課題等は、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。			
	【到達目標】 グループワークを活用した事例研究を行い、グループ内の学生同士で研究内容をまとめ、発表をしていくことができる。							
【履修に当たっての心構え・留意点】								
1)スクールソーシャルワーカーは、保健・医療・福祉の課題を抱える児童や生徒へ対して、その方のニーズに基づき生活をしていただくように、制度や事業を説明することが必要ことから、各科目で得た知識をフルに活用してください。さらに、新聞等に目を向け、児童や生徒に関する事件や問題の最新の情報をとりいれましょう。 2)授業毎に資料を配付しますが、教科書も活用しますので、必ず教科書を持参してください。								

授業概要

科目名	卒業研究Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	卯辰達也 / 外館礼規		
学科 コース	社会福祉科	学年	3年	授業の 方法	演習	単位数	4 単位	総時間数	120 時間
【授業を通じての到達目標】									
社会で起きている様々な出来事を、ソーシャルワーク視点に基づいた「疑い」「観察」「考察」といった思考で捉え、課題発見・課題解決ができる能力を身につけ、論文形式で成果をまとめる。また、そのプロセスにおいて福祉専門職にふさわしいマナーとスキルを習得し、かつ実践できるようになる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
ソーシャルワーク実践や福祉分野における専門教育経験のある教員が、学生の課題解決能力を発揮する学びを促進するため、研究の構成や進め方、現場における課題や取り組み事例の講義を行うとともに、各研究に対する専門職の視点からのアドバイス等を行い、研究活動をファシリテートする。									
【使用教科書・教材・参考図書】									
必要に応じて、随時資料を追加で配布する 教科書・関連図書・研究論文を積極的に参照すること					【授業時間外における学習】				
各自が研究に取り組むフィールドに日頃から関心を持ち、様々な領域において情報収集する姿勢、他科目での既習内容を復習し研究につなげる学習が必須である。									
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1 4/13 4/17	【授業単元】 卒業研究の目的と学習内容 オリエンテーションワーク 【到達目標】 ◆卒業研究を行う目的やその意義を知り、主体的に学習に参加する必要性を理解することができる。 ◆これまで2年間の授業や福祉現場での体験、日常生活での気づきをふまえ、ソーシャルワークの視点から興味・関心のある事象を複数挙げるができる。				9 6/15 6/19	【授業単元】 研究テーマ発表Ⅱ ※研究計画書提出 【到達目標】 ◆研究テーマの発表プレゼンテーション資料(配布資料・パワーポイントデータ)作成する。 ◆研究アウトラインについてクラス内でシェアし、多様なアプローチのあり方を理解する。 ◆テーマ発表におけるフィードバックをふまえ研究手法を決定する。 ◆研究アウトラインを研究計画書にまとめる。			
2 4/20 4/24	【授業単元】 ソーシャルワーカーに必要な研究倫理 個人ワーク、グループワークのポイント 各領域に関する今日的な課題 【到達目標】 ◆卒業研究担当教員の講義を受け、自身が興味・関心のある事象に近接する現場や社会の課題を知るとともに、多角的な視点で社会をとらえ、興味関心を深めるための視野を広げる。 ◆個人ワーク・グループワークによる調べ学習やディスカッションを通して、各フィールドにおいてどのような課題があるのかを複数抽出する。				10 6/22 6/26	【授業単元】 テーマ発表振り返り 仮説立案に必要なプロセスと研究方法(質的研究/量的研究) 先進事例を知るための現場見学・ヒアリング等のマナー ※研究計画書提出 【到達目標】 ◆テーマ発表におけるフィードバックをふまえ研究のアウトラインの再構築をする。 ◆自身の検証に適した研究方法を検討し選択する。 ◆調査開始に資する情報収集に必要な見学やヒアリング先を選定し、アポイントを取ることが出来る。			
3 4/27 5/8	【授業単元】 各領域に関する今日的な課題 研究のアウトラインの描き方 先行研究・先行事例の調べ方 【到達目標】 ◆個人ワーク・グループワークによる調べ学習やディスカッションを通して、各フィールドにおいてどのような課題があるのかを複数抽出する。 ◆先行研究・先行事例を調べるための基本的な方法を理解する。				11 6/29 7/3	【授業単元】 論文の基本Ⅰ 指導面談 ※研究計画書提出 【到達目標】 ◆自身の論文の書き方について理解する。 ◆現場見学やヒアリング、文献調査、先進事例の共有等を研究の方向性について再考する。 ◆教員とのディスカッションを通して、自身の研究に適した研究方法であるかを検証する。			
4 5/11 5/15	【授業単元】 フィールドワーク 指導面談 【到達目標】 ◆先行研究・先行事例を調べ、各フィールドにおいてどのような課題があるのかを複数抽出する。 ◆教員とのディスカッションを通して、フィールドにおける課題を抽出し研究の方向性を定める。				12 7/6 7/10	【授業単元】 フィールドワーク 指導面談 ※(予備日)研究計画書提出 【到達目標】 ◆自身の検証に適した研究方法を検討し選択する。 ◆教員とのディスカッションを通して、仮説の妥当性及び信頼性のあるデータが得られる研究方法であるかを検証する。 ◆調査開始に資する情報収集に必要な見学やヒアリング先を選定し、手続きを行う。			
5 5/18 5/22	【授業単元】 フィールドワーク 指導面談 【到達目標】 ◆指導面談をふまえ、研究フィールドにおいて柱となる課題を設定し、おおよその研究のアウトラインを描く。 ◆研究を進めるにあたり把握すべき内容を挙げ、それを入手するための方法を定める。				13 7/17 7/18	【授業単元】 フィールドワーク 指導面談 【到達目標】 ◆自身の検証に適した研究方法を検討し選択する。 ◆教員とのディスカッションを通して、仮説の妥当性及び信頼性のあるデータが得られる研究方法であるかを検証する。 ◆調査開始に資する情報収集に必要な見学やヒアリング先を選定し、手続きを行う。			
6 5/25 5/29	【授業単元】 フィールドワーク 指導面談 【到達目標】 ◆指導面談をふまえ、研究フィールドにおいて柱となる課題を設定し、おおよその研究のアウトラインを描く。 ◆研究を進めるにあたり把握すべき内容を挙げ、それを入手するための方法を定める。				14 7/20 7/24	【授業単元】 フィールドワーク 指導面談 【到達目標】 ◆現場見学やヒアリング、文献調査、先進事例等をふまえ自身の研究の方向性について再考するとともに、仮説・研究方法を立案する。 ◆教員とのディスカッションを通して、仮説の妥当性及び信頼性のあるデータが得られる研究方法であるかを検証する。			
7 6/1 6/5	【授業単元】 6月5日は4年生の報告会へ参加し、発表内容を学び、自身の研究に活かす 【到達目標】 ◆指導面談をふまえ、研究フィールドにおいて柱となる課題を設定し、大まかな研究のアウトラインを描く。 ◆研究を進めるにあたり把握すべき内容を挙げ、それを入手するための方法を定める。 ◆抽出した課題について観察し、視点の方向性を見出すことができる。				15 7/27 7/31	【授業単元】 発表準備 研究計画報告会 【到達目標】 ◆研究経過の報告資料(配布資料・パワーポイントデータ)作成する。 ◆研究フィールド、現状の課題、仮説、研究方法・調査の進捗についてクラス内でシェアする。 ◆クラス全体が研究の理解を深めることに資する質疑応答を行う。 ◆これまでの取り組みを各自が言語化し、質疑応答によりさらに研究の質を深める。			
8 6/8 6/12	【授業単元】 発表準備 研究テーマ発表Ⅰ 【到達目標】 ◆研究テーマの発表プレゼンテーション資料(配布資料・パワーポイントデータ)作成する。 ◆研究アウトラインについてクラス内でシェアし、多様なアプローチのあり方を理解する。 ◆これまでの取り組みを各自が言語化し、質疑応答によりさらに研究の質を深める。 ◆研究アウトラインを研究計画書にまとめる。				【成績評価の方法と基準】 ◆定期試験60%、毎回授業の小テスト40%の配分で総合し、A～Eの6段階で評価する。 ◆毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(16回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。 ◆小テストについては、個人ワークシート、報告書等を換算する。中テスト、定期試験についてはプレゼンテーションおよび報告書・各自の筆記試験を合算して評価を行う。提出物の提出期限超過は減点の対象とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
各自が主体的な姿勢で取り組むこと。自己の研究に目的を持ち、より学習効果の高い学びをそれぞれが目指していくことが必要である。									

授業概要

科目名	卒業研究Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(後期)	担当 教員	卯辰達也 / 外館礼規		
学科 コース	社会福祉科	学年	3年	授業の 方法	演習	単位数	4 単位	総時間数	120 時間
【授業を通じての到達目標】									
社会で起きている様々な出来事をソーシャルワーク視点に基づいた「疑い」「観察」「考察」といった思考で捉え、課題発見・課題解決ができる能力を身につけ、論文形式で成果をまとめる。また、そのプロセスにおいて福祉専門職にふさわしいマナーとスキルを習得し、かつ実践できるようになる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
ソーシャルワーク実践や福祉分野における専門教育経験のある教員が、学生の課題解決能力を発揮する学びを促進するため、研究の構成や進め方、現場における課題や取り組み事例の講義を行うとともに、各研究に対する専門職の視点からのアドバイス等を行い、研究活動をファシリテートする。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
必要に応じて、随時資料を追加で配布する 教科書・関連図書・研究論文を積極的に参照すること					各自が研究に取り組むフィールドに日頃から関心を持ち、様々な領域において情報収集する姿勢、他科目での既習内容を復習し研究につなげる学習が必須である。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1 10/7 10/9	【授業単元】 中間発表をふまえた見直し 調査実施に向けての計画立案・データ分析の方法 調査実施準備 【到達目標】 ◆中間発表における他グループや教員のフィードバックをふまえ、研究手法等の見直しを行う。 ◆調査実施に向けての計画を立案し、研究データとしての妥当性が担保されるかのチェックを行う。 ◆調査実施にあたっての準備や手続きを行う。				9 12/9 12/11	【授業単元】 調査発表振り返り 論文の基本Ⅱ 指導面談 【到達目標】 ◆調査発表におけるフィードバックをふまえ研究手法、分析等の見直しを行う。 ◆基本的な論文の書き方を理解する。 ◆教員とのディスカッションを通して、今後目指していくべき方向性などを確認する。			
2 10/14 10/16	【授業単元】 調査準備、調査実施、フィールドワーク 指導面談 【到達目標】 ◆調査実施にあたっての準備や手続きを行う。 ◆研究手法と進捗に応じて、調査または現場でのフィールドワークを行う。 ◆教員とのディスカッションを通して、進捗の状況や計画との整合性の確認し、追加調査の必要性の有無等の検討を行う。				10 12/16 12/18	【授業単元】 ゼミナール発表会の見学 【到達目標】 ◆研究発表にふさわしいプレゼンテーション技法を理解する。 ◆聴衆全体が研究の理解を深めることに資する質疑応答を行う。			
3 10/21 10/23	【授業単元】 調査準備、調査実施、フィールドワーク 指導面談 【到達目標】 ◆調査実施にあたっての準備や手続きを行う。 ◆研究手法と進捗に応じて、調査または現場でのフィールドワークを行う。 ◆教員とのディスカッションを通して、進捗の状況や計画との整合性の確認し、追加調査の必要性の有無等の検討を行う。				11 1/13 1/15	【授業単元】 個人ワーク・フィールドワーク 指導面談 【到達目標】 ◆研究手法と進捗に応じて、現場でのフィールドワーク、調査データの処理、調査結果の分析等を行う。 ◆教員とのディスカッションを通して、今後目指していくべき方向性などを確認する。			
4 10/28 10/30	【授業単元】 調査準備、調査実施、フィールドワーク 指導面談 【到達目標】 ◆調査実施にあたっての準備や手続きを行う。 ◆研究手法と進捗に応じて、調査または現場でのフィールドワークを行う。 ◆教員とのディスカッションを通して、進捗の状況や計画との整合性の確認し、追加調査の必要性の有無等の検討を行う。				12 1/20 1/22	【授業単元】 個人ワーク・フィールドワーク 指導面談 【到達目標】 ◆研究手法と進捗に応じて、現場でのフィールドワーク、調査データの処理、調査結果の分析等を行う。 ◆教員とのディスカッションを通して、今後目指していくべき方向性などを確認する。			
5 11/11 11/13	【授業単元】 調査実施、フィールドワーク 指導面談 【到達目標】 ◆研究手法と進捗に応じて、現場でのフィールドワーク、調査データの処理、調査結果の分析等を行う。 ◆教員とのディスカッションを通して、結果の分析や再検証の必要性の有無、今後目指していくべき方向性などを確認する。				13 1/27 1/29	【授業単元】 発表準備 発表技法の確認 【到達目標】 ◆中間発表資料(配布資料・パワーポイントデータ)作成する。 ◆学生および教員とのディスカッションを通して、他者に伝えるためにふさわしい発表技法を習得する。			
6 11/18 11/20	【授業単元】 調査実施、フィールドワーク 指導面談 【到達目標】 ◆研究手法と進捗に応じて、現場でのフィールドワーク、調査データの処理、調査結果の分析等を行う。 ◆教員とのディスカッションを通して、結果の分析や再検証の必要性の有無、今後目指していくべき方向性などを確認する。				14 2/3 2/5	【授業単元】 卒業研究中間発表会 【到達目標】 ◆研究フィールド、現状の課題、仮説、研究方法についてプレゼンテーションしクラス内でシェアする。 ◆クラス全体が研究の理解を深めることに資する質疑応答を行う。 ◆これまでの取り組み内容について各自が言語化するとともに、自己評価する。			
7 11/25 11/27	【授業単元】 調査実施、フィールドワーク 指導面談 【到達目標】 ◆研究手法と進捗に応じて、現場でのフィールドワーク、調査データの処理、調査結果の分析等を行う。 ◆教員とのディスカッションを通して、結果の分析や再検証の必要性の有無、今後目指していくべき方向性などを確認する。				15 2/10 2/12	【授業単元】 中間発表振り返り 論文の基本Ⅲ 【到達目標】 ◆中間発表におけるフィードバックをふまえ研究手法、分析等の見直しを行う。 ◆基本的な論文の書き方を理解する。 ◆教員とのディスカッションを通して、今後目指していくべき方向性などを確認する。			
8 12/2 12/4	【授業単元】 発表準備 研究調査報告会 【到達目標】 ◆研究経過の報告資料(配布資料・パワーポイントデータ)作成する。 ◆研究フィールド、現状の課題、仮説、研究方法・調査の進捗についてクラス内でシェアする。 ◆クラス全体が研究の理解を深めることに資する質疑応答を行う。 ◆これまでの取り組みを各自が言語化し、質疑応答によりさらに研究の質を高める。				【成績評価の方法と基準】 ◆定期試験60%、毎回授業の小テスト40%の配分で総合し、A～Eの6段階で評価する。 ◆毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(16回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。 ◆小テストについては、個人ワークシート、報告書等を換算する。中テスト、定期試験についてはプレゼンテーションおよび報告書・各自の筆記試験を合算して評価を行う。提出物の提出期限超過は減点の対象とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
各自が主体的な姿勢で取り組むこと。自己の研究に目的を持ち、より学習効果の高い学びをそれぞれが目指していくことが必要である。									

授 業 概 要

科目名	ソーシャルワーク特別演習Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	卯辰 達也		
学科 コース	社会福祉科	学年	3年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
ソーシャルワーク実習に向けて、実践知を学び、専門職としての知識・技術・姿勢・価値など基礎力を身につける。同時に、既存の枠組みにとらわれることなく、社会課題に対して独創性かつ根拠に基づく行動がとれるようにする。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
社会福祉士として相談援助の実務経験のある教員が、ソーシャルワークの定義を踏まえた上で、実戦に必要な知識・技能を事例・ロールプレイ・講義を通して授業を展開していく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
レジュメ 必要に応じて、随時資料を追加で配布する					ペア・グループを活用して実技試験に向けて準備を行っておくこと。同時に、指導を受けたい場合は事前に教員へアポイントをとって備えること。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1・2	【授業単元】 オリエンテーション 実習の目的、目標についての説明 7月に行われる口頭試問に関する説明実施				17・18	【授業単元】 口頭試問問題に向けて授業内で想定問題を練習する。			
	【到達目標】 ソーシャルワーク実践における事前評価の重要性を理解する。					【到達目標】 ソーシャルワーカーとして知識・技術・姿勢・価値の理解を深めることができる。			
3・4	【授業単元】 演習ワークを通して専門職としての知識・技術・姿勢・価値など独創性かつ根拠に基づく判断ができるようになる。				19・20	【授業単元】 口頭試問問題に向けて授業内で想定問題を練習する。			
	【到達目標】 ソーシャルワークの定義を踏まえた上で、独創性かつ根拠に基づく内容をレポートにまとめ理解を確認。(5点)					【到達目標】 ソーシャルワーカーとして知識・技術・姿勢・価値の理解を深めることができる。			
5・6	【授業単元】 先輩から法定実習について助言もらい、ソーシャルワーカーとして知識・技術・姿勢・価値について理解を深める。次の授業に向け学生各々が社会福祉士制度の問題作成する課題を行うこと共有する。				21・22	【授業単元】 23日間の法定実習先を発表。実習先を調べ必要な知識を深める。			
	【到達目標】 学んだことについてレポートを作成し自身の抽象的な考えから具体的な言葉で言語化することができるようになる。(5点)					【到達目標】 実習先を調べどのような知識、技術、姿勢が必要か理解を深める。			
7・8	【授業単元】 課題を自ら作成し、実習に向けソーシャルワーカーとして知識・技術・姿勢・価値について理解を深める。				23・24	【授業単元】 実習に必要な資料を作成する。			
	【到達目標】 学生が作成した問題を回答する。					【到達目標】 実習に向けて準備を行い、身構え気構え心構えを行う。			
9・10	【授業単元】 各業界の福祉制度の問題を作成し、学生間で問題を解く。 口頭試問問題内容発表				25・26	【授業単元】 口頭試問問題に向けて授業内で想定問題を練習する。			
	【到達目標】 中テストに出る問題の中から5問回答する(5点)					【到達目標】 ソーシャルワーカーとして知識・技術・姿勢・価値の理解を深めることができる。			
11・12	【授業単元】 中テストに向けて授業内で想定問題を練習する。				27・28	【授業単元】 口頭試問問題に向けて授業内で想定問題を練習する。			
	【到達目標】 中テストに出る問題の中から5問回答する(5点)					【到達目標】 ソーシャルワーカーとして知識・技術・姿勢・価値の理解を深めることができる。			
13・14	【授業単元】 中テストに向けて授業内で想定問題を練習する。				29・30	【授業単元】 口頭試問試験の実施。			
	【到達目標】 中テストに出る問題の中から5問回答する(5点)					【到達目標】 口頭試問、筆記試験の実施 ※実習前時にフィードバック実施			
15・16	【授業単元】 中間テストの実施。				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、以下の配点で評価する。 期末試験(口頭試問十一問一答):60点 中テスト:20点 小テスト・レポート:20点 小テストは各回5点満点(全13回)、レポートは合計15点とし、その合計80点満点の得点を1/4に換算(小数点以下切り上げ)し、20点満点として評価に反映する。				
	【到達目標】 中テストでこれまでの知識を確認する。(20点)								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
ソーシャルワーク実習は「実習生」といえど、施設を利用する方及び家族からは職員として見られます。専門職としてだけでなく、社会人としてのビジネススキルも求められます。遅刻・欠席がないよう体調管理含め留意して受講してください。									

授業概要

科目名	医学概論	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	岡 賢子		
学科 コース	社会福祉科	学年	3年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
ソーシャルワーク専門職として、病者や家族を含めた支援者および地域住民のニーズを把握し、多職種・他機関との連携を図りながら問題解決に取り組んでいくために必要とする基礎的な医学知識を身に着ける。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
看護・介護領域で臨床経験を積んだ看護師が、社会福祉職を目指す学習者が将来遭遇する様々な状態の支援対象者を想定しながら、医療職種との連携をイメージできるように経験に基づいた授業を実施する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 1 医学概論					授業予定の教科書部分と講師の作成資料を事前に確認して予習、授業後には復習をすること。				
回	授業計画			回	授業計画				
1	【授業単元】 教科オリエンテーション 第1章 ライフステージにおける心身の変化と健康課題 第1節 ライフステージにおける心身の特徴 第2節 心身の加齢・老化 第3節 ライフステージ別の健康課題 【到達目標】 科目で学ぶ意義と必要性を理解することができる。 それぞれのライフステージにおける成長と発達の特徴について理解することができる。 加齢と老化の違いを理解し、老化による心身の変化について説明することができる。 それぞれのライフステージにおける健康課題について説明することができる。			9	【授業単元】 第3章 生殖器系 内分泌系 第6章 疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション 第14節 婦人科・産科 第5節 内分泌・代謝疾患 【到達目標】 生殖器系、内分泌系の名称と構造、機能を理解し、疾病の原因、症状、治療について説明できる。 それぞれの疾病について、日常生活上の留意点などを説明できる。 障害の分類や特徴、支援を行う際の留意点などを説明できる。				
2	【授業単元】 第2章 第1節 健康と疾病の概念 第4章 疾病の成り立ちおよび回復過程 第6章 疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション 第17節 高齢者に多い疾患 第18節 生活習慣病(総論) 【到達目標】 疾病の発生原因と病変の成立機序について述べられる。 高齢者に多い疾病と生活習慣病の原因、症状、治療について説明できる。 それぞれの疾病について日常生活上の留意点などを説明できる。 障害の分類や特徴、支援を行う際の留意点などを説明できる。			10	【授業単元】 第3章 身体構造と心身機能 第1節 感覚器系 皮膚 第6章 疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション 第11節 眼科疾患、視覚障害 耳鼻咽喉疾患、聴覚障害、平衡機能障害 【到達目標】 感覚器系、皮膚の名称と構造、機能を理解し、疾病の原因、症状、治療について説明できる。 それぞれの疾病について、日常生活上の留意点などを説明できる。 障害の分類や特徴、支援を行う際の留意点などを説明できる。				
3	【授業単元】 第5章 リハビリテーションの概要と範囲 第3章 身体構造と心身機能 第1節 人体部位の名称(体表区分・骨格系・筋系) 第6章 疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション 第9節 骨・関節疾患 【到達目標】 リハビリテーションの定義と目的、対象について説明できる。 リハビリテーションに関わる専門職種について説明できる。 人体各部の名称と構造、機能を理解し、疾病の原因、症状、治療について説明できる。 それぞれの疾病について、日常生活上の留意点などを説明できる。 障害の分類や特徴、支援を行う際の留意点などを説明できる。			11	【授業単元】 第3章 身体構造と心身機能 第1節 神経系 第6章 疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション 第2節 神経疾患、認知症、高次脳機能障害 第6章第3節 脳血管疾患 【到達目標】 脳と神経系の名称と構造、機能を理解し、疾病の原因、症状、治療について説明できる。 それぞれの疾病について、日常生活上の留意点などを説明できる。 障害の分類や特徴、支援を行う際の留意点などを説明できる。				
4	【授業単元】 第3章 身体構造と心身機能 第1節 循環器系 第6章 疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション 第4節 心疾患 【到達目標】 循環器系の名称と構造、機能を理解し、疾病の原因、症状、治療について説明できる。 それぞれの疾病について、日常生活上の留意点などを説明できる。 障害の分類や特徴、支援を行う際の留意点などを説明できる。			12	【授業単元】 第3章 身体構造と心身機能 第1節 血液 第6章第10節 血液・免疫・アレルギー疾患 第1節 感染症 【到達目標】 血液の成分の名称と構造、機能を理解し、疾病の原因、症状、治療について説明できる。 それぞれの疾病について、日常生活上の留意点などを説明できる。 障害の分類や特徴、支援を行う際の留意点などを説明できる。				
5	【授業単元】 第3章 身体構造と心身機能 第1節 消化器系 第6章 疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション 第8節 消化器・肝胆脾疾患 【到達目標】 消化器系の名称と構造、機能を理解し、疾病の原因、症状、治療について説明できる。 それぞれの疾病について、日常生活上の留意点などを説明できる。 障害の分類や特徴、支援を行う際の留意点などを説明できる。			13	【授業単元】 第6章 疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション 第15節 精神疾患、精神障害、発達障害 第16節 小児科疾患、肢体不自由、知的障害 【到達目標】 疾病の原因、症状、治療について説明できる。 それぞれの疾病について、日常生活上の留意点などを説明できる。 障害の分類や特徴、支援を行う際の留意点などを説明できる。				
6	【授業単元】 第3章 身体構造と心身機能 第1節 呼吸器系 第6章 疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション 第6節 呼吸器疾患 【到達目標】 呼吸器系名称と構造、機能を理解し、疾病の原因、症状、治療について説明できる。 それぞれの疾病について、日常生活上の留意点などを説明できる。 障害の分類や特徴、支援を行う際の留意点などを説明できる。			14	【授業単元】 第6章 疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション 第19節 悪性腫瘍と緩和ケア 第7章 公衆衛生 【到達目標】 疾病の原因、症状、治療について説明できる。 それぞれの疾病について、日常生活上の留意点などを説明できる。 障害の分類や特徴、支援を行う際の留意点などを説明できる。 予防医学の概念について説明できる。 各保健対策や疾病対策の特徴について説明できる。				
7	第3章 身体構造と心身機能 第1節 泌尿器系 第6章 疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション 第7節 腎・泌尿器疾患 【到達目標】 腎・泌尿器系の名称と構造、機能を理解し、疾病の原因、症状、治療について説明できる。 それぞれの疾病について、日常生活上の留意点などを説明できる。 障害の分類や特徴、支援を行う際の留意点などを説明できる。			15	【授業単元】 第1章 ライフステージにおける心身の変化と健康課題 第1節 健康と疾病の概念 第2節 国際生活機能分類(ICF) 科目まとめ 《定期試験》定期試験解答解説 【到達目標】 健康の定義や健康寿命の概念について述べられる。 ICFの概念とICIDHとの違いについて説明できる。 科目の重要なポイントが理解できる。 自己学習に必要な課題を把握し、取り組み方を説明できる。				
8	【授業単元】 第6章 第13節 口腔疾患 中テスト 【到達目標】 口腔各部の名称と構造、機能を理解し、疾病の原因、症状、治療について説明できる。 それぞれの疾病について、日常生活上の留意点などを説明できる。 障害の分類や特徴、支援を行う際の留意点などを説明できる。			【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。					
【履修に当たっての心構え・留意点】									
医学的な知識は、社会福祉で活動対象となる個人、集団、社会制度を理解する上で不可欠である。医療職種を互いの専門性を尊重し協働していくチームの一員であると捉え、対象理解のための共通言語を学ぶ意識で取り組む。									

授 業 概 要

科目名	社会学と社会システム	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	内藤 博幸		
学科 コース	社会福祉科	学年	3年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
現実の社会が抱える問題を分析することによって、社会のシステム(制度・構造など)を理解する。詳細な到達目標は、社会変動と労働力の関係を説明できる。人口構造について我が国の特徴を理解する。都市化や過疎化など地域のあり方を概説できる。社会集団と組織を理解する。家族のあり方と機能について説明できる。生活様式とライフスタイルの変遷について考察する。人と社会との関係(役割、行為、ジェンマ)を理解する。さらに、具体的な社会問題(差別、貧困、社会的排除、ハラスメント、児童虐待、いじめなど)について解決策を提案することができるようになることである。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
10年以上の社会学そして社会保障制度に関する講義経験を持つ教員が、福祉的視野から社会というもののあり方、仕組(社会システム)自体を理解するための授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
【最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 3 社会学と社会システム】 中央法規					授業を受けたその日のうちに、今一度内容を確認することが重要です。そして、必ず疑問点が、見えてくるはずです。そして、試験前には徹底的に覚えこみましょう。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 第1章 社会学の視点 第2章 社会変動(社会学の誕生)				9	【授業単元】 第10章 自己と他者 役割問題			
	【到達目標】 ・社会学がなぜ必要なのかを理解する ・コントとマルクスの歴史観を解説できる ・社会学がなぜ学問として成立したのかを社会変動の視点で解説できる					【到達目標】 ・役割の意味を説明できる ・ミードの役割取得について解説できる ・ゴッフマンの印象操作を解説できる			
2	【授業単元】 第3章 家族社会学				10	【授業単元】 第11章 組織と集団			
	【到達目標】 ・家族の定義を言える ・我が国の家族のあり方の実容を解説できる ・家族の機能をオグバーンの理論を用いて説明できる ・家族機能とジェンダーについて考察することができる					【到達目標】 ・ゲゼルシャフトとゲマインシャフトを説明出来る ・第一次集団と第二次集団を説明出来る ・コミュニティとアソシエーションの違いが言える ・規範集団の説明ができる			
3	【授業単元】 第4章 都市社会学 農村社会学				11	【授業単元】 第12章 資源と地球環境問題			
	【到達目標】 ・地域社会の過疎問題を説明できる ・ワースのアーバニズム論を語る事ができる ・クラセンの都市の発展段階論を解説できる ・日本の都市社会学に関する学説を語る事ができる					【到達目標】 ・ベックのリスク社会を解説できる ・地球環境問題を解説できる ・社会的ジェンマに関する理論を説明できる ・SDGsを説明できる			
4	【授業単元】 第5章 格差問題				12	【授業単元】 第13章 グローバリゼーション			
	【到達目標】 ・我が国の「格差」の現状を解説できる ・相対的貧困の定義ができる ・ブルデューの分化資本を解説できる ・ジニ係数等で格差の現状を解説できる					【到達目標】 ・グローバリゼーションの影響を考察できる ・在日外国人労働者の現状を語る事ができる ・グローバル化の経済への影響を説明できる			
5	【授業単元】 第6章 社会政策と社会問題				13	【授業単元】 第14章 社会構造と変動			
	【到達目標】 ・マートンやベッカーの社会問題への考察視点を説明できる ・社会問題に対する社会政策の意味を説明できる ・労働運動と福祉国家成立の関連を解説できる ・福祉国家成立の歴史的意味を解説できる					【到達目標】 ・コント・スベンサー・マルクスの社会変動を解説できる ・産業化を解説できる ・近代と前近代の説明ができる			
6	【授業単元】 第7章 差別と偏見 社会関係資本と社会的連帯				14	【授業単元】 第15章 社会学の歴史			
	【到達目標】 ・サムナーの内集団と外集団を解説できる ・リースマンの『孤独な群衆』の内容を説明できる ・アドルノの権威主義的パーソナリティを解説できる ・ラベリング理論に関しての解説ができる					【到達目標】 ・社会学の歴史を解説できる ・脱工業化社会(第二の近代)とは何か、説明できる ・第三の情報革命(ブロックチェーン)を解説できる			
7	【授業単元】 第8章 雇用・生活と人生				15	【授業単元】 ・社会福祉の歴史の総復習 ・後期試験			
	【到達目標】 ・ベティ＝クラークの法則を説明できる ・かつての日本型雇用の特徴をあげられる ・女性労働の課題をあげられる ・ワークライフバランスの背景を説明できる					【到達目標】 ・グループ学習で、お互いの知識を確認する ・試験は60%以上の正解率			
8	【授業単元】 第9章 人口問題 中テスト15点満点				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 ・リースマンの人口理論を説明できる ・我が国の少子化に関の原因と政府の対策を解説できる ・高齢化の現状とその問題点を指摘できる ・少子高齢化が社会経済に及ぼす影響を指摘することができる				科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
配布プリントに解答を書き込むだけでなく、気が付いたことや理解に役立つことと思ったら、どんどんメモを取っていくことです。									

授業概要

科目名	社会福祉調査の基礎	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	福田真清		
学科 コース	社会福祉科	学年	3年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
・社会福祉調査の意義と目的、方法の概要を理解する。 ・統計法の概要、社会福祉調査における倫理や個人情報保護について理解する。 ・量的調査と質的調査の方法、ITを活用した社会福祉調査の方法を理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
障害当事者やその家族を対象にした調査研究や福祉サービス事業所における管理者等で培った知識と経験を活用し、国家試験はもとより、実践現場でも応用可能な知識が習得できるよう、体系的なスモールステップで進めていく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編(2021)『社会福祉調査の基礎』中央法規					テキストと授業で配布するレジュメの復習を勧める。本科目の受講にあたっては各授業に1時間の自宅学習(予習・復習等)を必要とする。				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 オリエンテーション、社会福祉調査の種類			9	【授業単元】 質的調査の意義・目的				
	【到達目標】 ・社会福祉調査の種類 が説明できる。				【到達目標】 ・質的調査と量的調査の違い が説明できる。				
2	【授業単元】 社会福祉調査の展開、統計法			10	【授業単元】 質的調査のデザイン				
	【到達目標】 ・ソーシャルワーカーが社会福祉調査に取り組む意義 ・統計法の5つのポイント が説明できる。				【到達目標】 ・質的データ分析のための基礎的作業の手順 が説明できる。				
3	【授業単元】 社会福祉調査の倫理と個人情報保護			11	【授業単元】 質的データの分析方法 新しい研究法				
	【到達目標】 ・社会福祉調査における倫理的配慮 ・OECD8原則と個人情報保護法のポイント が説明できる。				【到達目標】 ・データの分析方法の特徴 ・新しい研究法 が説明できる。				
4	【授業単元】 社会福祉調査のデザイン			12	【授業単元】 プログラム評価・実践評価				
	【到達目標】 ・「演繹的」「帰納的」の違い ・量的調査の種類 が説明できる。				【到達目標】 ・プログラム評価の種類 ・シングル・システム・デザインに基づく評価方法 が説明できる。				
5	【授業単元】 量的調査の基礎(尺度、信頼性・妥当性)			13	【授業単元】 振り返り①(社会福祉調査の意義)				
	【到達目標】 ・尺度4種類の特徴 が説明できる。 ・信頼性と妥当性 の概念を理解する。				【到達目標】 社会福祉調査の基礎的知識の定着を図る。				
6	【授業単元】 全数調査と標本調査 横断調査と縦断調査			14	【授業単元】 振り返り②(量的調査・質的調査)				
	【到達目標】 ・全数調査と標本調査の違い、抽出方法の特徴 が説明できる。 ・横断調査と縦断調査の特徴 が説明できる。				【到達目標】 量的調査・質的調査の基礎的知識の定着を図る。				
7	【授業単元】 質問票の作成・配布・回収			15	【授業単元】 社会福祉調査の展望、試験				
	【到達目標】 ・質問法の作成・配布・回収それぞれの留意点 が説明できる。				【到達目標】 ・知識の定着と社会福祉調査の実践力の度合いを確認する。				
8	【授業単元】 データの整理と分析			【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし中テストは15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。					
	【到達目標】 ・データの視覚化を理解する。 ・検定の種類と特徴 が説明できる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
それぞれの授業は連関し合っているため、わからない部分はそのままにせず、次の授業までに必ず消化しておくこと。									

授業概要

科目名	社会保障	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	若尾 尚子		
学科 コース	社会福祉科	学年	3年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
①社会保障の概念や対象及びその理念について、社会保障制度の展開過程も含めて理解する。 ②現代社会における社会保障制度の役割と意義、制度の財政や取り組むべき課題について理解する。 ③わが国における社会保障制度の体系と概要、諸外国における社会保障制度の概要について理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
病院の地域連携室・医療福祉相談室で医療ソーシャルワーカーとして10年以上、また県福祉事務所の相談員など長年ソーシャルワーク業務に従事してきた担当教員が、実践で培った経験をもとに、事例やディスカッションを交えながら講義を進める。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新・社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座7 社会保障 中央法規出版					過去問題や模擬試験で問われた該当部分について確認すること。また、関連する報道等に関心を持ちチェックをすること。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション				9	【授業単元】 第2章 社会保障の概念と範囲 第4節 社会保障の対象・第5節 社会保障制度の展開			
	【到達目標】 社会保障と社会福祉の関係について理解できる。医療や福祉の専門職として、社会保障を学ぶ意義について理解できる。					【到達目標】 社会保障の人的な適用範囲の捉え方を理解できる。社会保障制度の歴史を理解できる。			
2	【授業単元】 第1章 現代社会と社会保障 第1節 人口動態の変化				10	【授業単元】 第3章 社会保障の財政 第1節 社会保障の財政			
	【到達目標】 人口減少と少子高齢化が社会および社会保障に与える影響について考えることができる。					【到達目標】 社会保障財政を支える財源は多様であることが理解できる。			
3	【授業単元】 第1章 現代社会と社会保障 第2節 経済環境の変化				11	【授業単元】 第3章 社会保障の財政 第2節 社会保障給付費・内訳・動向			
	【到達目標】 現在の国民の所得、貯蓄、負債の状況を把握することができる。					【到達目標】 社会保障給付費の内訳と誰に重点が置かれた支出が多いかを理解できる。			
4	【授業単元】 第1章 現代社会と社会保障 第3節 労働環境の変化				12	【授業単元】 第3章 社会保障の財政 第3節 国民負担率			
	【到達目標】 労働力と失業、非正規雇用の状況等の労働環境の変化について理解することができる。					【到達目標】 国民負担率の定義、その水準や動向が理解できる。			
5	【授業単元】 第2章 社会保障の概念と範囲 第1節 社会保障の概念と範囲				13	【授業単元】 第3章 社会保障の財政 第4節 社会保障と経済			
	【到達目標】 社会保障の定義についての説明をよく読み、社会保障の定義が理解できる。					【到達目標】 社会保障の給付と負担の、私たちの経済のなかの大きさについて考えることができる。			
6	【授業単元】 第2章 社会保障の概念と範囲 第2節 社会保障の役割と意義				14	【授業単元】 第4章 社会保険・社会扶助・民間保険の関係 第1節 保険と扶助の考え方			
	【到達目標】 個人の人生において社会保障に期待される役割について理解することができる。					【到達目標】 保険と扶助の考え方、原理の違いについて理解できる。			
7	【授業単元】 第2章 社会保障の概念と範囲 第3節 社会保障の理念				15	【授業単元】 定期試験			
	【到達目標】 日本国憲法第25条の規定を確認し、生存権について理解することができる。					【到達目標】 前期後半の授業を再確認し、学びでの理解を定着することができる。			
8	【授業単元】 定期試験(中テスト)				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 前期前半の授業を再確認し、学びでの理解を定着することができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
授業ではテキストを使用するため必ず持参すること。また、今回の復習と次回の予習のためにテキストを読んでおくこと。									

授 業 概 要

科目名	社会保障	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	若尾 尚子		
学科 コース	社会福祉科	学年	3年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
①社会保障の概念や対象及びその理念について、社会保障制度の展開過程も含めて理解する。 ②現代社会における社会保障制度の役割と意義、制度の財政や取り組むべき課題について理解する。 ③わが国における社会保障制度の体系と概要、諸外国における社会保障制度の概要について理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
病院の地域連携室・医療福祉相談室で医療ソーシャルワーカーとして10年以上、また県福祉事務所の相談員など長年ソーシャルワーク業務に従事してきた担当教員が、実践で培った経験をもとに、事例やディスカッションを交えながら講義を進める。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新・社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座7 社会保障 中央法規出版					過去問題や模擬試験で問われた該当部分について確認すること。また、関連する報道等に関心を持ちチェックをすること。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 第4章 社会保険・社会扶助・民間保険の関係 第2節 社会保険と社会扶助の考え方・第3節				9	【授業単元】 第5章 社会保障制度の体系 第4節 労災保険制度と雇用保険制度の概要			
	【到達目標】 歴史的経緯のなかで区別整理された社会保険と社会扶助について理解することができる。					【到達目標】 労働保険(労災保険と雇用保険)の概要を理解することができる。			
2	【授業単元】 第5章 社会保障制度の体系 第1節 医療保険制度の概要				10	【授業単元】 第5章 社会保障制度の体系 第5節 生活保護制度の概要 ・ 第6節 社会手当制度の概要			
	【到達目標】 医療保険制度の全体像、体系と沿革を把握し、医療保険制度の類型について理解できる。					【到達目標】 生活保護制度の概要について理解することができる。各種社会手当の内容が理解できる。			
3	【授業単元】 第5章 社会保障制度の体系 第1節 医療保険制度の概要				11	【授業単元】 第5章 社会保障制度の体系 第7節 社会福祉制度の概要			
	【到達目標】 医療保険制度の財政の仕組みを把握し、医療費の流れを理解することができる。					【到達目標】 社会福祉の各分野(高齢者福祉・児童福祉・障害者福祉)の諸制度について理解できる。			
4	【授業単元】 第5章 社会保障制度の体系 第2節 介護保険制度の概要				12	【授業単元】 第6章 諸外国における社会保障制度 第1節 諸外国の社会保障			
	【到達目標】 介護保険制度の沿革と概要について理解できる。					【到達目標】 主要国の社会保障制度について、各国の特徴を理解することができる。			
5	【授業単元】 第5章 社会保障制度の体系 第2節 介護保険制度の概要				13	【授業単元】 第6章 諸外国における社会保障制度 第2節 社会保障の国際比較			
	【到達目標】 地域包括ケアシステムと介護保険の関係が理解できる。					【到達目標】 主要国の社会保障の現状を比較し、理解することができる。			
6	【授業単元】 第5章 社会保障制度の体系 第3節 年金制度の概要				14	【授業単元】 第6章 諸外国における社会保障制度 第3節 社会保障の国際化			
	【到達目標】 年金制度の基本的な仕組みについて理解できる。					【到達目標】 社会保障の国際化は必要か、国際化対応により期待される効果は何かを考えることができる。			
7	【授業単元】 第5章 社会保障制度の体系 第3節 年金制度の概要				15	【授業単元】 定期試験			
	【到達目標】 年金制度の最近の動向と課題について理解できる。					【到達目標】 後期後半の授業を再確認し、学びでの理解を定着することができる。			
8	【授業単元】 定期試験(中テスト)				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 後期前半の授業を再確認し、学びでの理解を定着することができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
授業ではテキストを使用するため必ず持参すること。また、今回の復習と次回の予習のためにテキストを読んでおくこと。									

授業概要

科目名	福祉サービスの組織と経営	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	齋藤 誠二		
学科 コース	社会福祉科	学年	3年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
福祉サービスを提供する施設は多岐にわたっており、同時に変動しているものである。昨今、福祉ニーズも多様化し複雑となっている。その中で、専門職として福祉サービスを提供するということはどういったことなのか、同時に質の確保を保ち持続可能なサービスを提供するためには何が必要なのかを講義を通して学び、幅広く福祉サービスをマネジメントすることが出来る社会福祉士を目指す。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
保健医療領域での経験を有する教員による、福祉サービスに係る組織と団体(社会福祉法人、医療法人、特定非営利活動法人(NPO)、市民団体、自治体など)について、その経営の制度を理解し、運営管理を含めた福祉マネジメントについて授業を展開していく。									
【使用教科書・教材・参考図書】									
最新社会福祉士養成講座1 福祉サービスの組織と経営 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編 中央法規出版 授業配布資料等					【授業時間外における学習】				
授業は講義にて、要点の記述のみを行うため、講義内で教員の話した内容はノート等に記述し、不明な用語等については次回の授業までに調べるようにすること。									
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 福祉サービスに係る組織や団体の概要と役割①				9	【授業単元】 福祉サービス提供組織の経営と実際②			
	【到達目標】 福祉サービスを提供する組織や管理について理解し、説明できるようになる。法人の基本形態を理解する。その中でも社会福祉法人の役割、形態を説明できるようになる					【到達目標】 福祉経営の特質は何かを理解する。経営戦略やマーケティングなどの用語を理解し、使えるようになる			
2	【授業単元】 福祉サービスに係る組織や団体の概要と役割②				10	【授業単元】 福祉サービス提供組織の経営と実際③			
	【到達目標】 法人の基本形態を理解する。その中でも医療法人や営利法人の役割、形態を説明できるようになる					【到達目標】 苦情解決体制やリスクマネジメントを理解し、自らが率先して解決を図れるようになる			
3	【授業単元】 福祉サービスに係る組織や団体の概要と役割③				11	【授業単元】 情報管理			
	【到達目標】 福祉サービスの沿革を理解し、これまでの経緯を把握する。組織間連携とは何かを理解し、その意義について説明できるようになる					【到達目標】 福祉経営における自分自身が理想とする福祉経営の姿を考察できるようになる。個人情報保護をはじめとする情報の管理と運営について理解し、実践でも役立てられるようになる			
4	【授業単元】 福祉サービスの組織と運営に係わる基礎理論①				12	【授業単元】 会計管理と財務管理			
	【到達目標】 福祉分野における組織の特徴と特殊性を学び、説明できるようになる					【到達目標】 社会福祉法人と企業では、財務管理目的が異なることを理解し、説明できるようになる			
5	【授業単元】 福祉サービスの組織と運営に係わる基礎理論②				13	【授業単元】 福祉人材とマネジメント①			
	【到達目標】 集団の概念、集団力学(グループダイナミクス)およびチームアプローチの特性を理解する。					【到達目標】 人材マネジメントの基本的内容を知り、福祉人材マネジメントの特性を理解する。福祉人材の必要性と、組織における人材育成の仕組みと方法を理解し、説明できる			
6	【授業単元】 福祉サービスの組織と運営に係わる基礎理論③				14	【授業単元】 福祉人材とマネジメント②			
	【到達目標】 リーダーシップ論を理解し、実務でも役立てられるようになる					【到達目標】 福祉人材にとって働きやすい労働環境とは何かを知り、説明できるようになる。労務管理の基本を理解する			
7	【授業単元】 福祉サービス提供組織の経営と実際①				15	【授業単元】 まとめ及び全体振り返り 定期試験			
	【到達目標】 社会福祉法人と理事等、株式会社と取締役等の関係を理解する。コンプライアンス、ガバナンスの意味を理解し、実務でも役立てられるようになる					【到達目標】 第9回～第14回の授業内容から出題 定期試験解説。学習内容の振り返りから理解度を確認するとともに、これまでの授業内容について理解し、説明できる。			
8	【授業単元】 中間試験				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 第1回～第7回の授業内容から出題 中間試験解説、学習内容の振り返りから理解度を確認する				科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
日頃から組織経営に関心を持ち、新聞やニュース、雑誌などから最新情報をキャッチするよう心掛けてください。									

授業概要

科目名	保健医療と福祉	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	齋藤 誠二		
学科 コース	社会福祉科	学年	3年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1. ソーシャルワーク実践において必要となる保健医療の動向を理解する。 2. 保健医療に係る政策、制度、サービスについて理解する。 3. 保健医療領域における社会福祉士の役割と、連携や協議について理解する。 4. 保健医療の課題を持つ人に対する、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
医療ソーシャルワーカー(社会福祉士)として、急性期医療・地域包括ケア病棟で相談援助業務等に従事。ソーシャルワークに必要な医療保険制度や保健医療サービス等の知識を伝えつつ、多職種連携等の必要性などを実際に起こった事例を交え、講義を中心に授業を展開する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新社会福祉士養成講座5 保健医療と福祉(第2版) 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編 中央法規出版 授業配布資料等					他の科目で学習した知識と相互に関連付けて理解を深めるために、事前学習・事後学習を行う。また、ソーシャルワークは人々の生活課題や制度・社会問題等の解決に働きかけることから、普段の日常生活の中から、これらの課題や問題意識を持つことが求められる。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 1)オリエンテーション 2)保健医療の課題をもつ人の理解①				9	【授業単元】 1)保健医療領域に必要な政策・制度およびサービスに関する知識①			
	【到達目標】 1)授業で学ぶ内容、達成目標について理解する 2)疾病、健康の定義、5大疾病について理解し、説明できる 3)ICF、ICIDHについて理解し、説明できる					【到達目標】 1)保健医療の政策・制度の全体像を理解し、説明できる 2)保健医療サービスの提供体制の体系を理解し、説明できる			
2	【授業単元】 1)保健医療の課題をもつ人の理解②				10	【授業単元】 1)保健医療領域に必要な政策・制度およびサービスに関する知識②			
	【到達目標】 1)病をもつことによって生じる諸問題について理解し、説明できる 2)疾病や障害が家族に与える影響を理解し、説明できる 3)家族支援の視点を理解し、説明できる					【到達目標】 1)医療費保障制度の体系を理解し、説明できる 2)保健医療領域と隣接領域の関係について理解し、説明できる			
3	【授業単元】 1)保健医療の課題をもつ人の理解③				11	【授業単元】 1)保健医療領域における専門職の役割と連携①			
	【到達目標】 1)医療における患者の権利について理解し、説明できる 2)インフォームドコンセント、インフォームドアセントについて理解し、説明できる					【到達目標】 1)医療における専門職の役割について理解し、説明できる 2)医療機関における情報共有の仕組みを理解し、説明できる 3)ジェノグラム、エコマップを理解し、書くことができる			
4	【授業単元】 1)医療倫理①				12	【授業単元】 1)保健医療領域における専門職の役割と連携②			
	【到達目標】 1)医療倫理の4原則について理解し、説明できる 2)生殖医療、移植医療、終末期医療の倫理的課題の概要を理解し、説明できる					【到達目標】 1)医療機関におけるMSWが所属する部門の位置づけについて理解し、説明できる 2)医療機関における情報共有の仕組みを理解し、説明できる 3)ジェノグラム、エコマップを理解し、書くことができる			
5	【授業単元】 1)医療倫理②				13	【授業単元】 1)保健医療領域における支援の実践①			
	【到達目標】 1)意思決定支援の4モデルの特徴の違いを理解し、説明できる 2)身寄りがいない等の人への意思決定支援について、自分の意思を述べるができる					【到達目標】 1)MSWの役割、業務指針、業務の範囲について理解し、説明できる 2)事例を通じて、MSWの連携に必要な知識について理解し、説明できる			
6	【授業単元】 1)保健医療の動向①				14	【授業単元】 1)保健医療領域における支援の実践②			
	【到達目標】 1)疾病構造とその経年的な動向について理解し、説明できる 2)疾病構造の変化に伴う、保健と社会の役割について理解し、説明できる					【到達目標】 1)事例を通じて、今まで習得したMSWの連携に必要な知識・技術を駆使し、実際の相談援助について学ぶ			
7	【授業単元】 1)保健医療の動向②				15	【授業単元】 1)期末試験(第9回～第14回の授業範囲)			
	【到達目標】 1)在宅医療推進の背景と課題について理解し、説明できる 2)保健医療における福祉的課題の概要、重要性を理解し、説明できる 3)疾患や状況において特徴的な福祉的課題を把握する					【到達目標】 1)試験を通じ、これまでの授業内容について理解し、説明できる			
8	【授業単元】 1)中間試験(第1回～第7回までの授業範囲を出題対象とする)				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 1)試験を通じ、これまでの授業内容について理解し、説明できる								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
常に保健医療分野について、社会の変化や政策、動向等、最新の情報を取り入れるように努めてください。また、講義においては、主体的な取り組みから自分の意思を言語化できるよう心がけて下さい。									

授業概要

科目名	ソーシャルワーク演習(社会専門)Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	各務勝博		
学科 コース	社会福祉科	学年	3年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
・支援過程(インテーク～終結)を構造的に説明できる ・利用者理解に基づいたアセスメントができる ・支援場面における判断・介入を言語化できる ・社会福祉士としての価値・倫理・役割を自覚し表現できる									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
・障害者福祉・高齢者福祉分野でソーシャルワーク、ケアマネジメント、リスクマネジメント、組織運営などの実践経験を持つ教員が、事例検討、ロールプレイ、グループワークなどの手法を用いて、援助技術や知識を活用できることを目指し他授業をおこなう。 ・本演習は、社会福祉士として求められる実践力の基盤形成を目的とし、実習前後の学習を統合しながら、支援過程の理解・アセスメント力・対人援助技術・多職種連携力の向上を図る。事例検討、ロールプレイ、グループワークを中心に、理論と実践の往還を重視した演習を行う。また、自己の価値観や専門職倫理を言語化し、社会福祉士としての専門性の自覚を促す。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
テキストはなし、参考図書、教材などについては随時提示する					社会の出来事をインターネット上の情報などに偏らず、新聞なども参考にしながらソーシャルワークとしての観点からも捉える習慣をつけることが望ましい				
授業計画				コマ	授業計画				
1	【授業単元】 オリエンテーションと支援の再定義			9	【授業単元】 面接技法②(応用)				
	本演習の目的・進め方・評価方法について説明する。あわせて、「支援とは何か」という基本概念を再確認し、これまでの学習や経験を振り返りながら、社会福祉士としての支援の捉え方について整理する。				【到達目標】 沈黙への対応や感情表出への関わりなど、応用的な面接技法について学ぶ。困難な場面における対応の基本を理解する。				
2	【授業単元】 支援過程の全体像の理解			10	【授業単元】 ロールプレイ①(インテーク面接)				
	【到達目標】 社会福祉援助における支援過程(インテーク、アセスメント、計画、実施、評価、終結)の全体像を整理し、それぞれの段階の役割と連続性について理解を深める。				【到達目標】 インテーク場面を想定したロールプレイを実施し、初回面接における関係形成と情報収集の実践力を養う。				
3	【授業単元】 アセスメントの基本構造			11	【授業単元】 ロールプレイ②(課題整理面接)				
	【到達目標】 アセスメントの意義と方法について学び、情報収集とその解釈の違いを理解する。事実と主観を区別しながら、利用者理解を深めるための視点を習得する。				【到達目標】 課題整理の場面を想定したロールプレイを行い、利用者のニーズを整理し、支援の方向性を共有する力を養う。				
4	【授業単元】 アセスメント演習①(個人ワーク)			12	【授業単元】 判断の構造①(理論)				
	【到達目標】 簡易事例を用いて個人でアセスメントを行い、情報の整理と課題の把握を実践する。アセスメントシートの記入を通して、支援に必要な視点の基礎を身につける。				【到達目標】 支援における判断の特徴について学び、「選ばなかった選択」を含めた意思決定の構造や、専門職としての責任について考察する。				
5	【授業単元】 アセスメント演習②(グループワーク)			13	【授業単元】 判断の構造②(演習)				
	【到達目標】 同一事例についてグループでアセスメントを行い、他者との視点の違いを比較・検討する。複数の見方を統合しながら、より多角的な利用者理解を目指す。				【到達目標】 「見守り」と「介入」の判断をテーマに、具体的事例をもとに検討を行う。リスク管理と権利擁護のバランスについて理解を深める。				
6	【授業単元】 支援目標の設定方法			14	【授業単元】 ミニケース検討演習				
	【到達目標】 アセスメントに基づく支援目標の立て方について学ぶ。短期目標・長期目標の違いや、具体性・実現可能性を踏まえた目標設定の考え方を理解する。				【到達目標】 短時間で事例を分析し、アセスメントから支援方針までを整理する演習を行う。限られた情報の中で判断する力を養う。				
7	【授業単元】 支援計画の立案			15	【授業単元】 前期のまとめと自己課題の明確化 ＊期末テスト				
	【到達目標】 支援目標に基づき、具体的な支援内容や方法を検討する。制度や社会資源の活用を含めた支援計画の構築方法について学ぶ。				【到達目標】 前期の学習内容を振り返り、「支援とは何か」について再度言語化する。あわせて、自身の強みと課題を整理し、後期に向けた学習目標を設定する。				
8	【授業単元】 面接技法①(基礎) ＊中テスト			【成績評価の方法と基準】					
	【到達目標】 対人援助における基本的な面接技法(傾聴、共感、受容)について学び、利用者との信頼関係形成の重要性を理解する。			科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テストや参加態度、意欲を40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。					
【履修に当たっての心構え・留意点】									
講義形式で学んだことと現場実習の間に位置する授業であることを踏まえ、積極的に参加することでスキルアップができるという認識で授業に臨むこと。									

授 業 概 要

科目名	ソーシャルワーク演習(社会専門)Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	各務勝博		
学科 コース	社会福祉科	学年	3年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
・支援過程(インタークー～終結)を構造的に説明できる ・利用者理解に基づいたアセスメントができる ・支援場面における判断・介入を言語化できる ・社会福祉士としての価値・倫理・役割を自覚し表現できる									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
・障害者福祉・高齢者福祉分野でソーシャルワーク、ケアマネジメント、リスクマネジメント、組織運営などの実践経験を持つ教員が、事例検討、ロールプレイ、グループワークなどの手法を用いて、援助技術や知識を活用できることを目指し他授業をおこなう。 ・本演習は、社会福祉士として求められる実践力の基盤形成を目的とし、実習前後の学習を統合しながら、支援過程の理解・アセスメント力・対人援助技術・多職種連携力の向上を図る。事例検討、ロールプレイ、グループワークを中心に、理論と実践の往還を重視した演習を行う。また、自己の価値観や専門職倫理を言語化し、社会福祉士としての専門性の自覚を促す。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
テキストはなし、参考図書、教材などについては随時提示する					社会の出来事をインターネット上の情報などに偏らず、新聞なども参考にしながらソーシャルワークとしての観点からも捉える習慣をつけることが望ましい				
	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 後期オリエンテーションと前期の振り返り			9	【授業単元】 支援の説明力①(根拠の明確化)				
	【到達目標】 後期演習の目的・進め方を説明するとともに、前期の学習内容を振り返る。振り返りシートを用いて、支援過程やアセスメントに関する理解の到達度を確認し、後期における個人の学習目標を設定する。				【到達目標】 「なぜその支援を行ったのか」を説明する力を養う。自身の事例をもとに、アセスメントと支援のつながりを整理し、根拠を明確にする演習を行う。				
2	【授業単元】 実習経験の共有と支援場面の抽出			10	【授業単元】 支援の説明力②(プレゼンテーション)				
	【到達目標】 各自の実習経験を振り返り、印象に残っている支援場面を抽出するワークを行う。ペアやグループで共有しながら、「どのような場面が専門性に関わるのか」を整理し、事例化の視点を学ぶ。				【到達目標】 作成した事例について発表を行う。限られた時間の中で支援の意図や根拠を伝える練習を行い、他者からの質問やコメントを通して理解を深める。				
3	【授業単元】 支援場面の構造化①(出来事の整理)			11	【授業単元】 ロールプレイ③(困難事例への対応)				
	【到達目標】 抽出した支援場面について、「何が起きていたのか」を時系列で整理する演習を行う。出来事と自分の関わりを区別しながら、支援過程として再構成する力を養う。				【到達目標】 対応が難しい利用者場面を想定したロールプレイを実施する。拒否的態度や感情的反応への対応を体験し、支援者としての関わり方を検討する。				
4	【授業単元】 支援場面の構造化②(意味づけの分析)			12	【授業単元】 ロールプレイ④(終結面接)				
	【到達目標】 前回整理した支援場面について、「なぜその支援が行われたのか」という意味づけを行う。価値・倫理・技術の観点から支援を分析し、専門職としての判断を言語化する。				【到達目標】 支援の終結場面を想定したロールプレイを行う。支援の振り返りや関係の整理、今後の見通しの共有など、終結に必要な関わりを実践的に学ぶ。				
5	【授業単元】 事例作成①(個人作業)			13	【授業単元】 総合ケース演習①(複合事例の分析)				
	【到達目標】 自身の支援場面をもとに事例を作成する。背景、利用者の状況、支援内容、結果を整理し、他者に伝わる形で文章化する作業を行う。				【到達目標】 複数の課題が絡む事例を用いて総合的な分析を行う。アセスメントから支援計画までを統合的に検討し、複雑なケースへの対応力を養う。				
6	【授業単元】 事例作成②(ブラッシュアップ)			14	【授業単元】 総合ケース演習②(統合的判断と発表)				
	【到達目標】 作成した事例について教員および他者からのフィードバックを受け、内容の修正・改善を行う。事例の構造や記述の明確さを高めることを目的とする。				【到達目標】 前回の分析をもとに支援方針をまとめ、発表を行う。他者の意見を踏まえながら支援の妥当性を検討し、統合的な判断力を高める。				
7	【授業単元】 ケース会議演習①(多職種視点)			15	【授業単元】 最終まとめと専門職としての自己定義 * 期末テスト				
	【到達目標】 作成した事例を用いてケース会議を行う。支援者、他職種、関係機関の立場を設定し、それぞれの視点から意見を出し合い、多角的な支援の捉え方を学ぶ。				【到達目標】 後期および年間の学習を振り返り、社会福祉士としての自身の強みと課題を整理する。最終レポートや振り返りを通して、「自分はどのような支援者であるか」を言語化し、今後の学習や実践につなげる。				
8	【授業単元】 ケース会議演習②(合意形成) * 中テスト			【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テストや参加態度、意欲を40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。					
	【到達目標】 前回のケース会議を踏まえ、支援方針の合意形成を図る演習を行う。意見の違いを調整しながら、現実的な支援方針を導くプロセスを体験する。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
講義形式で学んだことと現場実習の間に位置する授業であることを踏まえ、積極的に参加することでスキルアップができるという認識で授業に臨むこと。									

授 業 概 要

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ（社会）	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	学科教員				
学科 コース	社会福祉科	学年	3年	授業の 方法	演習	単位数	2	単位	総時間数	60	時間
【授業を通じての到達目標】											
・相談援助実習の意義について理解する。 ・相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し実践的な技術を体得する。 ・社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ・具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する。											
【学習内容】（どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
社会福祉士としての実務経験が5年以上もしくは実習教員講習会を修了した教員が、集団および個別指導にて実習先における事前理解や実習終了後の現場体験を踏まえた総括等をおこなう。											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
実習要項 社会福祉士指定科目 各教科書						実習オリエンテーションに参加するとともに、実習先についての事前学習等、実習に向けた各自の学習が必要である。					
授業計画											
実習開始前と実習終了後に下記の内容にて実施する ・ 相談援助実習と相談援助実習指導における個別指導及び集団指導の意義 ・ 実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解 ・ 実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解 ・ 現場体験学習及び見学実習（実際の介護サービスの理解や各種サービスの利用体験等を含む。） ・ 実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解 ・ 実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解（個人情報保護法の理解を含む。） ・ 「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解 ・ 実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成 ・ 巡回指導 ・ 実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成 ・ 実習の評価全体総括会											
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
ソーシャルワーカーとしてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むための心がまえが求められる。						提出物及び記述試験をふまえ、A～Eの6段階で評価する。					

授 業 概 要

科目名	ソーシャルワーク実習Ⅱ（社会）	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	学科教員				
学科 コース	社会福祉科	学年	3年	授業の 方法	実習	単位数	4	単位	総時間数	180	時間
【授業を通じての到達目標】											
・相談援助実習を通じて、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。 ・社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ・関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。											
【学習内容】（どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
社会福祉士としての実務経験が3年以上かつ実習指導者講習会を修了した実習担当者が、相談援助実習担当教員の巡回指導と合わせ、実習中の取り組みについてフィードバックとスーパービジョンを行うなかで、実践を通して学んだ知識や経験を理論としてまとめる能力の涵養を行う。											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
実習要項 社会福祉士指定科目 各教科書						実習時間以外も実習日誌の記入や実習課題等に取り組むとともに、既習内容を復習し実習に生かしていく姿勢が必要である。					
授業計画											
以下の内容について、各実習施設における実習計画書に沿って、実習指導者による指導を受け理解を図る。 ・利用者やその関係者、施設・事業者・機関・団体等の職員、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成 ・利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成 ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成 ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援（エンパワメントを含む。）とその評価 ・多種職連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実践 ・社会福祉士としての職業倫理、施設・事業者・機関・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解 ・施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実践 ・当該実習先が地域社会の中の施設・事業者・機関・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーク、社会資源の活用・調整・開発に関する理解											
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
ソーシャルワーカーとしてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むとともに、主体的な姿勢でとりくむことが求められる。						実習指導者による評価、実習巡回教員による評価、自己評価を換算し、A～Eの6段階で評価する。					

授 業 概 要

科目名	精神医学と精神医療	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	一木 崇弘		
学科 コース	社会福祉科	学年	3年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
①精神医学・精神医療の歴史を説明することができる。 ②精神医学と心理学や心身医学との関係を理解する。 ③精神医学のモデルを理解し、精神疾患について多角的に理解する。 ④精神医療や精神保健福祉、司法精神医学に関する法律を理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
本授業は、医学博士・精神保健福祉士・社会福祉士を有し、医学部で教育研究に従事する教員が担当する。精神医学および精神医療は、病的な精神状態を扱う医学・医療の一分野であり、その内容は自然科学、人文学、司法、人権、社会保障など、非常に広範囲にわたる。本授業では、精神医学の基礎的な知識を広く学ぶことを目的とし、特に精神科医療機関で頻繁に接する精神疾患や、精神科医療に従事する際に知っておくべき独自の法制度について詳しく解説する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
・精神医学と精神医療(最新精神保健福祉士養成講座) ・西園 マーハ文:「対人援助職のための精神医学講座～グループディスカッションで学ぶ」誠信書房					授業終了後に、次回までに復習してほしい用語等を提示する。教科書、レジュメ資料を用いて授業の予習・復習を行うこと。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 精神医学総論(1) 【到達目標】 精神医学の学問的特徴や歴史的変遷、精神医学と身体医学の違いについて理解する。				9	【授業単元】 認知症(2) 【到達目標】 認知症(1)の内容を踏まえ、認知症における薬物療法について解説する。認知症医療の社会資源(認知症疾患医療センター)や若年性認知症者の福祉的支援について解説する。			
2	【授業単元】 精神医学総論(2) 【到達目標】 精神医学総論(1)の内容を踏まえ、脳・神経の解剖や大脳の役割、精神病態について解説する。				10	【授業単元】 不安症および心的外傷・ストレス関連障害 【到達目標】 神経症性障害およびストレス関連障害の概略と分類される疾患について説明する。特に頻度の高い疾患については症例提示も行い理解を深める。			
3	【授業単元】 統合失調症(1) 【到達目標】 統合失調症は本邦精神科で最も入院患者数が多いとされ、精神科医療機関に勤務する者にとって最も知識と経験を求められる疾患と言える。(1)の講義では、統合失調症の歴史的背景や疾患の大まかな概念の理解を目的とする。				11	【授業単元】 摂食障害 【到達目標】 摂食障害の疫学、診断、治療、心理社会的支援について解説する。また、身体各臓器・歯科口腔に及ぼす影響についても説明する。			
4	【授業単元】 統合失調症(2) 【到達目標】 統合失調症(1)の内容を踏まえ、病態や経過における抗精神病薬など治療に関することや、医療者として患者と向き合う姿勢などについても解説する。				12	【授業単元】 依存症 【到達目標】 依存症性疾患の種類、疫学、心理社会的治療について解説する。我が国における依存症対策についても解説する。			
5	【授業単元】 気分障害(1) 【到達目標】 気分障害、特にうつ病の増加が指摘されるが、その概念は現在も変遷を続けている。本講義ではうつ病、気分障害の歴史を中心に解説することで、理解を深めることを目的にする。				13	【授業単元】 てんかん 【到達目標】 てんかんの種類、疫学、治療(薬物・外科的)、および改正道路交通法におけるてんかん患者の運転免許取得について説明する。			
6	【授業単元】 気分障害(2) 【到達目標】 気分障害(1)の内容を踏まえ、現在用いられている気分障害の分類と、症状の具体的な解説を行い、病像の理解を深める。また、抗うつ薬についてなど治療についても説明する。				14	【授業単元】 パーソナリティ障害および行動の障害 【到達目標】 パーソナリティ障害の種類と特徴、医学的対応について解説する。また、境界性パーソナリティ障害と自傷・自殺行為との関連についても説明する。			
7	【授業単元】 認知症(1) 【到達目標】 社会の高齢化と共に、精神科医療機関でも近年認知症患者の受診機会が増している。本講義では認知症と加齢による物忘れの違いなど一般的なことから、代表的な認知症疾患と各疾患の病態像の特徴などを中心に解説する。				15	【授業単元】 期末試験 【到達目標】 精神医学の基本的疾患に対する理解度を確認する。			
8	【授業単元】 中テスト 【到達目標】 第1回から第7回までの復習を行う。				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テストは15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
事例提示の部分はディスカッションを行います。討論への積極的な参加を期待します。精神医学の理解には、基礎的な医学知識を必要とします。予習復習をしておいてください。									

授業概要

科目名	精神医学と精神医療	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(後期)	担当 教員	一木崇弘		
学科 コース	社会福祉科	学年	3年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
①精神医学・精神医療の歴史を説明することができる。 ②精神医学と心理学や心身医学との関係を理解する。 ③精神医学のモデルを理解し、精神疾患について多角的に理解する。 ④精神医療や精神保健福祉、司法精神医学に関する法律を理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
本授業は、医学博士・精神保健福祉士・社会福祉士を有し、医学部で教育研究に従事する教員が担当する。精神医学および精神医療は、病的な精神状態を扱う医学・医療の一分野であり、その内容は自然科学、人文科学、法学、人権、社会保障など、非常に広範囲にわたる。本授業では、精神医学の基礎的な知識を広く学ぶことを目的とし、特に精神科医療機関で頻繁に接する精神疾患や、精神科医療に従事する際に知っておくべき独自の法制度について詳しく解説する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
・精神医学と精神医療(最新精神保健福祉士養成講座) ・西園マールハ文:「対人援助職のための精神医学講座〜グループディスカッションで学ぶ」誠信書房					授業終了後に、次回までに復習してほしい用語等を提示する。教科書、レジュメ資料を用いて授業の予習・復習を行うこと。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 周産期のメンタルヘルス 【到達目標】 妊娠・出産期に特有の身体的・心理的負担や、妊娠中・産後のうつ病、不安障害、適応障害などの精神的問題について理解する。				9	【授業単元】 医療観察法 【到達目標】 司法精神医療の構造や医療観察法が成立した経緯、治療プログラムについて理解する。			
2	【授業単元】 自殺予防 【到達目標】 わが国における自殺予防対策の現状、自殺の促進・予防因子、取り組みおよび自殺対策基本法について理解を深める。				10	【授業単元】 地域精神保健・精神科救急 【到達目標】 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム(にも包括)の概要と事例について解説し、地域精神保健について理解を深める。また、わが国の精神科救急医療提供体制の現状と課題についても理解する。			
3	【授業単元】 薬物療法 【到達目標】 精神医学・精神医療で用いられる薬物とその効果に触れ、薬物療法について理解を深める。				11	【授業単元】 精神科リエゾン 【到達目標】 総合病院における精神科の役割、精神科リエゾンチーム、せん妄について理解する。			
4	【授業単元】 非薬物療法 【到達目標】 精神療法(心理療法)、精神科リハビリテーション、ニューロモデュレーション、心理社会的支援について理解する。				12	【授業単元】 災害メンタルヘルス 【到達目標】 災害時のメンタルヘルス支援もわが国の精神保健上の課題である。本講義では、こころの不調、メンタルヘルス支援とDPATの役割について理解する。			
5	【授業単元】 心理検査・精神医学的検査 【到達目標】 精神科臨床で用いられる心理検査、精神医学的検査について理解する。				13	【授業単元】 社会的ひきこもり 【到達目標】 近年、社会的ひきこもり状態(ひきこもり)は、精神医学と社会的孤立の両分野で注目されるようになってきた。精神医学的視点からひきこもりの病態と支援について理解する。			
6	【授業単元】 精神医療・精神保健の動向 【到達目標】 厚生労働省患者データを用いて、外来・入院患者の動向や精神科医療の形態(外来・入院・訪問)について理解する。				14	【授業単元】 総括 【到達目標】 実際の精神保健福祉士国家試験過去問を用いて授業内容の復習を行う。			
7	【授業単元】 精神保健福祉法 【到達目標】 わが国の精神障害者への処遇の歴史を振り返り、精神保健福祉法が成立した経緯や法の趣旨、入院形態について理解を深める。				15	【授業単元】 期末試験 【到達目標】 「精神医学と精神医療」の内容について復習を行い、精神医学の学問的体系や精神保健福祉士として必要な精神医学的知識について整理する。			
8	【授業単元】 中テスト 【到達目標】 第1回～第7回までの授業内容について確認する。				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テストは15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
事例提示の部分はディスカッションを行います。討論への積極的な参加を期待します。精神医学の理解には、基礎的な医学知識を必要とします。予習復習をしておいてください。									

授 業 概 要

科目名	卒業研究Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	小倉 明子／安部 直美		
学科 コース	社会福祉科	学年	4年	授業 形態	演習	総単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
社会福祉を経済・宗教・政治・歴史・科学といった様々な観点から考察することにより、実践的かつ創造的なソーシャルワーク実践を行うための力を身につける。									
【学習内容】									
一方的な知識の伝達授業ではなく、教員-学生及び学生-学生の双方向の学びに焦点をあてた授業の展開となる。ゲストスピーカーをはじめ、関係機関の訪問、ディスカッション、プレゼンテーションを実施し学びを深め、福祉に限らない知識や視点を身につける。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
適宜、レジュメを配布					新聞やニュース、書籍等から自発的に情報収集し研鑽に努めること。				
コマ	授業計画								
1・2	【授業単元】								
	・オリエンテーション ・卒業研究活動								
	【到達目標】								
	発表会までの計画の作成、具体的行動計画の作成 卒業研究における修得 ①基礎知識 ②外部見学 ③ディスカッション など								
3・4	【授業単元】								
	・卒業研究活動								
	【到達目標】								
	卒業研究における修得 ①基礎知識 ②外部見学 ③ディスカッション など								
5・6	【授業単元】								
	・卒業研究活動								
	【到達目標】								
	卒業研究における修得 ①基礎知識 ②外部見学 ③ディスカッション など								
7・8	【授業単元】								
	・卒業研究活動								
	【到達目標】								
	卒業研究における修得 ①基礎知識 ②外部見学 ③ディスカッション など								
9・10	【授業単元】								
	・卒業研究活動								
	【到達目標】								
	卒業研究における修得 ①基礎知識 ②外部見学 ③ディスカッション など								
11・12	【授業単元】								
	・卒業研究活動								
	【到達目標】								
	卒業研究における修得 ①基礎知識 ②外部見学 ③ディスカッション など								
13・14	【授業単元】								
	・卒業研究活動								
	【到達目標】								
	卒業研究における修得 ①基礎知識 ②外部見学 ③ディスカッション など								
15	【授業単元】 ・卒業研究発表会				【成績評価の方法と基準】 6月初旬にゼミナール報告会を実施(外部会場) プレゼンテーションを通して、以下の観点から評価する。 ①卒業研究での学びや体験を言語化することができているか ②オーディエンスを意識したプレゼンテーションになっているか ③社会課題に対してソーシャルワークの視点が含まれているか 評価詳細に関しては、学則に準じる				
	【到達目標】 卒業研究発表会において、1年間自分が主体的に取り組んできたことを自分の言葉を使って発表することができる								
	【履修に当たっての心構え・留意点】 何かが提供されるのではなく、卒業研究では創り上げていくことがコンセプトとなります。主体的に学びたいテーマや関心を提案していくようにして いってください。								

授業概要

科目名	ソーシャルワーク特別演習Ⅲ	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年	担当 教員	安部 直美		
学科 コース	社会福祉科	学年	4年	授業の 方法	演習	単位数	6 単位	総時間数	180 時間
【授業を通じての到達目標】									
国家試験対策だけでなく、1年後の専門職として働くことができるよう心構えや気構え、姿勢といった点も身に着ける。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
国家試験対策においては、過去の状態試験および模擬試験等を活用し、実施していく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
適宜、模擬試験問題および解答解説を配布					国家試験を自分事として捉え、授業外の時間も主体的に学ぶこと。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 受験対策				9	【授業単元】 受験対策			
	【到達目標】 共通科目・社会専門科目・精神専門科目 各々が状況に合わせて国家試験勉強に取り組むことができる					【到達目標】 共通科目・社会専門科目・精神専門科目 各々が状況に合わせて国家試験勉強に取り組むことができる			
2	【授業単元】 受験対策				10	【授業単元】 受験対策			
	【到達目標】 共通科目・社会専門科目・精神専門科目 各々が状況に合わせて国家試験勉強に取り組むことができる					【到達目標】 共通科目・社会専門科目・精神専門科目 各々が状況に合わせて国家試験勉強に取り組むことができる			
3	【授業単元】 受験対策				11	【授業単元】 受験対策			
	【到達目標】 共通科目・社会専門科目・精神専門科目 各々が状況に合わせて国家試験勉強に取り組むことができる					【到達目標】 共通科目・社会専門科目・精神専門科目 各々が状況に合わせて国家試験勉強に取り組むことができる			
4	【授業単元】 受験対策				12	【授業単元】 受験対策			
	【到達目標】 共通科目・社会専門科目・精神専門科目 各々が状況に合わせて国家試験勉強に取り組むことができる					【到達目標】 共通科目・社会専門科目・精神専門科目 各々が状況に合わせて国家試験勉強に取り組むことができる			
5	【授業単元】 受験対策				13	【授業単元】 受験対策			
	【到達目標】 共通科目・社会専門科目・精神専門科目 各々が状況に合わせて国家試験勉強に取り組むことができる					【到達目標】 共通科目・社会専門科目・精神専門科目 各々が状況に合わせて国家試験勉強に取り組むことができる			
6	【授業単元】 受験対策				14	【授業単元】 受験対策			
	【到達目標】 共通科目・社会専門科目・精神専門科目 各々が状況に合わせて国家試験勉強に取り組むことができる					【到達目標】 共通科目・社会専門科目・精神専門科目 各々が状況に合わせて国家試験勉強に取り組むことができる			
7	【授業単元】 受験対策				15	【授業単元】 受験対策			
	【到達目標】 共通科目・社会専門科目・精神専門科目 各々が状況に合わせて国家試験勉強に取り組むことができる					【到達目標】 共通科目・社会専門科目・精神専門科目 各々が状況に合わせて国家試験勉強に取り組むことができる			
8	【授業単元】 受験対策				【成績評価の方法と基準】 ※1部分、非常勤の講師の先生の受験対策授業も併用する(別途シラバスあり) 模擬試験における結果をもとにした、学習計画の点検をもって評価する。 評価基準においては、以下を参考にすること。 ① 現実的な目標設定となっているか ② 計画に対して、具体的な機関や方法が記載されているか ③ 計画に対して、自己で振り返ることができ、自己評価ができる内容になっているか 上記内容を60点とし、授業出席(授業態度等)を40点にし、計100点での評価とする。				
	【到達目標】 共通科目・社会専門科目・精神専門科目 各々が状況に合わせて国家試験勉強に取り組むことができる								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
国家試験を自分事として捉え、授業外の時間も主体的に学ぶことを常に意識してください。									

授業概要

科目名	ソーシャルワーク特別演習Ⅳ	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年	担当 教員	安部 直美		
学科 コース	社会福祉科	学年	4年	授業の 方法	演習	単位数	4 単位	総時間数	105 時間
【授業を通じての到達目標】									
国家試験対策だけでなく、1年後の専門職として働くことができるよう心構えや気構え、姿勢といった点も身に着ける。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
国家試験対策においては、過去の国家試験および模擬試験等を活用し、実施していく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
適宜、模擬試験問題および解答解説を配布					国家試験を自分事として捉え、授業外の時間も主体的に学ぶこと。				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 受験対策			9	【授業単元】 受験対策				
	【到達目標】 共通科目・社会専門科目・精神専門科目 各々が状況に合わせて国家試験勉強に取り組むことができる				【到達目標】 共通科目・社会専門科目・精神専門科目 各々が状況に合わせて国家試験勉強に取り組むことができる				
2	【授業単元】 受験対策			10	【授業単元】 受験対策				
	【到達目標】 共通科目・社会専門科目・精神専門科目 各々が状況に合わせて国家試験勉強に取り組むことができる				【到達目標】 共通科目・社会専門科目・精神専門科目 各々が状況に合わせて国家試験勉強に取り組むことができる				
3	【授業単元】 受験対策			11	【授業単元】 受験対策				
	【到達目標】 共通科目・社会専門科目・精神専門科目 各々が状況に合わせて国家試験勉強に取り組むことができる				【到達目標】 共通科目・社会専門科目・精神専門科目 各々が状況に合わせて国家試験勉強に取り組むことができる				
4	【授業単元】 受験対策			12	【授業単元】 受験対策				
	【到達目標】 共通科目・社会専門科目・精神専門科目 各々が状況に合わせて国家試験勉強に取り組むことができる				【到達目標】 共通科目・社会専門科目・精神専門科目 各々が状況に合わせて国家試験勉強に取り組むことができる				
5	【授業単元】 受験対策			13	【授業単元】 受験対策				
	【到達目標】 共通科目・社会専門科目・精神専門科目 各々が状況に合わせて国家試験勉強に取り組むことができる				【到達目標】 共通科目・社会専門科目・精神専門科目 各々が状況に合わせて国家試験勉強に取り組むことができる				
6	【授業単元】 受験対策			14	【授業単元】 受験対策				
	【到達目標】 共通科目・社会専門科目・精神専門科目 各々が状況に合わせて国家試験勉強に取り組むことができる				【到達目標】 共通科目・社会専門科目・精神専門科目 各々が状況に合わせて国家試験勉強に取り組むことができる				
7	【授業単元】 受験対策			15	【授業単元】 受験対策				
	【到達目標】 共通科目・社会専門科目・精神専門科目 各々が状況に合わせて国家試験勉強に取り組むことができる				【到達目標】 共通科目・社会専門科目・精神専門科目 各々が状況に合わせて国家試験勉強に取り組むことができる				
8	【授業単元】 受験対策			【成績評価の方法と基準】					
	【到達目標】 共通科目・社会専門科目・精神専門科目 各々が状況に合わせて国家試験勉強に取り組むことができる			模擬試験における結果をもとにした、学習計画の点検をもって評価する。 評価基準においては、以下を参考にすること。 ① 現実的な目標設定となっているか ② 計画に対して、具体的な機関や方法が記載されているか ③ 計画に対して、自己で振り返ることができ、自己評価ができる内容になっているか 上記内容を60点とし、授業出席(授業態度等)を40点にし、計100点での評価とする。					
【履修に当たっての心構え・留意点】									
国家試験を自分事として捉え、授業外の時間も主体的に学ぶことを常に意識してください。									

授業概要

科目名	ソーシャルワーク特別講座Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年	担当 教員	安部 直美		
学科 コース	社会福祉科	学年	4年	授業の 方法	講義	単位数	6 単位	総時間数	90 時間
【授業を通じての到達目標】									
国家試験対策だけでなく、1年後の専門職として働くことができるよう心構えや気構え、姿勢といった点も身に着ける。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
国家試験対策においては、過去の国家試験および模擬試験等を活用し、実施していく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
適宜、模擬試験問題および解答解説を配布					国家試験を自分事として捉え、授業外の時間も主体的に学ぶこと。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 受験対策				9	【授業単元】 受験対策			
	【到達目標】 共通科目・社会専門科目・精神専門科目 各々が状況に合わせて国家試験勉強に取り組むことができる					【到達目標】 共通科目・社会専門科目・精神専門科目 各々が状況に合わせて国家試験勉強に取り組むことができる			
2	【授業単元】 受験対策				10	【授業単元】 受験対策			
	【到達目標】 共通科目・社会専門科目・精神専門科目 各々が状況に合わせて国家試験勉強に取り組むことができる					【到達目標】 共通科目・社会専門科目・精神専門科目 各々が状況に合わせて国家試験勉強に取り組むことができる			
3	【授業単元】 受験対策				11	【授業単元】 受験対策			
	【到達目標】 共通科目・社会専門科目・精神専門科目 各々が状況に合わせて国家試験勉強に取り組むことができる					【到達目標】 共通科目・社会専門科目・精神専門科目 各々が状況に合わせて国家試験勉強に取り組むことができる			
4	【授業単元】 受験対策				12	【授業単元】 受験対策			
	【到達目標】 共通科目・社会専門科目・精神専門科目 各々が状況に合わせて国家試験勉強に取り組むことができる					【到達目標】 共通科目・社会専門科目・精神専門科目 各々が状況に合わせて国家試験勉強に取り組むことができる			
5	【授業単元】 受験対策				13	【授業単元】 受験対策			
	【到達目標】 共通科目・社会専門科目・精神専門科目 各々が状況に合わせて国家試験勉強に取り組むことができる					【到達目標】 共通科目・社会専門科目・精神専門科目 各々が状況に合わせて国家試験勉強に取り組むことができる			
6	【授業単元】 受験対策				14	【授業単元】 受験対策			
	【到達目標】 共通科目・社会専門科目・精神専門科目 各々が状況に合わせて国家試験勉強に取り組むことができる					【到達目標】 共通科目・社会専門科目・精神専門科目 各々が状況に合わせて国家試験勉強に取り組むことができる			
7	【授業単元】 受験対策				15	【授業単元】 受験対策			
	【到達目標】 共通科目・社会専門科目・精神専門科目 各々が状況に合わせて国家試験勉強に取り組むことができる					【到達目標】 共通科目・社会専門科目・精神専門科目 各々が状況に合わせて国家試験勉強に取り組むことができる			
8	【授業単元】 受験対策				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 共通科目・社会専門科目・精神専門科目 各々が状況に合わせて国家試験勉強に取り組むことができる				模擬試験における結果をもとにした、学習計画の点検をもって評価する。 評価基準においては、以下を参考にすること。 ① 現実的な目標設定となっているか ② 計画に対して、具体的な機関や方法が記載されているか ③ 計画に対して、自己で振り返ることができ、自己評価ができる内容になっているか 上記内容を60点とし、授業出席(授業態度等)を40点にし、計100点での評価とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
国家試験を自分事として捉え、授業外の時間も主体的に学ぶことを常に意識してください。									

授 業 概 要

科目名	ソーシャルワーク特別講座Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年	担当 教員	安部 直美		
学科 コース	社会福祉科	学年	4年	授業の 方法	講義	単位数	5 単位	総時間数	75 時間
【授業を通じての到達目標】									
国家試験対策だけでなく、1年後の専門職として働くことができるよう心構えや気構え、姿勢といった点も身に着ける。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
国家試験対策においては、過去の国家試験および模擬試験等を活用し、実施していく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
適宜、模擬試験問題および解答解説を配布					国家試験を自分事として捉え、授業外の時間も主体的に学ぶこと。				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1・2・ 3・4	【授業単元】 力試し模試実施 5/21			31・ 32・ 33・ 34	【授業単元】 模擬試験実施 1/9				
	【到達目標】 模擬試験を体験してみる。現時点での自分の状況を認識できる。				【到達目標】 模擬試験を体験してみる。現時点での自分の状況を認識できる。				
5・6・ 7・8	【授業単元】 力試し模試フィードバック 5/22			35・ 36・ 37・ 38	【授業単元】 模擬試験実施 1/10				
	【到達目標】 模擬試験のフィードバック面談を通し、今後の自分の勉強の計画を立てることができる。				【到達目標】 模擬試験を体験してみる。現時点での自分の状況を認識できる。				
9・10	【授業単元】 卒業研究発表会リハーサル 6/4				【授業単元】				
	【到達目標】 卒業研究発表会にむけて、発表の準備をすることができる。				【到達目標】				
11・ 12・ 13・ 14	【授業単元】 模擬試験実施 10/17				【授業単元】				
	【到達目標】 模擬試験を体験してみる。現時点での自分の状況を認識できる。				【到達目標】				
15・ 16・ 17・ 18	【授業単元】 模擬試験実施 11/14				【授業単元】				
	【到達目標】 模擬試験を体験してみる。現時点での自分の状況を認識できる。				【到達目標】				
19・ 20・ 21・ 22	【授業単元】 模擬試験実施 11/15				【授業単元】				
	【到達目標】 模擬試験を体験してみる。現時点での自分の状況を認識できる。				【到達目標】				
23・ 24・ 25・ 26	【授業単元】 模擬試験実施 12/5				【授業単元】				
	【到達目標】 模擬試験を体験してみる。現時点での自分の状況を認識できる。				【到達目標】				
27・ 28・ 29・ 30	【授業単元】 模擬試験実施 12/6				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 模擬試験を体験してみる。現時点での自分の状況を認識できる。				模擬試験における結果をもとにした、学習計画の点検をもって評価する。 評価基準においては、以下を参考にすること。 ① 現実的な目標設定となっているか ② 計画に対して、具体的な機関や方法が記載されているか ③ 計画に対して、自己で振り返ることができ、自己評価ができる内容になっているか 上記内容を60点とし、授業出席(授業態度等)を40点にし、計100点での評価とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
国家試験を自分事として捉え、授業外の時間も主体的に学ぶことを常に意識してください。									

授 業 概 要

科目名	地域福祉応用実習指導	必修 選択の別	選択必修	開講 区分	後期	担当 教員	学科教員				
学科 コース	社会福祉科	学年	4年	授業の 方法	演習	単位数	3	単位	総時間数	90	時間
【授業を通じての到達目標】											
・ 応用実習の意義について理解する。 ・ 応用実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し実践的な技術を体得する。 ・ ソーシャルワーカーとして求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ・ 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する。											
【学習内容】（どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
社会福祉士としての実務経験が5年以上もしくは実習教員講習会を修了した教員が、集団および個別指導にて実習先における事前理解や実習終了後の現場体験を踏まえた総括等をおこなう。											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
実習要項						実習オリエンテーションに参加するとともに、実習先についての事前学習等、実習に向けた各自の学習が必要である。					
授業計画											
実習開始前と実習終了後に下記の内容にて実施する ・ 応用実習と応用実習指導における個別指導及び集団指導の意義 ・ 実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解 ・ 実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解 ・ 現場体験学習及び見学実習（実際の介護サービスの理解や各種サービスの利用体験等を含む。） ・ 実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解 ・ 実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解（個人情報保護法の理解を含む。） ・ 「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解 ・ 実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成 ・ 巡回指導 ・ 実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成 ・ 実習の評価全体総括会											
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
ソーシャルワーカーとしてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むための心がまえが求められる。						実習前試験(100点満点)の結果をふまえ、A～Eの6段階で評価する。					

授 業 概 要

科目名	地域福祉応用実習	必修 選択の別	選択必修	開講 区分	前・後期	担当 教員	学科教員				
学科 コース	社会福祉科	学年	4年	授業の 方法	実習	単位数	4	単位	総時間数	210	時間
【授業を通じての到達目標】											
・ 応用実習を通して、相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ实际的に理解し実践的な技術等を体得する。・ 応用実習を通して、精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握する。・ 相談職として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。・ 総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。											
【学習内容】（どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
実務経験がある学科教員が、実習中の取り組みについてフィードバックとスーパービジョンを行うなかで、実践を通して学んだ知識や経験を理論としてまとめる能力の涵養を行う。											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
実習要項						実習時間以外も実習日誌の記入や実習課題等に取り組むとともに、既習内容を復習し実習に生かしていく姿勢が必要である。					
授業計画											
以下の内容について、学生が考えた実習計画書に沿って、実習指導者による指導を受け理解を図る。											
★地域の障害福祉サービス事業を行う施設等											
次に掲げる事項をできる限り経験し、実習先の実習指導者による指導を受ける。											
・ 利用者やその関係者、施設・機関・事業者・団体住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成											
・ 利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成											
・ 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との支援関係の形成											
・ 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援（エンパワメントを含む。）とその評価											
・ 精神医療・保健・福祉に係る多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際											
・ 精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務への理解											
・ 施設・機関・事業者・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解											
・ 施設・機関・事業者・団体等の経営やサービスの管理運営の実際											
・ 当該実習先が地域社会の中の施設・機関・事業者・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーク、社会資源の活用・調整・開発に関する理解											
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
ソーシャルワーカーとしてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むとともに、主体的な姿勢でとりくむことが求められる。						学科教員による評価、自己評価を換算し、A～Eの6段階で評価する。					

授 業 概 要

科目名	権利擁護を支える法制度	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	上本昌昭		
学科 コース	社会福祉科	学年	4年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
・権利擁護とは何か、その必要性和活動の実際、ならびにそれを支える人権保障について理解している。 ・権利擁護の前提にある意思決定支援とは何か、それを行う上で遵守すべき事項について、各種ガイドラインに即して理解している。 ・権利擁護の際に必要な成年後見制度の利用手続きと後見人等の活動範囲について理解している。 ・行政不服審査や行政事件訴訟、各種消費者保護法制といった、権利侵害に対する救済制度と、その具体的利用手続きについて理解している。 ・各種の虐待防止や差別解消の仕組みなど、権利侵害を防止する仕組みについて理解している。									
【学習内容】（どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）									
大学や専門学校で基礎法学の教育に携わり、権利保障や紛争処理の仕組みについて研究する教員が、意思決定支援、成年後見制度、相談援助に必要な法制度の知識など、要支援者の権利を擁護できる力を身につけるための授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
・『権利擁護を支える法制度（第2版）』（中央法規） ・配布レジュメ、配付資料					各種の法律や制度を理解するには、まずその全体像をイメージできるようになることが重要である。そのために、各授業のテーマ（単元）を念頭におき、その内容が想起できる程度になるまで振り返る。その上で、授業で解いた問題は確実に解答できるように解き直しておくといよい。				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 科目ガイダンス 意思決定支援とは何か			9	【授業単元】 行政救済の仕組み① －行政行為（処分）－				
	【到達目標】 ・なぜSWに権利擁護の理解が必要となるのかを説明できる。 ・「支援付意思決定」と「代理代行決定」の違いを説明できる。 ・意思決定支援に関する各種指針の内容を理解している。				【到達目標】 ・行政行為（処分）とは何か説明できる。 ・裁量行為と司法審査の関係について理解する。 ・行政救済制度の全体像を理解する。				
2	【授業単元】 要支援者の権利 －支援者の義務－			10	【授業単元】 行政救済の仕組み② －行政訴訟－				
	【到達目標】 ・憲法の「個人の尊重」原理と人格権について説明できる。 ・憲法が保障する各種自由とそれに関連する判例を想起できる。 ・要支援者の自己決定権とプライバシー権の保障を説明できる。				【到達目標】 ・審査請求とは何か説明できる。 ・審査請求前置主義をふまえて救済手続きの流れを説明できる。 ・行政事件訴訟の訴訟類型を説明できる。				
3	【授業単元】 要支援者の生活保障 －社会保障制度の法的根拠－			11	【授業単元】 取引上の保護の仕組み① －契約－				
	【到達目標】 ・生存権の意義と社会保障制度との関連性について説明できる。 ・朝日訴訟と堀木訴訟の違いと最高裁判決の内容を説明できる。 ・「権利能力」「意思能力」「行為能力」の違いを説明できる。				【到達目標】 ・契約の成立要件を理解し、各種の契約の特徴を列挙できる。				
4	【授業単元】 ケアの担い手たる親族関係			12	【授業単元】 取引上の保護の仕組み② －民事救済の方法－				
	【到達目標】 ・婚姻と離婚による親族関係の伸縮の仕組みを説明できる。 ・親子関係の形成、親権の帰属の仕組みを説明できる。 ・遺言と法定相続を理解した上で相続割合を計算できる。				【到達目標】 ・消費者契約法と特定商取引法による救済方法を説明できる。 ・詐欺、強迫、錯誤といった民法による救済方法を説明できる。 ・意思無能力無効の法理を理解している。				
5	【授業単元】 こどもの権利擁護 －こどものアドボカシー－			13	【授業単元】 権利侵害防止の仕組み① －民事責任の追及－				
	【到達目標】 ・こどもの法的位置づけと権利条約の基本原則を説明できる。 ・親子の分離禁止と社会的養護等へつなく手続きを説明できる。 ・意見聴取等措置と意見表明等支援員の仕組みを説明できる。				【到達目標】 ・債務不履行、不法行為など民事責任追及の方法を説明できる。 ・行政と民事の救済方法と苦情解決の仕組みを理解している。				
6	【授業単元】 成年後見制度① －大人のアドボカシー－			14	【授業単元】 権利侵害防止の仕組み② －虐待・暴力・差別の防止－				
	【到達目標】 ・法定後見の各類型の対象とその権限の違いを説明できる。 ・法定後見の申立てと辞任・解任の手続きについて説明できる。 ・任意後見が開始されるまでの手続きについて説明できる。				【到達目標】 ・各種の虐待や暴力を防止する仕組みについて理解している。 ・差別解消の仕組みなど権利侵害防止の仕組みを理解している。				
7	【授業単元】 成年後見制度② －日常生活自立支援事業－			15	【授業単元】 定期テスト				
	【到達目標】 ・『概況』の内容と成年後見制度が抱える課題を説明できる。 ・日常生活自立支援事業の利用手続きと事業内容を説明できる。 ・成年後見制度利用支援事業の内容を説明できる。				【到達目標】 ・学習したことを振り返り、全体像をイメージできる。 ・知識が不足している部分、理解が足りない事項を確認する。 ・定期試験の解答解説を通じて、学習内容を振り返る。				
8	【授業単元】 中間テスト			【成績評価の方法と基準】					
	【到達目標】 ・これまでの内容を振り返り、試験を通じて知識を整理する。 ・民法改正（親族関係、成年後見関係等）の動向を想起できる。			科目の評価は、筆記試験で行う。筆記試験は、授業内で扱った内容の理解や定着を確認するものである。 各回の授業で5点満点の小テストを実施する（第8回のみは15点満点）。その上で、成績は、小テストの合計点に1/2を乗じた点数（40点満点：小数点以下は切り上げ）と定期試験（60点満点）を合算した100点満点で、AからFの6段階で評価を行う。					
【履修に当たっての心構え・留意点】									
授業ではメモの労はいわず、配布したレジュメ・資料は整理して、授業後に見直せるようにしておくこと。理解の放棄や放置のツケは、必ず後から支払われる！特に国家試験まで時間的余裕がある場合には理解がおろそかになりがちだが、諦めずに取り組んでもらいたい。									

授 業 概 要

科目名	ソーシャルワーク演習（精神専門）Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	根本典子／安部 直美		
学科 コース	社会福祉科	学年	4年	授業 形態	演習	総単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
①精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎を獲得する。②精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようになる。③精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるようになる。④精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるようになる。⑤精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義を理解できる。									
【学習内容】									
医療・障害・高齢分野にてソーシャルワークを実践してきた教員とともに、上記の目標を達成できるよう精神保健福祉士に求められる相談援助に係る基礎的な知識と技術を事例検討やロールプレイを実践的にしながら習得する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
適宜、レジュメを配布					他科目で学んだ内容を演習授業にて多角的に体现できるよう、ソーシャルワーカーに必要な基礎知識を復習し、実際に活用できるようにする。				
コマ	授業計画								
1・2	【授業単元】								
	・オリエンテーション ・演習の意義 ・主な精神疾患の理解								
	【到達目標】 精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎を獲得する。								
3・4	【授業単元】								
	・主な精神疾患の理解（ロールプレイ）								
	【到達目標】 精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎を獲得する。								
5・6	【授業単元】								
	・精神障害者に対する相談援助の理解（ミクロ・メゾ） ・様々なアプローチモデルの理解 ※行動変容アプローチ、危機介入アプローチ、エンパワメント・アプローチ、ストレスコーピング、ナラティブ・アプローチ、パーソン・センタード・アプローチ、ソーシャルアクション・アプローチなど								
	【到達目標】 精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようになる。								
7・8	【授業単元】								
	・福祉サービス等（フォーマルサービス）の利用支援（ロールプレイ）								
	【到達目標】 精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようになる。								
9・10	【授業単元】								
	・実習の振り返り ・実技試験準備								
	【到達目標】 精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるようになる。								
11・12	【授業単元】								
	・実技試験準備（メゾ）								
	【到達目標】 精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるようになる。								
13・14	【授業単元】								
	・定期試験（実技試験）								
	【到達目標】 精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義を理解できる。								
15	【授業単元】 演習まとめ				【成績評価の方法と基準】 ・定期試験を100点満点で採点し、A～Fの6段階で評価する。 ・試験は実技試験で評価する。				
	【到達目標】 今回の医療機関での実習を踏まえて、施設実習に向けての課題を抽出し目標を設定する。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									

授 業 概 要

科目名	ソーシャルワーク実習指導（精神）	必修 選択の別	選択必修	開講 区分	前・後期	担当 教員	学科教員				
学科 コース	社会福祉科	学年	4年	授業の 方法	演習	単位数	3	単位	総時間数	90	時間
【授業を通じての到達目標】											
・精神保健福祉援助実習の意義について理解する。 ・精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。 ・精神保健福祉援助実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。 ・精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ・具体的な体験や援助活動を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。											
【学習内容】（どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
精神保健福祉士としての実務経験が5年以上もしくは実習教員講習会を修了した教員が、集団および個別指導にて実習先における事前理解や実習終了後の現場体験を踏まえた総括等をおこなう。											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
実習要項 精神保健福祉士指定科目 各教科書						実習オリエンテーションに参加するとともに、実習先についての事前学習等、実習に向けた各自の学習が必要である。					
授業計画											
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]											
実習開始前と実習終了後に下記の内容にて実施する											
・ 精神保健福祉援助実習と精神保健福祉援助実習指導における個別指導及び集団指導の意義 ・ 精神保健医療福祉の現状（利用者理解を含む）に関する基本的な理解 ・ 実際に実習を行う施設・機関・事業者・団体・地域社会等に関する基本的な理解 ・ 現場体験学習及び見学実習 ・ 実習先で必要とされる精神保健福祉援助に係る専門的知識と技術に関する理解 ・ 精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解 ・ 実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解（個人情報保護法の理解を含む） ・ 「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解 ・ 実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成 ・ 巡回指導（訪問指導、スーパービジョン） ・ 実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成 ・ 実習の評価全体総括会											
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
ソーシャルワーカーとしてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むための心がまえが求められる。						実習前試験の結果をふまえ、A～Eの6段階で評価する。					

授 業 概 要

科目名	ソーシャルワーク実習（精神）	必修 選択の別	選択必修	開講 区分	前・後期	担当 教員	学科教員				
学科 コース	社会福祉科	学年	4年	授業の 方法	実習	単位数	4	単位	総時間数	210	時間
【授業を通じての到達目標】											
・精神保健福祉援助実習を通して、精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。・精神保健福祉援助実習を通して、精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握する。・精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。・総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。											
【学習内容】（どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
精神保健福祉士としての実務経験が3年以上かつ実習指導者講習会を修了した実習担当者が、相談援助実習担当教員の巡回指導と合わせ、実習中の取り組みについてフィードバックとスーパービジョンを行うなかで、実践を通して学んだ知識や経験を理論としてまとめる能力の涵養を行う。											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
実習要項 精神保健福祉士指定科目 各教科書						実習時間以外も実習日誌の記入や実習課題等に取り組むとともに、既習内容を復習し実習に生かしていく姿勢が必要である。					
授業計画											
以下の内容について、各実習施設における実習計画書に沿って、実習指導者による指導を受け理解を図る。											
1. 精神科病院等の病院 患者への個別支援を経験するとともに、次に掲げる事項を経験し、実習先の実習指導者による指導を受ける。 ・入院時又は急性期の患者及びその家族への相談援助 ・退院又は地域移行・地域支援に向けた、患者及びその家族への相談援助 ・多職種や病院外の関係機関との連携を通じた援助											
2. 精神科診療所 患者への個別支援を経験するとともに、次に掲げる事項を経験し、実習先の実習指導者による指導を受ける。 ・治療中の患者及びその家族への相談援助 ・日常生活や社会生活上の問題に関する、患者及びその家族への相談援助 ・地域の精神科病院や関係機関との連携を通じた援助											
3. 地域の障害福祉サービス事業を行う施設等・精神科病院等の医療機関 次に掲げる事項をできる限り経験し、実習先の実習指導者による指導を受ける。 ・利用者やその関係者、施設・機関・事業者・団体住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成 ・利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成 ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との支援関係の形成 ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援（エンパワメントを含む。）とその評価 ・精神医療・保健・福祉に係る多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際 ・精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務への理解 ・施設・機関・事業者・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解 ・施設・機関・事業者・団体等の経営やサービスの管理運営の実際											
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
ソーシャルワーカーとしてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むとともに、主体的な姿勢でとりくむことが求められる。						実習指導者による評価、実習巡回教員による評価、自己評価を換算し、A～Eの6段階で評価する。					